

平成 22 年度  
愛知県多文化共生コミュニティ状況等実態調査  
報告書

平成 23 年 3 月  
愛知県

## 目次

I. 事業概要	2
1. 目的	2
2. 調査対象	2
3. 調査方法	3
4. 調査期間	3
II. 調査結果	5
1. 飲食店	5
2. 販売店	16
3. 自助組織	30
4. 教育施設	42
5. 宗教施設	51
6. 娯楽・教養施設	60
7. その他	72
III. 外国人コミュニティフェア 2011	76
1. 目的・イベント概要	76
2. 出展団体	76
3. 内容	77
4. 実施状況	78
IV. まとめ	82
<b>コラム</b>	
1. ZICIOFE（名古屋市中区） p. 28	2. PECLA（豊川市） p. 40
3. アカデミア・ガッハ（碧南市） p. 71	4. あかばねひらがなの会（田原市） p. 74
5. せとマダン（瀬戸市） p. 75	
資料編	84

## I. 調査概要

### 1. 目的

多文化共生コミュニティづくりの推進のためには、日本人県民と外国人県民の相互理解が不可欠であるが、外国人県民が集まって住んでいる地域や集まって活動している場（以下、「外国人コミュニティ」という）の状況が日本人県民からは見えにくく、そのことが相互理解を妨げている要因の一つであると考えられる。

そのため、愛知県が市町村に対して事前に実施した外国人県民が集まって住んでいる地域の調査及び平成21年度に実施した「愛知県の多文化共生に関する県民意識調査」（以下、「事前調査等」という）を参考に、外国人コミュニティの状況や課題を調査し、外国人県民に対する支援や多文化共生を推進するための基礎資料とするとともに、日本人県民に対して外国人コミュニティの理解を深めてもらうための普及啓発資料を作成する。

### 2. 調査対象

#### ◆調査地

地域	都市
尾張	名古屋市中区・港区、小牧市、瀬戸市
西三河	豊田市、碧南市、西尾市
東三河	豊橋市、豊川市、田原市

#### [選定理由]

- ・尾張・西三河・東三河から各3都市を選定
- ・愛知県外国人登録者の国籍より、ブラジルを中心に、中国、韓国・朝鮮、フィリピン、ペルーの多い都市を選定
- ・事前調査結果（5月20日の本事業説明会配布資料）等より、外国人コミュニティの存在がある程度把握されている地域を中心に、新たに把握を試みたい地域を選定
- ・調査結果をもとに作成した啓発資料を見た日本人県民が、実際に外国人コミュニティの活動にかかわれるよう、公共交通手段によるアクセスが比較的良い都市を選定

#### ◆調査対象

飲食店、販売店、自助組織、教育施設、宗教施設、娯楽・教養施設、等

### 3. 調査方法

#### ◆アンケート調査

調査地関係者および専門家（当団体の理事、研究者等）の協力を得て、調査コーディネーターと調査員（いずれも新規雇用者）への事前研修を行ったうえで、以下の調査を実施する。

#### ◆インタビュー調査

各調査対象者に、上記のような質問項目をもとに半構造インタビューを行う。その際、施設や対象者の写真と合わせて、可能な範囲で最終的な調査報告書および、日本人への啓発資料への掲載許可を得る。

#### ◆参与観察

許可が得られた調査対象（自助組織、宗教施設等）に調査員がボランティアスタッフとして参加する。可能な範囲で活動に加わり、インタビューからは把握できなかった状況や課題、他機関・団体や地域社会との関係性等の把握を試みる。

調査結果は、外国人コミュニティのカテゴリ別（自助組織、教育施設、商業施設等）に整理し、報告書にまとめる。

### 4. 調査期間

2010年10月21日～2011年2月25日

## II. 調査結果

### 1. 飲食店

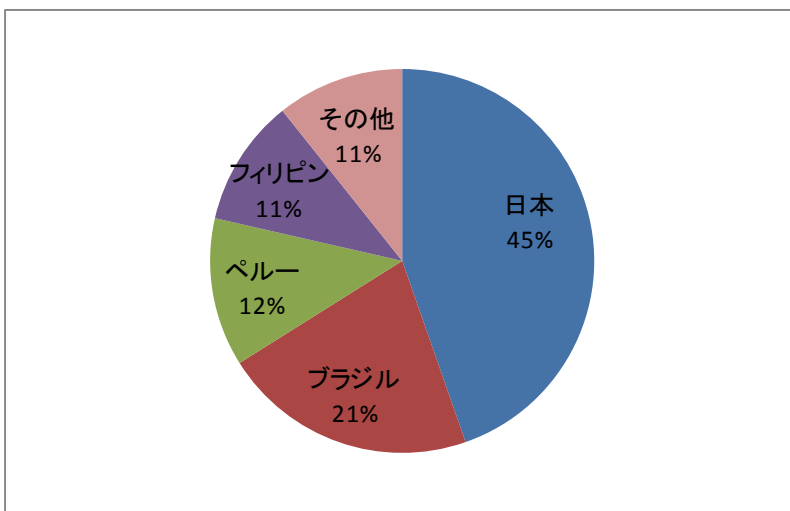
調査協力者 30 件

内訳：ブラジル7，中国5，日本3，フィリピン・ペルー2，朝鮮・韓国1

その他 10（ネパール4，インド2，イタリア・タイ・シリア・コロンビア1）

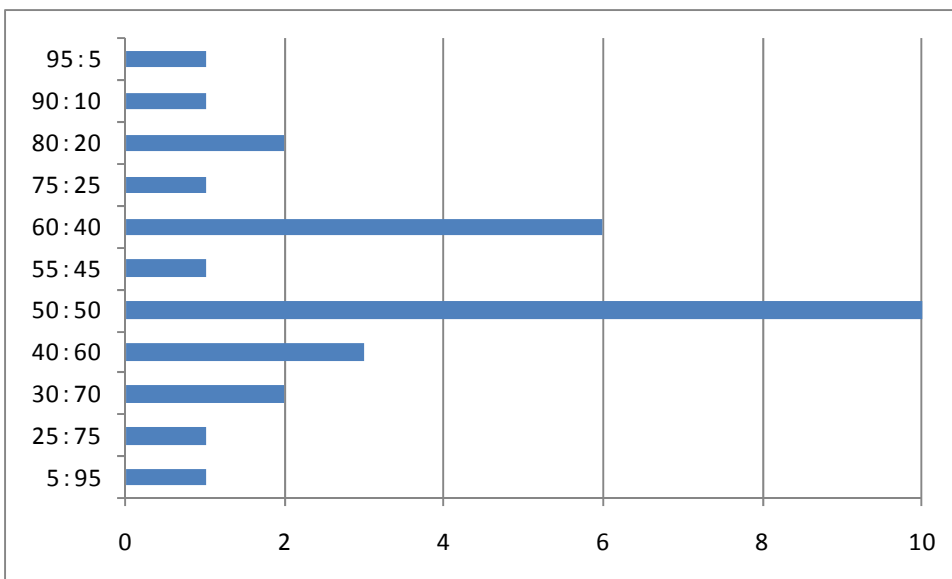
#### ◆利用客のうち、もっとも多い国籍

利用客のうち、約半数を日本人客が占めている。



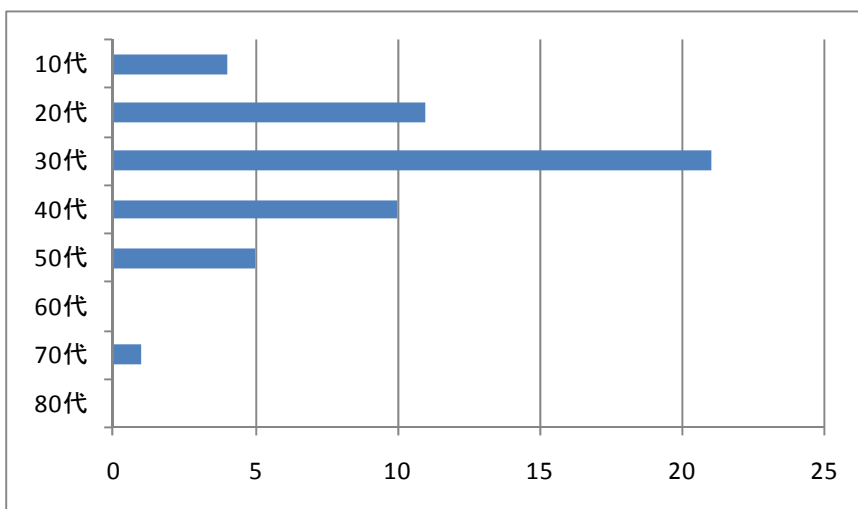
#### ◆利用客の男女比

男女比はほぼ同程度である。



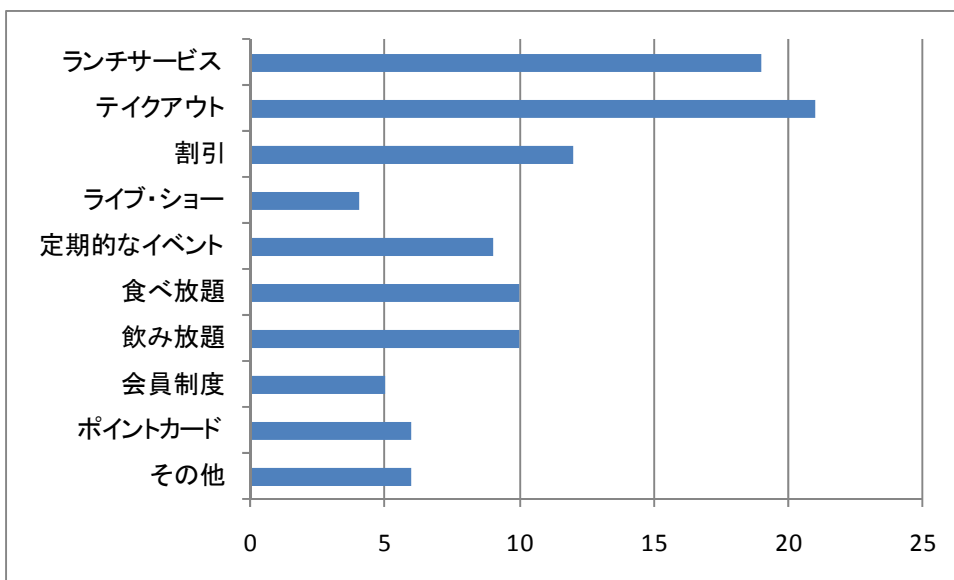
◆利用客のうち、もっとも多い年齢層

30代の利用者がもっとも多く、20~40代で全体の8割を占めている。



◆行っているサービス

全体の2/3が「ランチサービス」や「テイクアウト」を行っている。「その他」には、バイキング（ビュッフェ）や弁当の配達、クリスマスイベント等があった。



◆経営上の喜び・やりがい

<アンケートより>

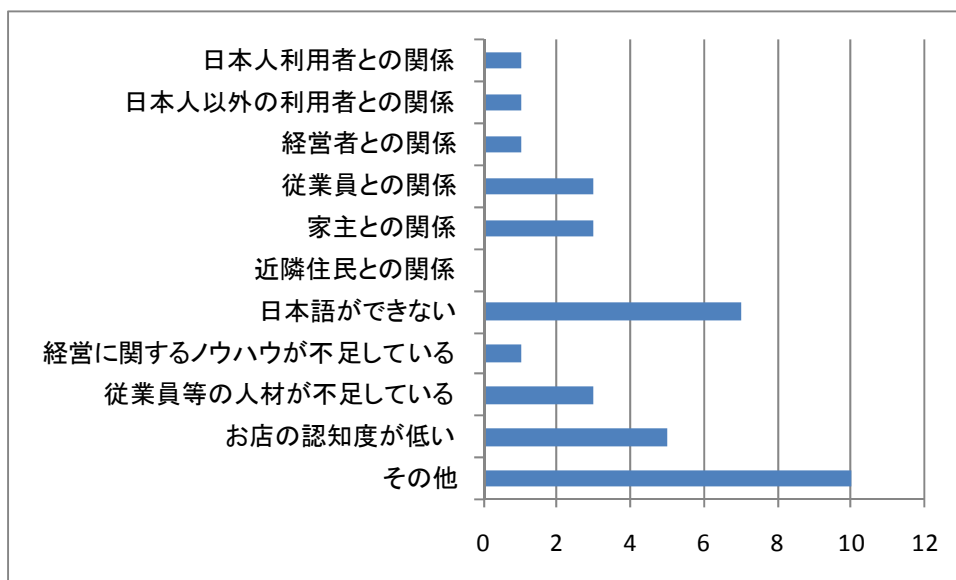
- ・お客様との会話。
- ・お客様が楽しんでくれる時、仕事に対してもやる気がでる。お客様たちが自分たちを応援してくれると嬉しい。
- ・多くのお客様が来たときには嬉しい。お客様がいないと寂しく、悲しい気持ちになる。しかし、キッチンの中では毎日をともに過ごし、家の内外での日々の幸せを共有できるスタッフと準備できることが楽しい。
- ・ワイン好きなので、人に教えることができること。日本にイタリアの文化をもっと理解してもらいたい。
- ・このお店が国際的であること。色々な人々と話すことができること。
- ・お客様が自分がおすすめをしたものを頼んだ時。売上が上がった時。

<インタビューより>

- ・従業員がお客様と仲良くなったことで業務に対するモチベーションが上がり、やりがいを持って取り組んでくれていること。
- ・お客様が新しいお客様を連れてきてくれること。
- ・母国の料理を多くの人に知ってもらえること。
- ・同胞にとってリラックスできる場であること。
- ・外国人として、日本において自分の国の料理店を経営していること。
- ・新しい人と出会えたり、新しい外国人の知り合いが増えたりすること。
- ・日本人だけでなく、外国人のお客様が来てくれた時はうれしい。
- ・友人がいなくては私たちは何もできないので、この店が友人もお客様も料理でもてなしで迎え入れられること。
- ・友人たちの口コミ宣伝のおかげで店を存続できていること。

◆経営上の困難・トラブルとその対処方法（複数回答可）

「日本語ができない」「お店の認知度が低い」ことを課題に感じる店が多かった。「その他」には、日本人客は一人で来店することを恐れている、仕事中に子どもを預ける場所がない等の意見があったが、特に問題はないという回答も多かった。



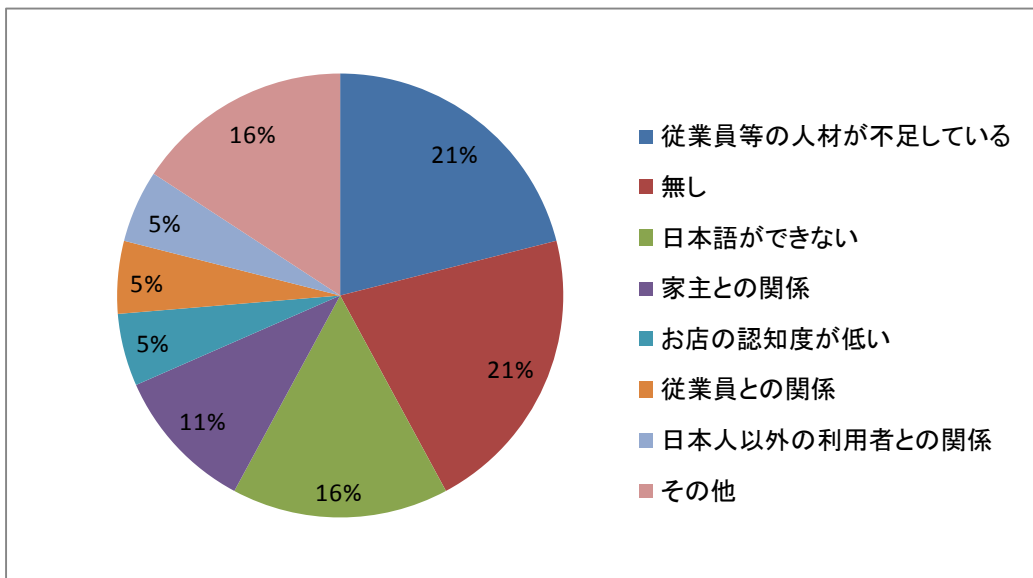
<インタビューより>

- ・日本人にもブラジル人にもおいしいブラジル料理をつくるのが難しい。
- ・不況時に経営者が何度も変わって、お客様からの信頼が薄れたこと。
- ・最初は外国人として慣れない環境に戸惑った。現在も同じだが、言葉の壁（日本語力）も感じた。
- ・在留期限が短いこと。
- ・経営者との交流が少なく、接客について情報交換をすることができない。
- ・周りの住民が祭りに参加しているが、その知らせは店には来ない。情報が少ない。
- ・店を始めた時は、税金のことがわからず苦労した。
- ・年配の方は、外国の店で日本語が通じないと思い込んで店に入ることをためらうことがある。
- ・ブラジル人の住んでいる環境に日本人を連れてくること。



◆特に困っていること

上記のうち、「従業員等の人材が不足している」ことを大きな課題と認識していた。

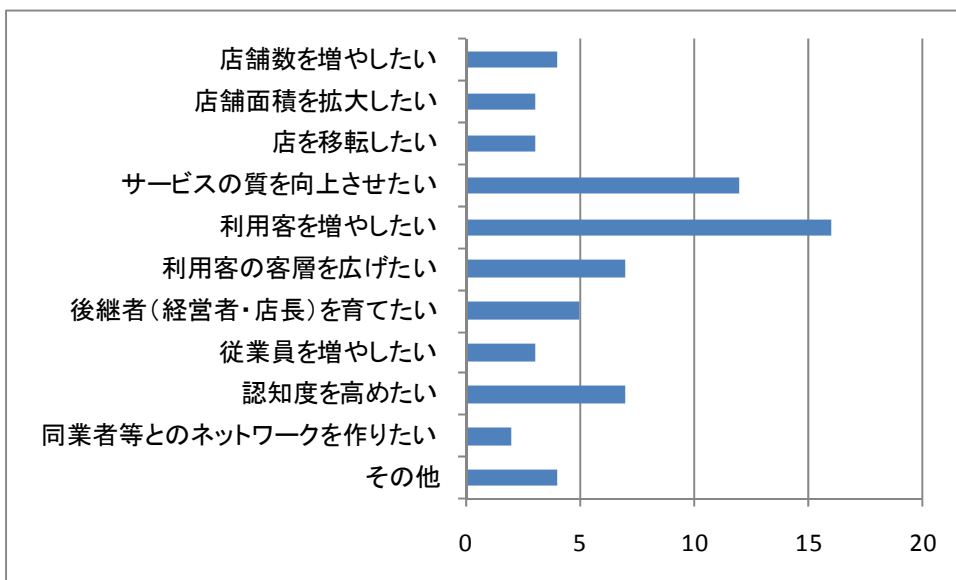


[対処方法]

- ・家賃の値下げ交渉をする。
- ・日本人に恐れる必要はないことを理解してもらう。
- ・主人は日本語も他の言語も話すことができるため、主人に説明してもらうようお願いする。なぜならば、主人は私より多くの経験を積んでいるから。
- ・何か専門的な経験がある人が働きに来てもらえれば良いと思う。
- ・時間があったら、日本語の勉強をする。(実際時間がなく、あまりできない。)
- ・定期的にイベントを開催する。例えば、平日午後5時から7時まで飲み物を半額にする、3~4ヶ月に1回感謝デーを開催する、生ビールを1杯100円にする、内モンゴル火鍋980円を1人前、2人前から注文できる等。
- ・日本語で書いたり話したりすることができない。この飲食店でよく使う専門語なら大丈夫だが、他の話ができない。自分で本を読んだり、まわりの人と話たりすることで日本語能力をアップしようと心がけている。
- ・人が足りない分、多く働く。
- ・店と関係のある単語ならなんとなくわかるが、お客様がほかのことを言った時は全然わからないので、とても困っている。独学している。

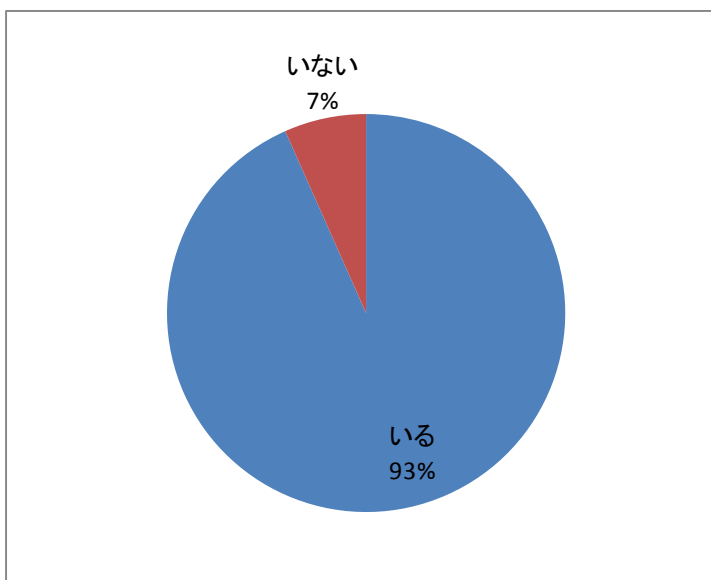
◆今後の経営方針等について（複数回答可）

約半数の店が「利用客を増やしたい」と「サービスの質を向上させたい」と回答した。



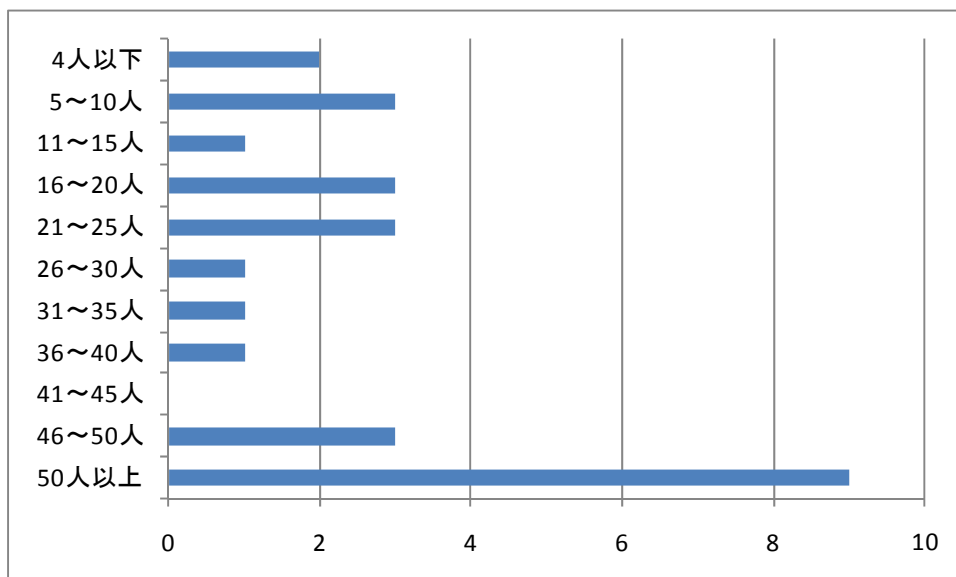
◆日本人利用者の有無

ほとんどの店が日本人利用客が「いる」と答えた。



#### ◆一日の日本人平均利用者数

約 1/3 の店が、一日の日本人平均利用者数を「50 人以上」と答えた。



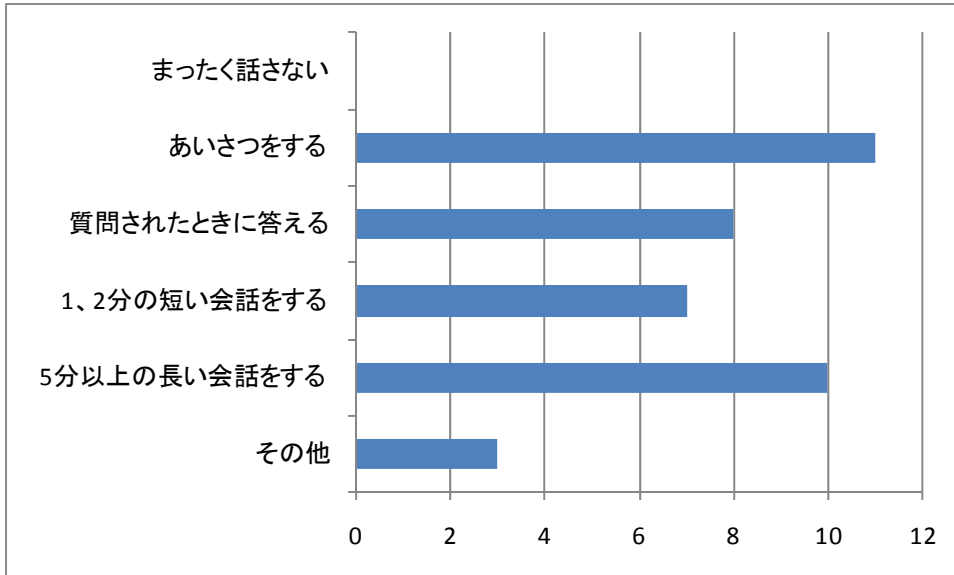
#### <インタビュー>

##### 日本人の利用の拡大について

- ・日本人が行くブラジル料理の食べられるレストランは少ないので、日本人のお客を増やしたい。
- ・日本にいるから日本人をお客様にしたい。
- ・日本人のお客様が来てくれれば、彼らから日本文化についていろいろ学ぶことができるから、日本人の利用を増やしたい。
- ・日本人のお客様はもちろん、日本人のスタッフも増やしたい。
- ・日本人のサラリーマン向けのイベントをやっている。
- ・日本人のお客様を通じて、そのお客様の子どもなども外国人と仲良くしてほしい。
- ・今日、同胞や外国人への営業だけでは続けられない。営業を続けられるかどうかは日本人のお客様を増やせるかどうかにかかっている。日本人のお客様は大歓迎。

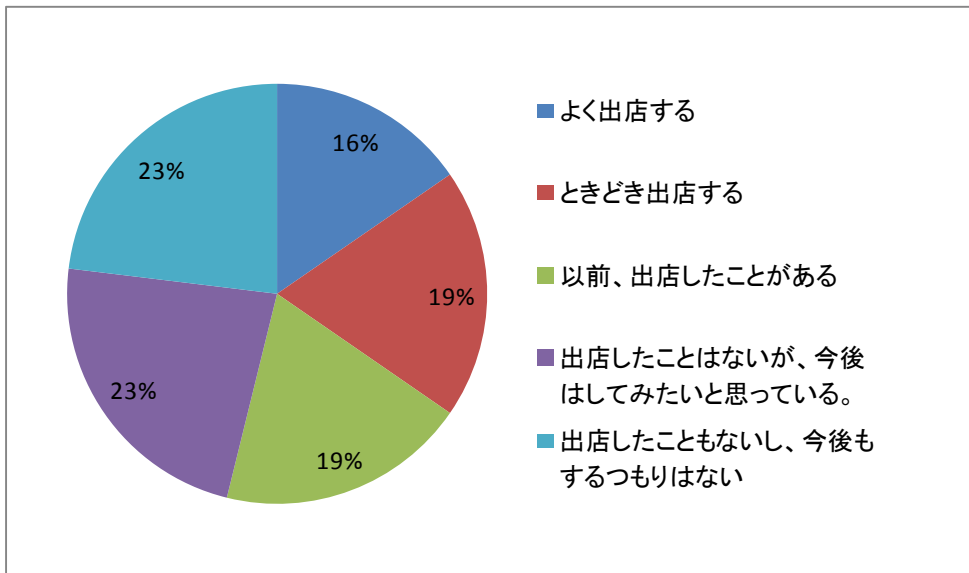
◆日本人利用者への接し方

「あいさつをする」「5分以上の長い話をする」と答えた店が多かった。「その他」には、（お客様が）話したそうだったら話しかける、夜だと長い会話をする等の意見があった。



◆地域の祭りやイベントへの出店

過去に出店経験のある店が半数以上であった。「今後も（出店）するつもりはない」と答えた理由として、店が忙しいので出店できない等の意見があった。



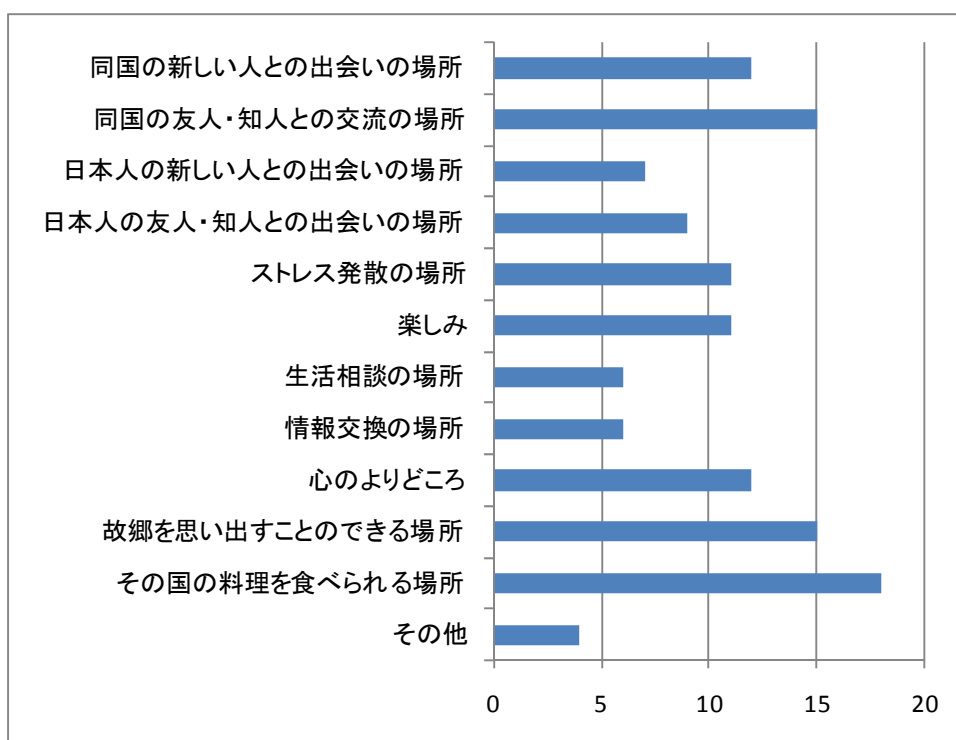
<インタビューより>

地域社会との関わりについて

- ・地域で文化祭やセミナーなどを開催して、お互いの文化や習慣について知り合えたらすばらしい。また、そのようなイベントを通して新しい出会いにつなげていきたい。
- ・仲良くしたい。
- ・昔は他の店等との関係やネットワークをまったく持っていなかったなので、困ったときに助けてくれる人がおらず大変だった。今は、たくさんのネットワークができて、お互いに助け合うことができ、とても助かっている。その関係を大事にしている。
- ・近所の人たちから応援してもらっている。
- ・交流会等があれば参加したい。

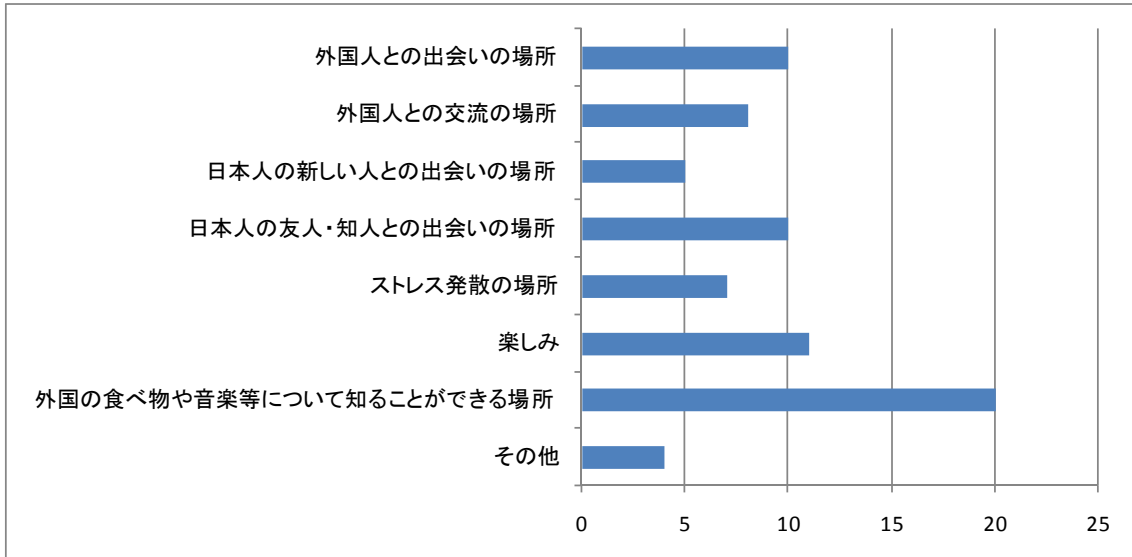
◆外国人住民にとっての存在意義（複数回答可）

どの店も、単に飲食するだけの場所ではなく、人の交流やストレス発散、生活相談等さまざまな存在意義があると答えた。



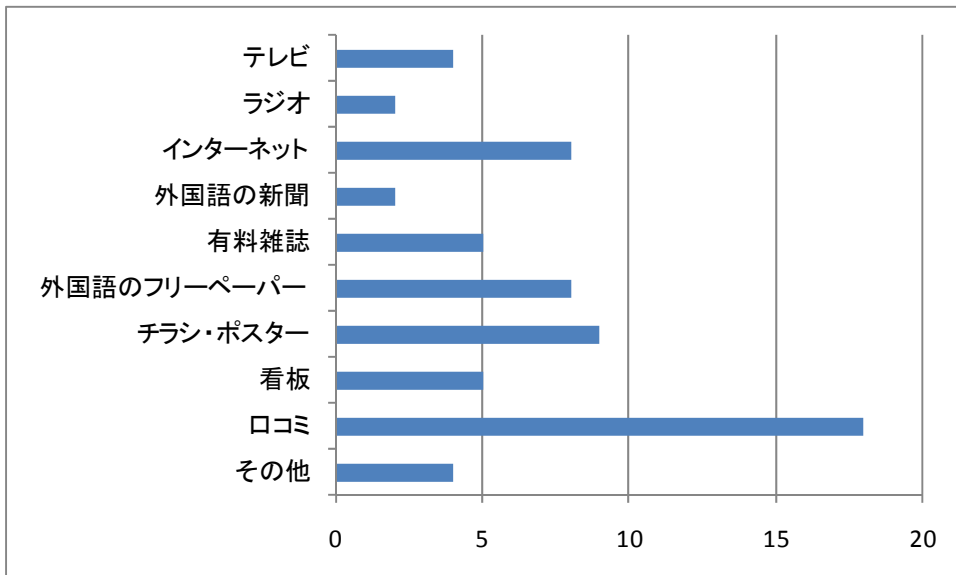
◆日本人住民にとっての存在意義（複数回答可）

日本人住民にとっては「外国の食べ物や音楽等について知ることができる場所」であるという認識をしているところが多かった。



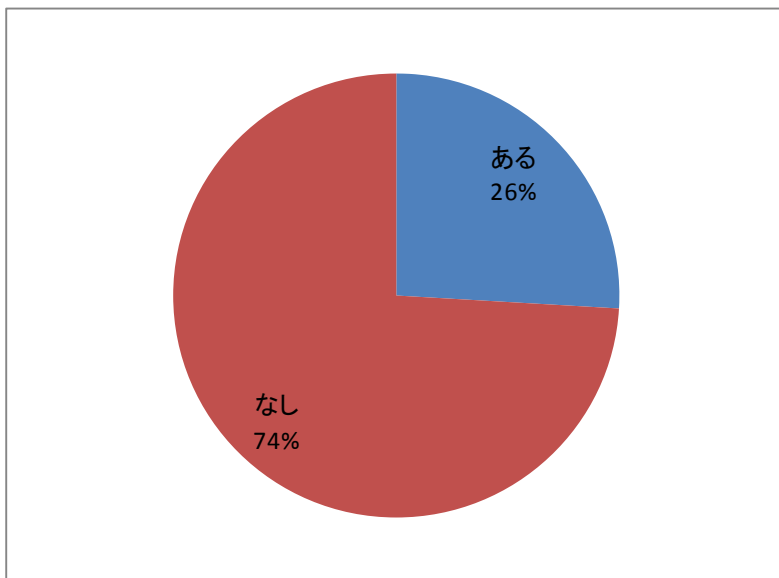
◆情報発信

「口コミ」による情報発信がもっとも多かった。また、インターネットやフリーペーパー等、母語による情報発信が中心であった。



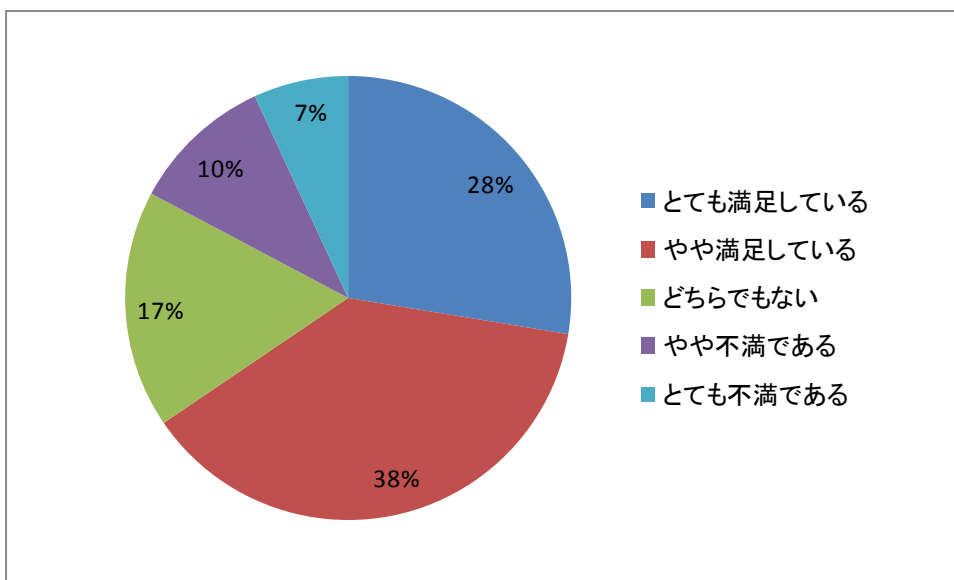
◆ホームページの有無

ホームページをもっているのは、27店中7店であった。



◆最近の経営状況について

約2/3の店が経営状況に満足感を感じていた。



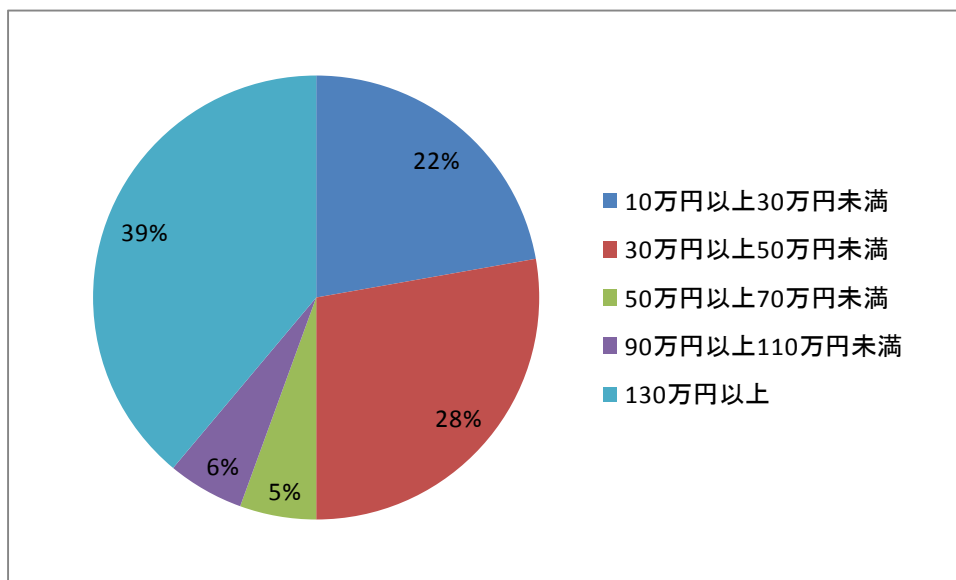
<インタビューより>

今後の目標について

- ・ NPO の協力を得て、パーティーや祭りなど子ども向けのイベントをやりたい。
- ・ お店にお客様を呼ぶためにもっと宣伝したい。

◆月の平均売上

50万円未満が5割、130万円以上が4割と分かれた。



飲食店においては、日本人利用者がいると回答した店が90%を超え、利用者でもっとも多い国籍が日本であると回答した飲食店が約半数であったが、その多くは今後も日本人利用者を増やしたいと望んでいた。また、地域のイベントに過去に参加したり、今後参加してみたいと考えている店が80%と、地域社会とのつながりを持ちたいと考えている飲食店が多くみられた。



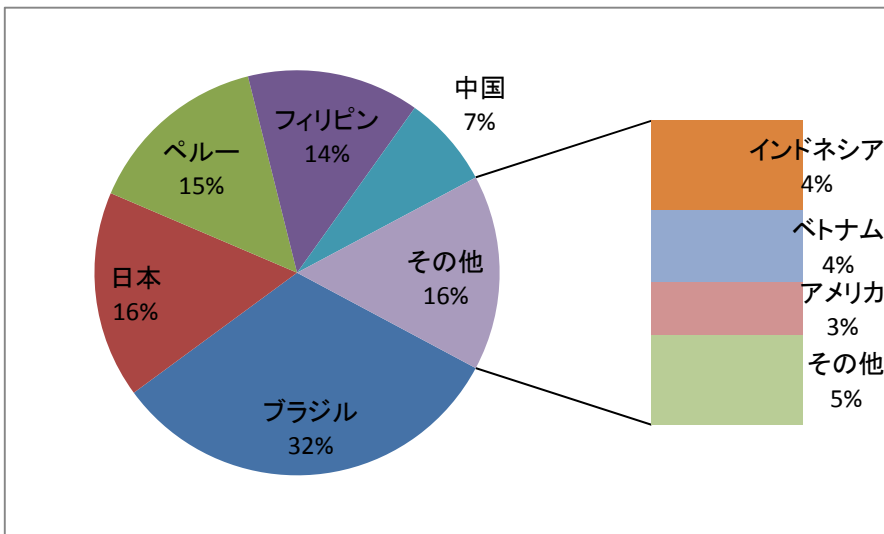
## 2. 販売店

調査協力者 52 件

内訳：ブラジル 32，日本 5，中国・ペルー 3，フィリピン・ベトナム 2，朝鮮・韓国 1  
その他 4（ナイジェリア・メキシコ・ウガンダ・タイ 1）

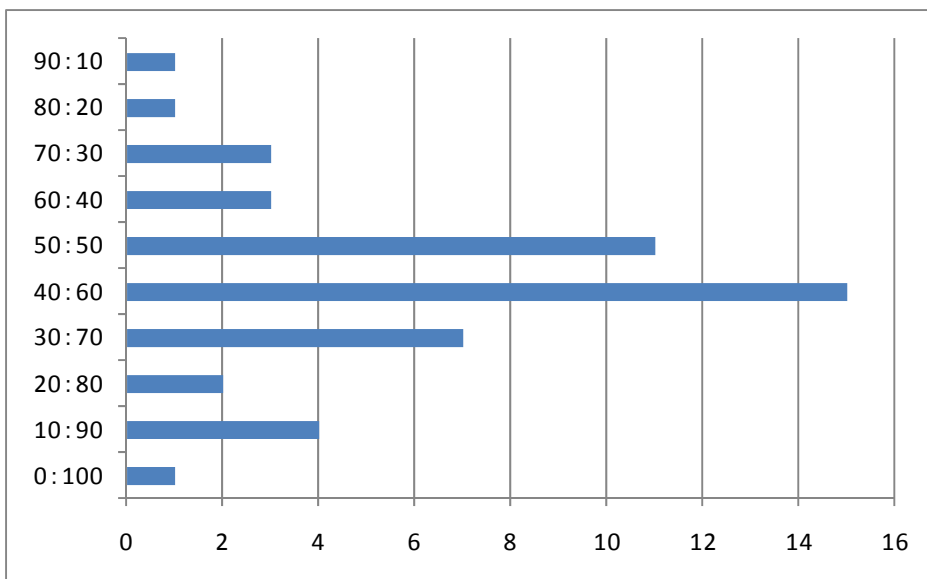
### ◆利用客のうち、もっとも多い国籍

利用客のうち、8割以上が外国人利用客である。



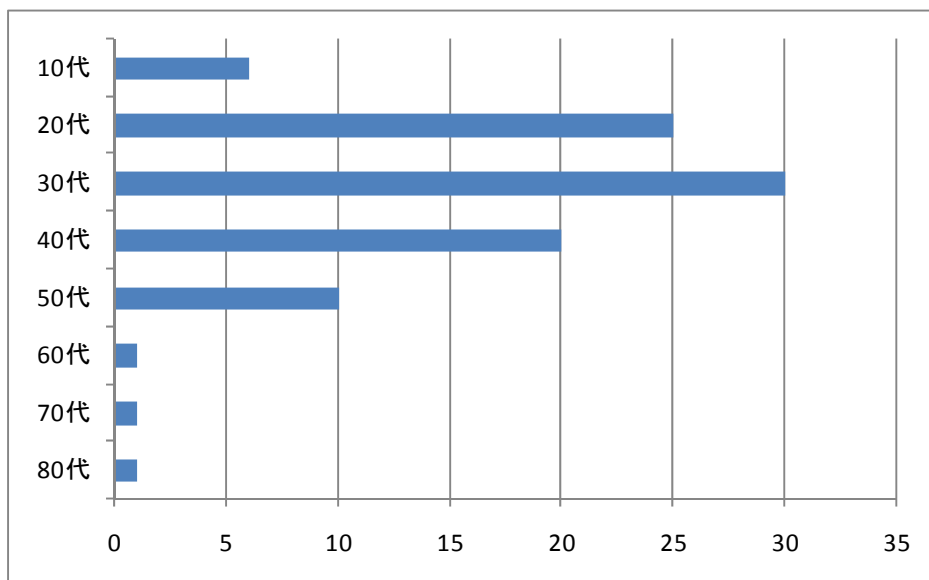
### ◆利用客の男女比

男性に比べ女性の利用が、やや多い。



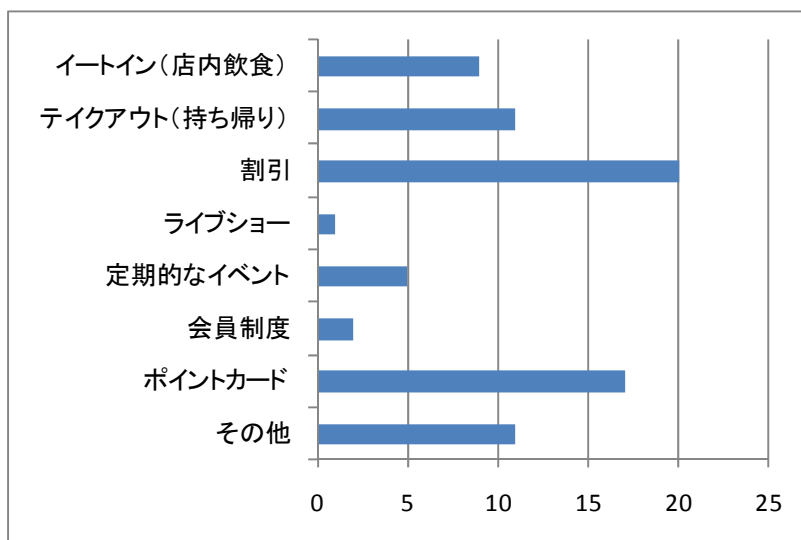
◆利用客のうち、もっとも多い年齢層

30代の利用者がもっとも多く、20~40代で全体の75%を占めている。



◆行っているサービス

全体の約2割が「割引」および「ポイントカード」サービスを行っている。「その他」には、高額商品の送料無料サービスや試飲サービス等があった。



#### ◆経営上の喜び・やりがい

##### <アンケートより>

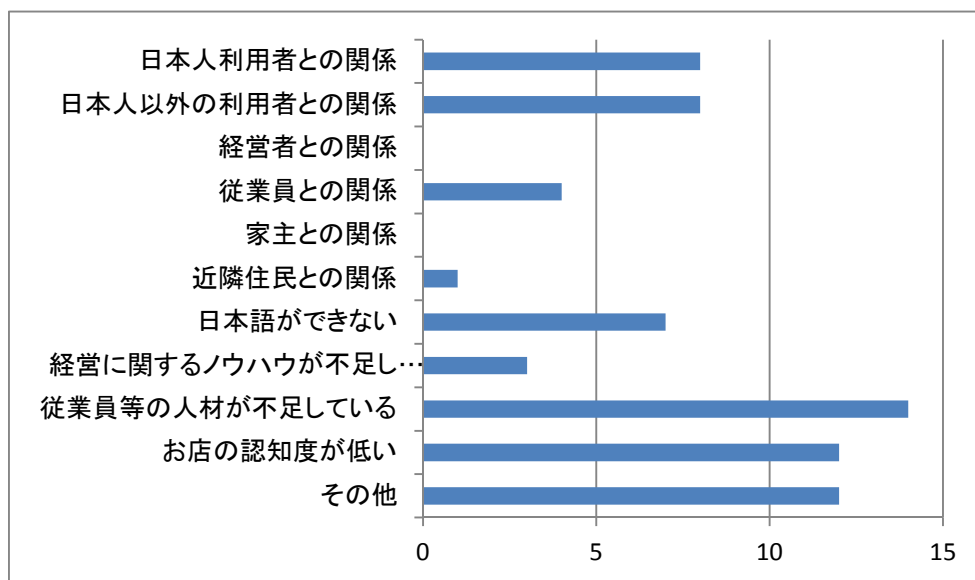
- ・お客様を満足させることが喜び。色々な国籍のお客様に来てもらうことがやりがい。
- ・他のコミュニティにも規模を拡大すること。良いサービスと商品を提供すること。
- ・日本人にも車を売ること。
- ・お店をリフォームできたことと、お客様が来店してくれることが嬉しい。
- ・周りの中国人の役に立つこと。日本人に中国の文化や食に関してより分かってもらえること。日本人の食卓を豊かにできること。中国と日本の友好関係に役立つことができること。
- ・社会的責任を果たすこと。利益を生み出すこと。
- ・自分の会社が作れたことと、その自分の会社でお客様が幸せになってくれること。
- ・ラテンアメリカの文化を様々な人に紹介すること。日本の文化が好き。
- ・仕事ができること自体が喜び。ビザがある。色々な人と会うこと。外国人と会うこと。
- ・喜びは、文化の異なる人と知り合えること。
- ・固定給であること。

##### <インタビューより>

- ・さまざまな方法で店のことを伝えて、いろいろな会社とパートナーとなり、店を大きくすること。
- ・昔からやっているのので、頼りにされていること。保険のこと、住宅のこと等いろいろ聞かれる。
- ・ブラジル人向けのスーパーではなく、日本人向けのスーパーの中にブラジルの物が置いてあるというスタンスでやっていること。
- ・いろいろな国のお客さんが来てくれるので、いろいろな国の商品を置いていること。
- ・団地の近くにあるため、交通の不便な人の役に立てていること。
- ・色々な国籍の人や様々なバックグラウンドを持った人に出会うことにより、新しい発見があったり、それぞれの文化や価値観の良い点、悪い点を学び、自分自身も見聞を広められること。
- ・たくさんの同胞や日本人と出会うことができ、様々な文化と知識を学ぶことができること。

◆経営上の困難・トラブルとその対処方法（複数回答可）

「従業員等の人材が不足している」「お店の認知度が低い」ことを課題に感じる店が多かった。「その他」には、外国人のために熱心に働いてくれる日本人スタッフを雇うこと、会社を大きくするためにできればお金を借りたい等の意見があった。



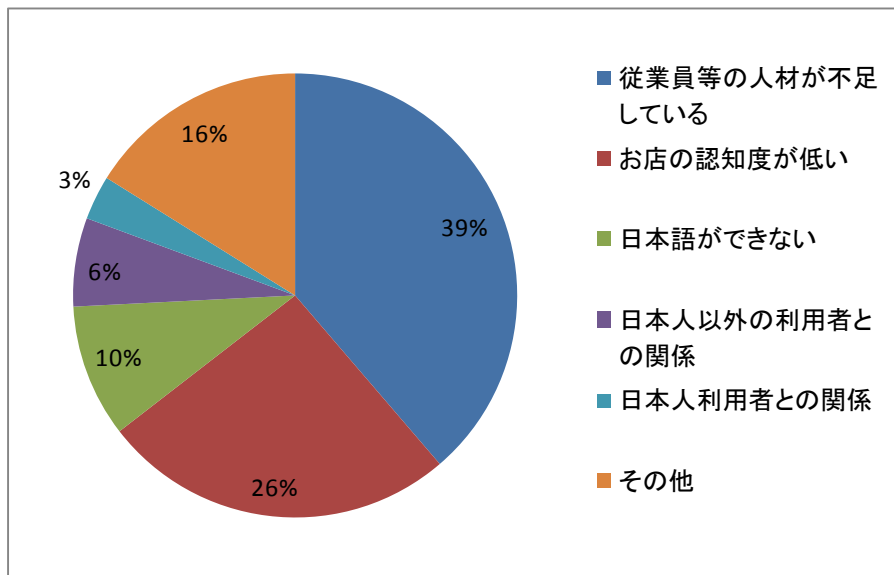
<インタビューより>

- ・外国人が経営している店は、日本人のお客様に受け入れられにくい。また、同業他社からも受け入れられづらい。
- ・店を増やすためにお金を借りたりすることが難しい。
- ・良い従業員（2カ国語話せる等）を見つけること。
- ・日本人のお客様が少ないこと。
- ・言語と法律。オープンしたての時は、税制がわからなかった。
- ・日本語がわからず、日本人のお客様が来ても交流できない。
- ・いろいろな国籍の方が来店されるが、日本語が話せない方もいるので、お客様との会話が難しい。お客様からの質問に答えられない。
- ・経営者（店長）が変わってからのお客様への対応。慣れるまでに時間がかかる。
- ・日本人従業員の確保。
- ・不況の影響でたくさん外国人が国に帰り、新しい利用者を見つけること。
- ・会話はできるが漢字が読めない。時々、重要な書類が届くが読めないので大変。
- ・来店した日本人のお客様が、外国人の店員を見ると驚いて店を出て行ってしまうこと。
- ・税金等の役所での手続きが難しい。

- ・ブラジル人のお客様はお店へのこだわりが強く、通っている店をなかなか変えることはない。
- ・人種差別。店先でお客様に声をかけようとする「怖い」とか「わっ！」と驚かれる。
- ・日本語で品札を書くこと。現在は友人に手伝ってもらっている。
- ・日本人の中には「英語は難しいから話したくない」「外国人は怖い」という固定概念を持っている人もいて、そういった概念が私たちと日本人の間に距離を生んでいると思う。

◆特に困っていること

上記のうち、「従業員等の人材が不足している」ことを大きな課題と認識していた。



[対処方法]

【従業員等の人材が不足している】

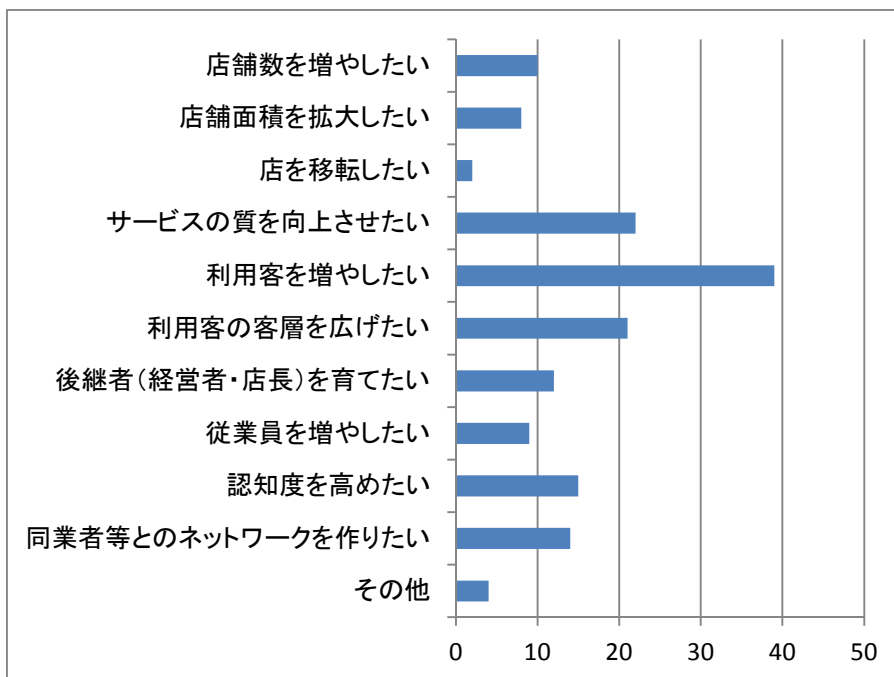
- ・才能のある人を育てる。あるいは中国から人材を日本に招待するようにしている。
- ・専門職の講座が必要。
- ・本物のプロフェッショナルになるために従業員にトレーニングを行っている。
- ・お給料に変動があること。熟練労働者や資格・学歴がある人が足りない。
- ・外国人向けのプロフェッショナルな人を育成する講座があるといい。
- ・教育・教養が不足しているスタッフがいるので、豊橋にもっとよい教育ができる学校がほしい。
- ・専門家や資格を持っている人を育てる。学歴がある人を探す。

【お店の認知度が低い】

- ・ 格安商品を増やす。ロコミ。サービスの質を上げる。このお店をお客様の家のような心地よいところにする。
- ・ インターネット上での販売・宣伝。
- ・ 日本人コミュニティから宣伝してもらう。

◆今後の経営方針等について（複数回答可）

「利用客を増やしたい」という回答がもっとも多く、「サービスの質を向上させたい」「利用客の客層を増やしたい」という回答が次に多かった。

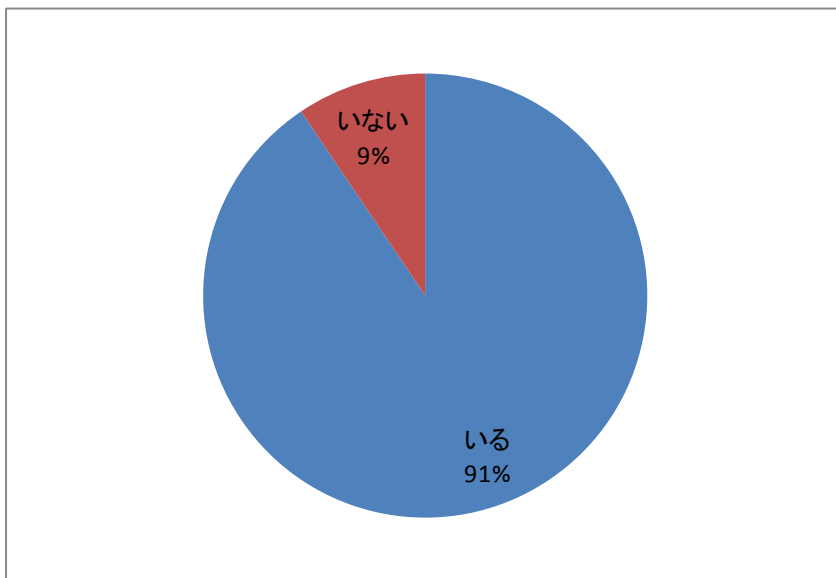


<インタビューより>

- ・ 日本でこの店を続けながら、母国に同じ店をつくりたい。日本で学んだことをブラジルに活かしたい。日本のいいものをブラジルに持っていきたい。
- ・ 同様の店を日本人向けに作りたい。
- ・ 日本の会社とつながりを持ちたい。
- ・ 日本の法律（経営を主に）、税金、年金、保険などについて知りたい。
- ・ 国籍を問わず、いろいろな人が来る店にしたい。
- ・ 他の外国の方々にももっと選択肢が増えるように、他の言語で接客するお店を開くこと。
- ・ 日本語を習得するために NPO の支援がほしい。

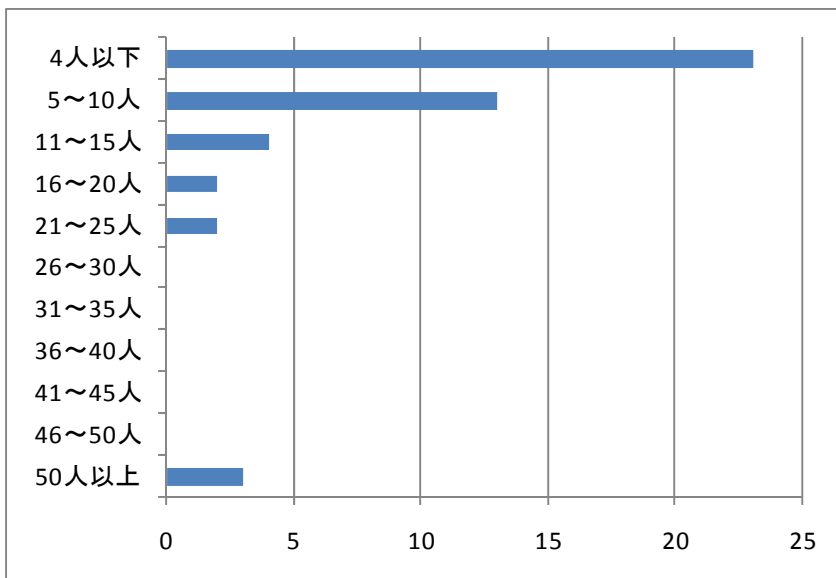
◆日本人利用者の有無

ほとんどの店が日本人利用客が「いる」と答えた。



◆一日の日本人平均利用者数

約半数の店が、一日の日本人平均利用者数を「4人以下」と答えた。

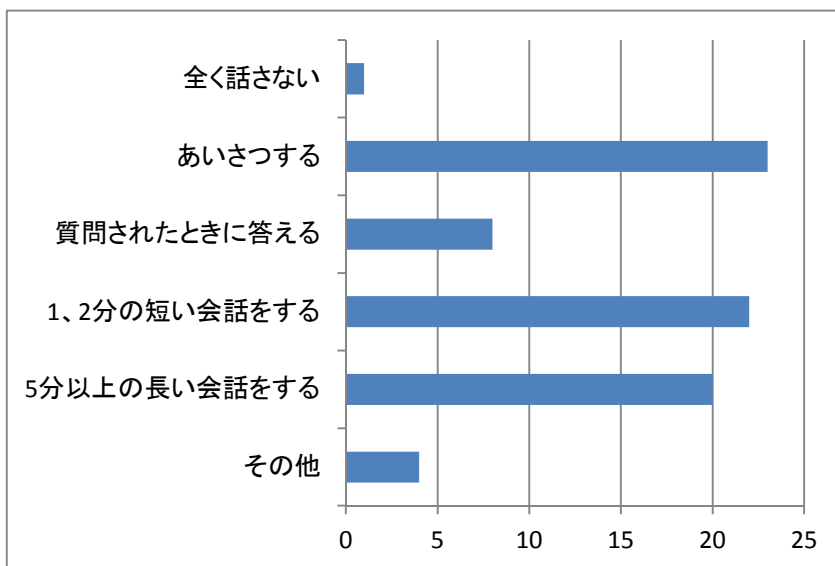


<インタビューより>

- ・日本人コミュニティと良い関係を築きたい。
- ・交流や日本人の友達を増やすために日本人のお客を増やしたい。日本人に母国の良いものを見せたい。
- ・日本人のお客が増えれば交流が深まる。
- ・一番の目標は日本人のお客を増やすこと。
- ・日本人のお客が増えたら売り上げも良くなると思う。
- ・日本人の利用を増やすために日本語のサイトを作っている。
- ・より多くの日本人にこの店舗を通じて、母国の食品と文化を知ってもらいたい。

◆日本人利用者への接し方

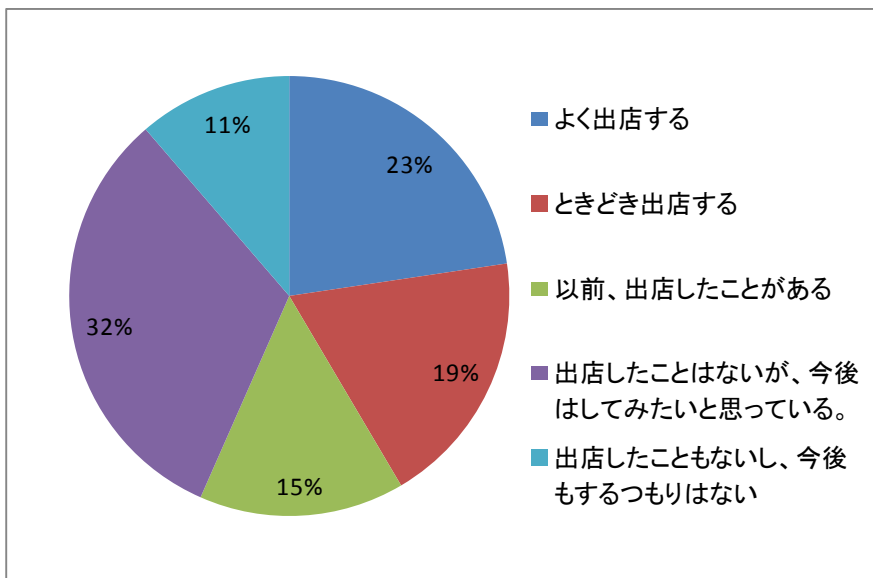
「あいさつする」「1,2分の短い話をする」「5分以上の長い会話をする」と答えた店が多かった。「その他」には、どの話題でも会話を試みます、店に来る日本人が外国人の店員を見ると帰ってしまうので、話したいけど話せない等の意見があった。





#### ◆地域の祭りやイベントへの出店

過去に出店経験のある店が半数以上であった。また、約3割が「出展したことはないが、今後はしてみたいと思っている」と回答した。



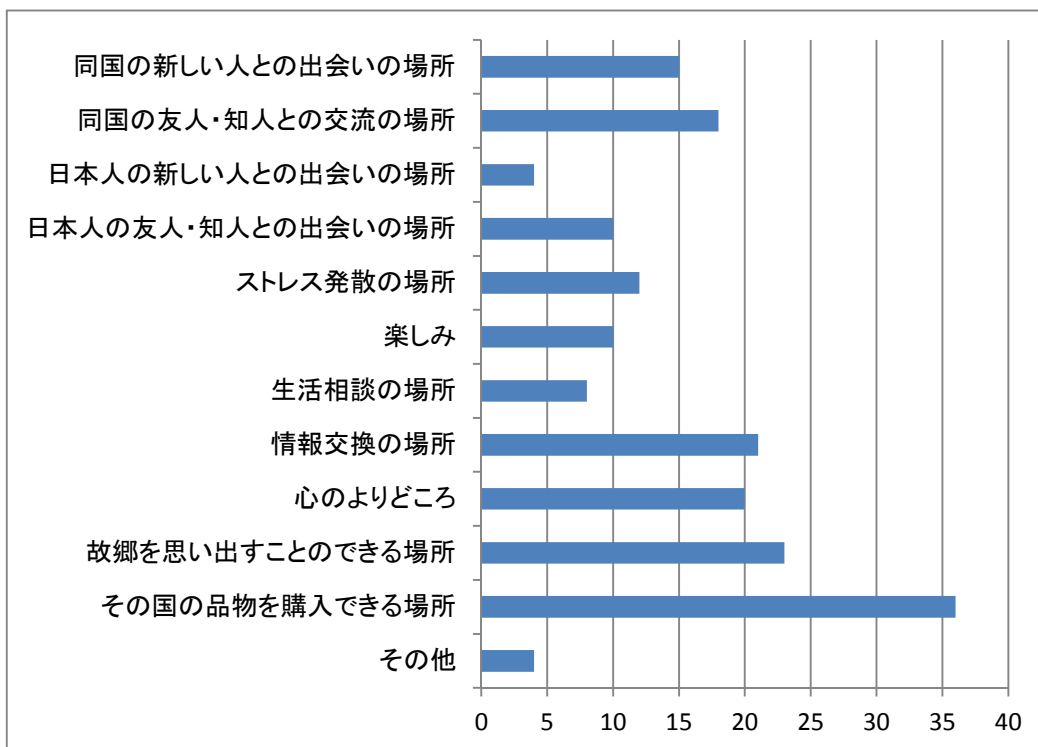
#### <インタビュー>

##### 地域社会とのかかわりについて

- ・ 祭りに積極的に参加したい。
- ・ 商店街や国際センターと連携したイベント等を定期的に行っていききたい。
- ・ 外国人であれ、日本人であれ、自分の国以外で店を経営するなら「文化コーナー」の役割を担っている。外国人が多く集まっているところには、外国の文化等を反映できる店（場所）が必要。
- ・ お店に来るたくさんのお客さんはこの地域の人。好奇心を持って店に来てくれるのでうれしい。
- ・ 日本の文化を受け入れ、日本の文化に溶け込みたい。日本の文化を尊敬し、私たちを受け入れているが私たちの文化も知ってほしい。
- ・ 地域社会とのかかわり、ネットワークを大事にしたい。

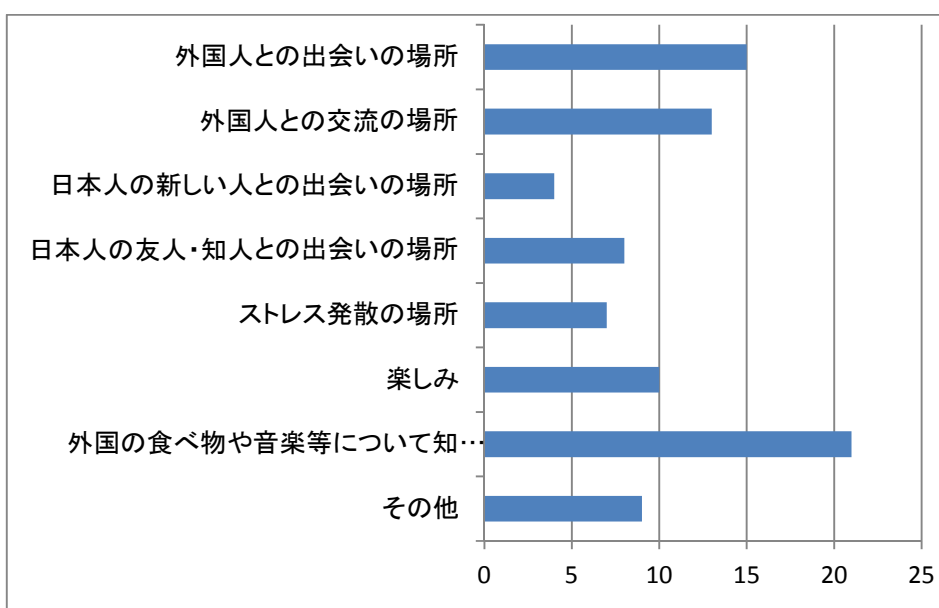
◆外国人住民にとっての存在意義（複数回答可）

どの店も、単に買い物するだけの場所ではなく、人の交流や情報交換、故郷を思い出す等さまざまな存在意義があると答えた。



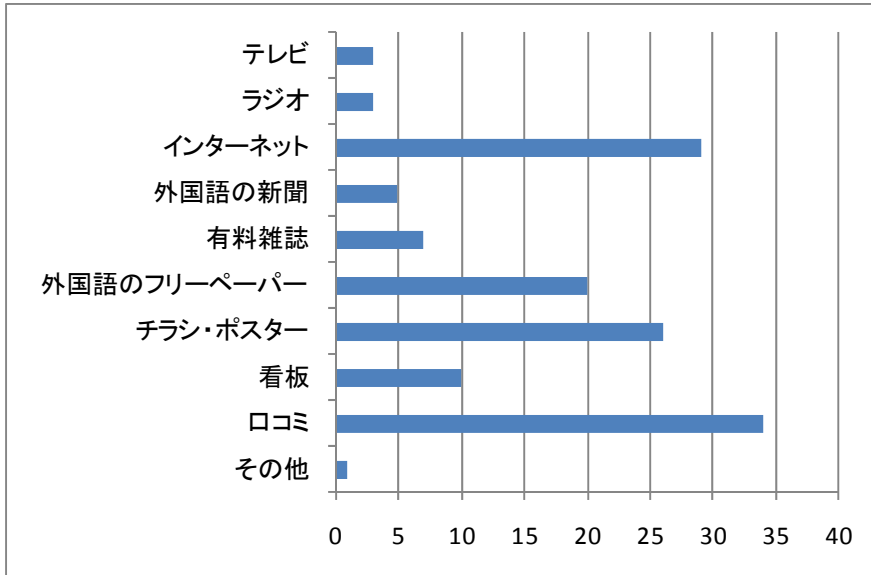
◆日本人住民にとっての存在意義（複数回答可）

日本人住民にとっては「外国の食べ物や音楽等について知ることができる場所」「外国人との出会いの場所」であるという認識をしているところが多かった。



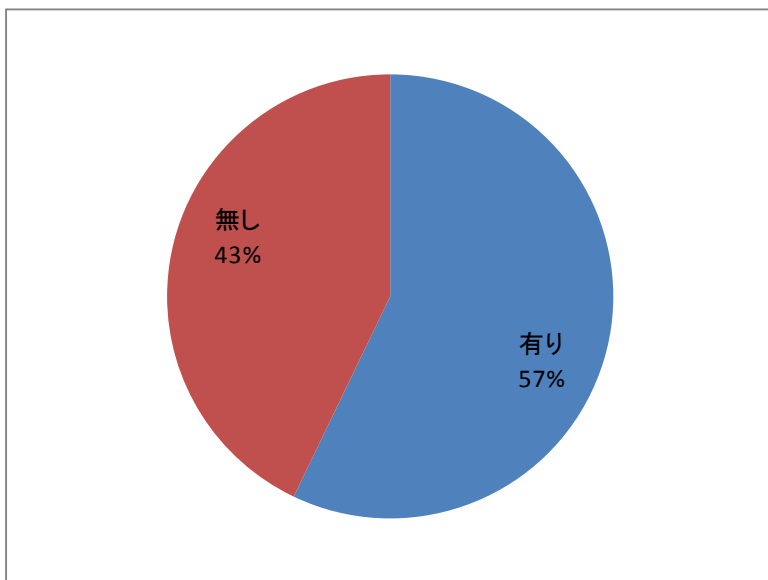
◆情報発信

「口コミ」による情報発信がもっとも多かった。また、インターネットやチラシ・ポスター、フリーペーパー等、母語による情報発信が中心であった。



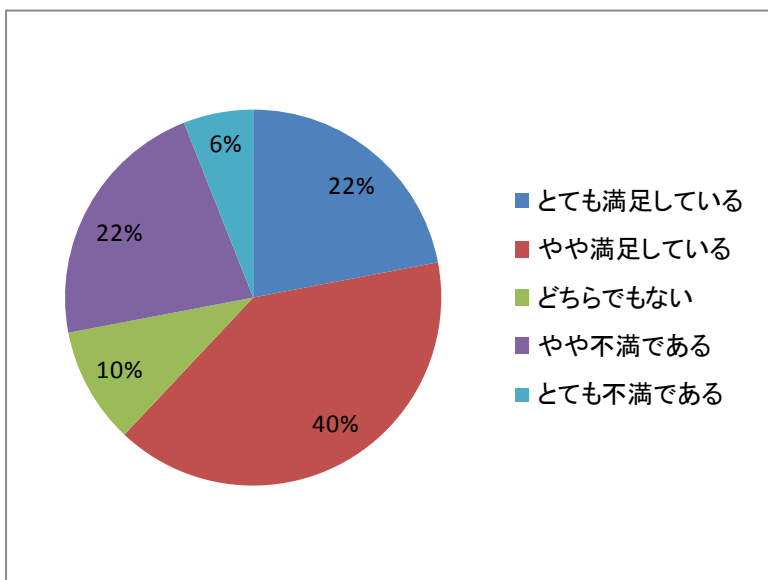
◆ホームページの有無

ホームページをもっているのは、53店中28店であった。



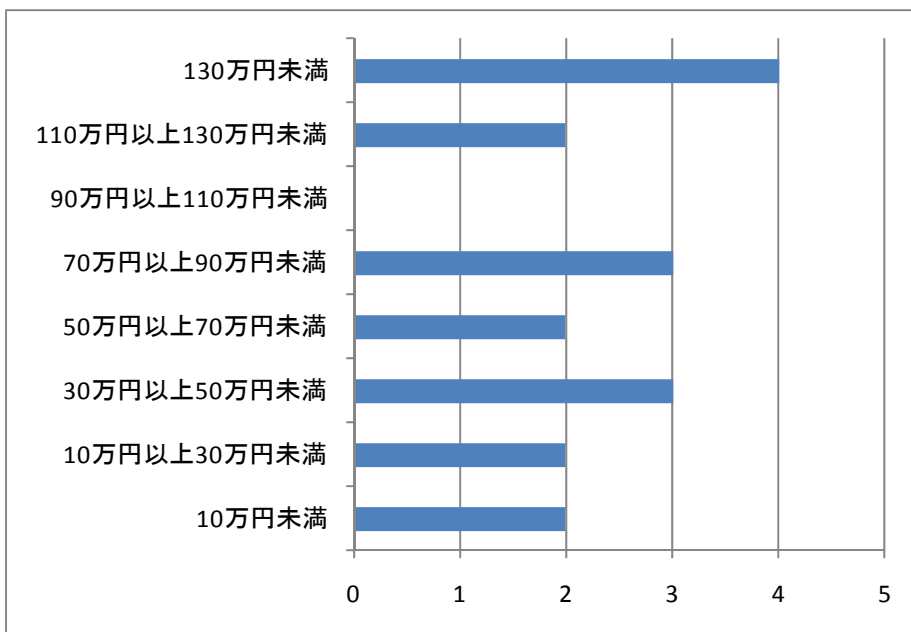
◆最近の経営状況について

約 2/3 の店が経営状況に満足感を感じていた。



◆月の平均売上

全体の 2/3 が 70 万円未満であった。



販売店においては、従業員の不足を課題と捉える店が多かった。日本人利用者を増やしたいと望む店が多く、そのために2か国語（母語＋日本語）が話せる人材がほしいという声や、来店をきっかけに自分たちの文化等を理解してほしいという意見もあった。

## コラム1

2011年2月25日（金）名古屋市中区 ZICIOFEにて

フェアトレードのコーヒー豆などを扱うアフリカ雑貨店「ZICIOFE」で参与観察を行った。“Hello! Thanks for coming!” コーヒーの優しい臭いととも、笑顔の素敵なウガンダ人女性スタッフが満面の笑みで出迎えてくれた。

お店で売られている様々な商品は、HIV の患者やウガンダの障害を持った芸術家、内戦やエイズで両親を亡くした孤児の子どもたちが作ったものが多く、それら一つ一つの商品には意味が込められていたり、ストーリーがあるように感じた。「このような物売ることは、社会的にとっても意味のあることだし、日本の人々にアフリカの現状を伝えるための手段でもあるの。」と彼女は私に話した。



この店では、画期的なプロジェクトも行われている。Share LOVE と呼ばれるこのプロジェクトは、日本から不必要になった、衣類や文房具、おもちゃなどをアフリカの孤児院に送るというものであり、今最も店としても力を入れている活動だそうだ。しかし、彼女は自身の日本語能力が未熟なために自分が伝えたい商品の情報や、プロジェクトの詳細の半分も伝えることができていないことやお客様と直接コミュニケーションが取れないことが辛いという。また、アフリカの商品品質の基準と、日本の消費者の厳しい商品品質基準のギャップも商売を行う上での悩みの種の一つであるようだ。

参与観察を進める中で、私が感銘を受けたことがある。この店舗は他の多くの店舗と共に雑居ビルに店を構えており、他の店舗のスタッフとこの店舗の女性スタッフはしっかりと人間関係を構築しているのだ。私が参与観察をしている間にも、他の店のスタッフが、訪れ、「彼女の人柄に魅かれ、こちらによく休憩に来ます」「困った時はお互い様、支え合って商売しています」と話していた。ビルの中の店舗同士、支え合い、この雑居ビルが一つのコミュニティとして機能しているようであった。

しかし、日本社会の現実が見える場面にも遭遇した。日本人のお客様が、アフリカ人の

彼女の顔を見たと同時に、視線を逸らし、足早に店を後にしたのである。「私の顔を見ると、日本人のお客さんの中には、ビックリした！とか怖い！と言って逃げていくの。同じ人間なのにどうして怖がる必要があるのかしら？」寂しそうな目をして、彼女は語った。「色々な人と出会えること、自分の文化を日本に伝えられることはとても楽しいです。しかし肌の色で差別されたり、自分の活動の熱意が伝わらなかったりする時は悲しいです。」

「アフリカの子どもたちに笑顔を届けたい」「国籍が違うという理由だけで教育が受けられないことは不平等。日本人にとっては当たり前のことが当たり前ではない国があることを理解してもらいたい」と、最後に彼女は話した。



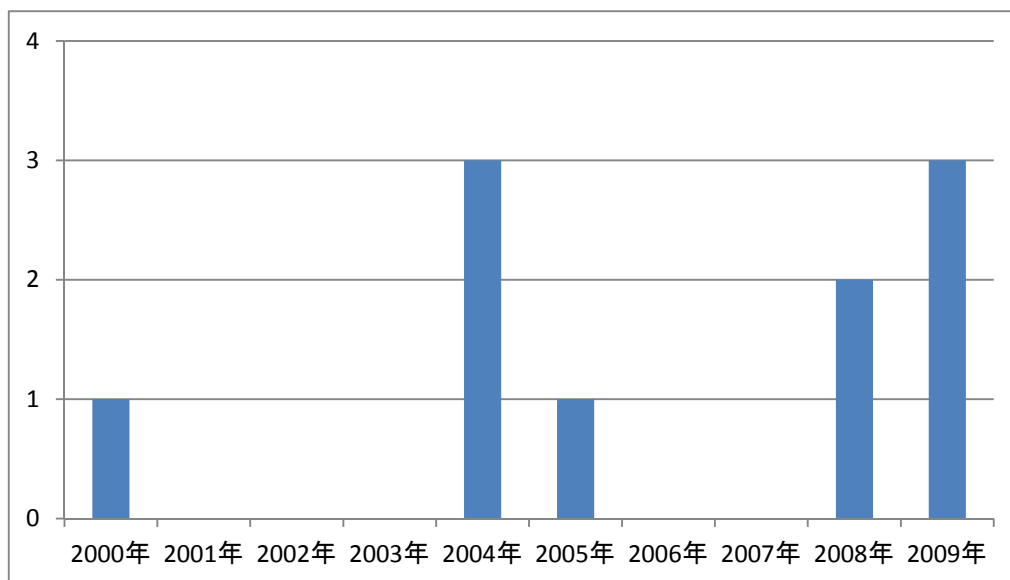
### 3. 自助組織

調査協力者 10 件

内訳：ブラジル5，フィリピン2，ペルー・中国1，その他1（ウガンダ）

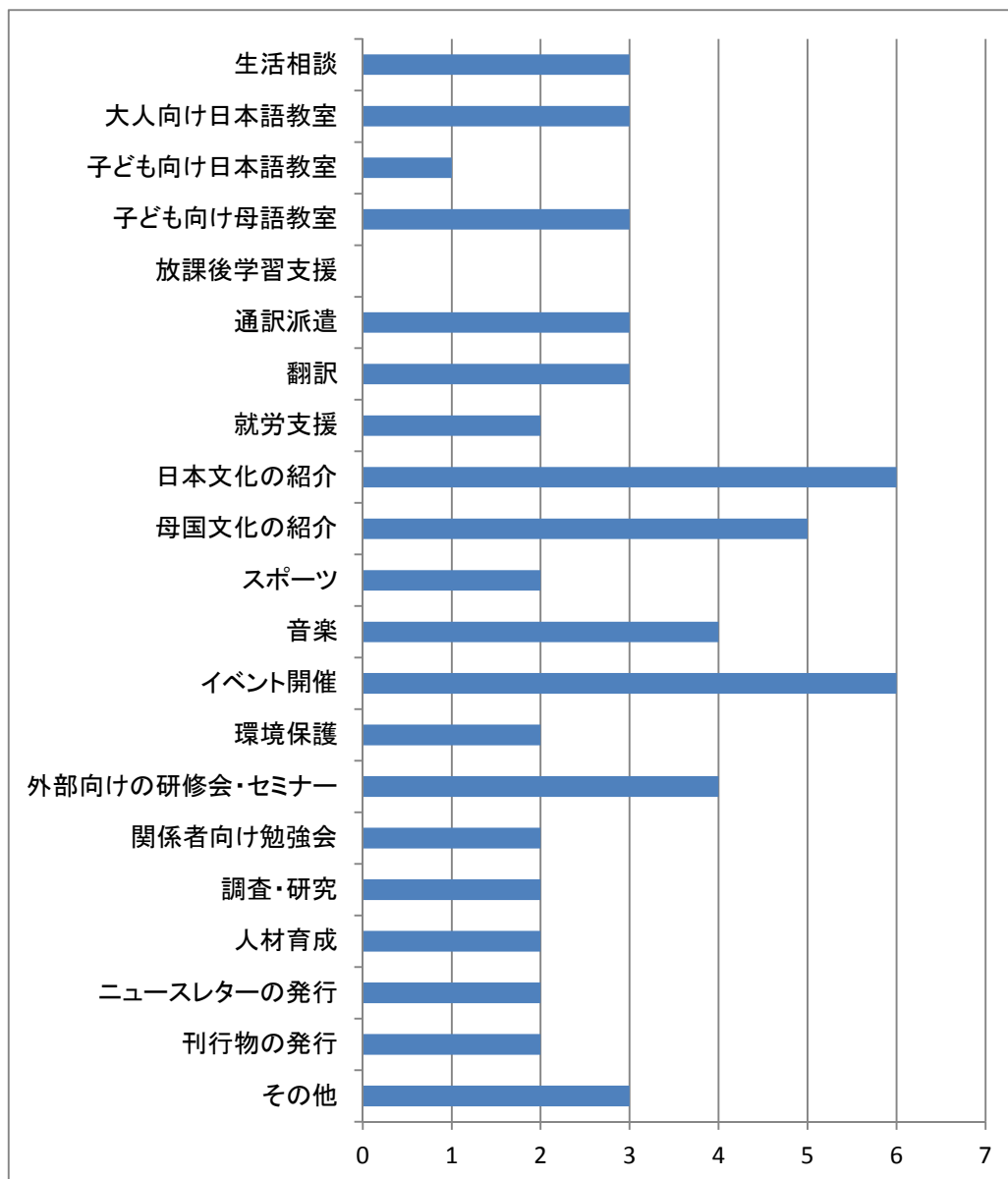
#### ◆設立年

半数の団体は設立して5年以上である。



#### ◆活動内容

半数以上の団体が「母国文化の紹介」「日本文化の紹介」「イベントの開催」を行っている。その他、個々の活動目的に合わせた活動が行われている。



<インタビューより>

#### 活動を行う上でのやりがい・喜び

- ・活動を続けることで、日本人が我々の母国のことを理解していくこと。
- ・組織を通して、ペルー人としてのアイデンティティを保つことができること。
- ・母国の文化を日本人に紹介できること。
- ・困っている人を助けられること。



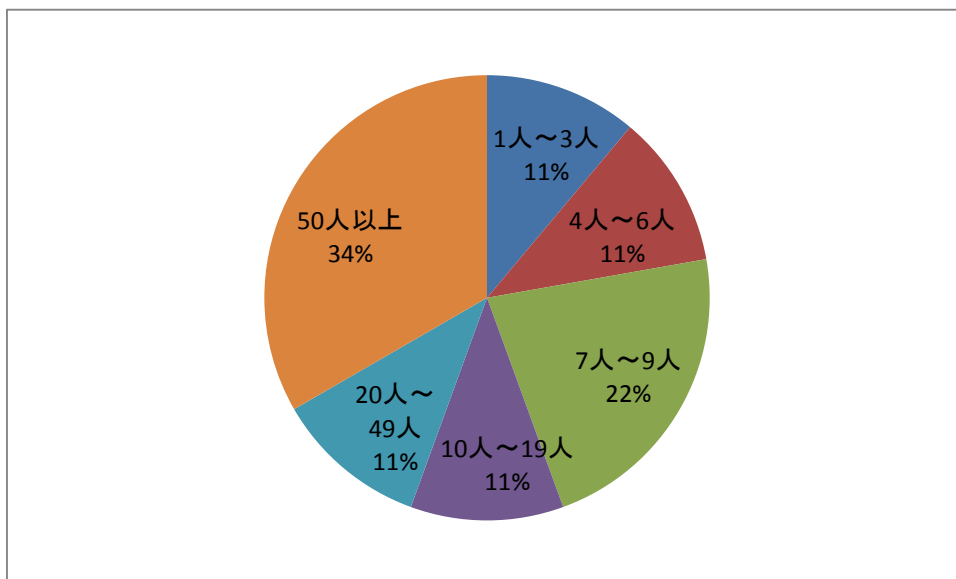
- ・自分たちのプログラムを通して学んだ人が、その分野で働けるようになること。
- ・今後、外国人が高齢化していくと専門性を持った外国人が役立つ。自分たちの活動の効果が出るまでに時間はかかるが、効果が出てくると日本社会にとっても良いと思う。
- ・集まってミーティングをする度にメンバーの意識が高くなってきていること。会として強くなっている。

#### 今後の目標

- ・小さなものから大きなものまで様々なイベントがあるが、もっと計画を持って進められるようにしたい。

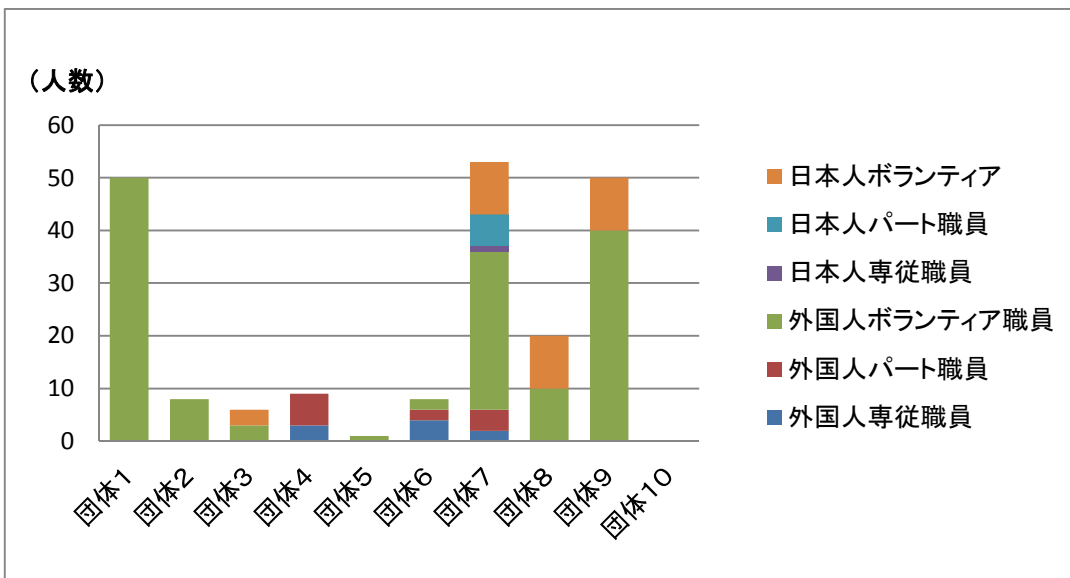
#### ◆団体の構成員（全体）

半数以上の団体が構成員は10人以下である。



◆団体の構成員（内訳）

ほとんどの団体が「外国人ボランティア」に活動を支えられている。また、全体のうち、4つの団体が構成員として日本人のかかわりが見られた。

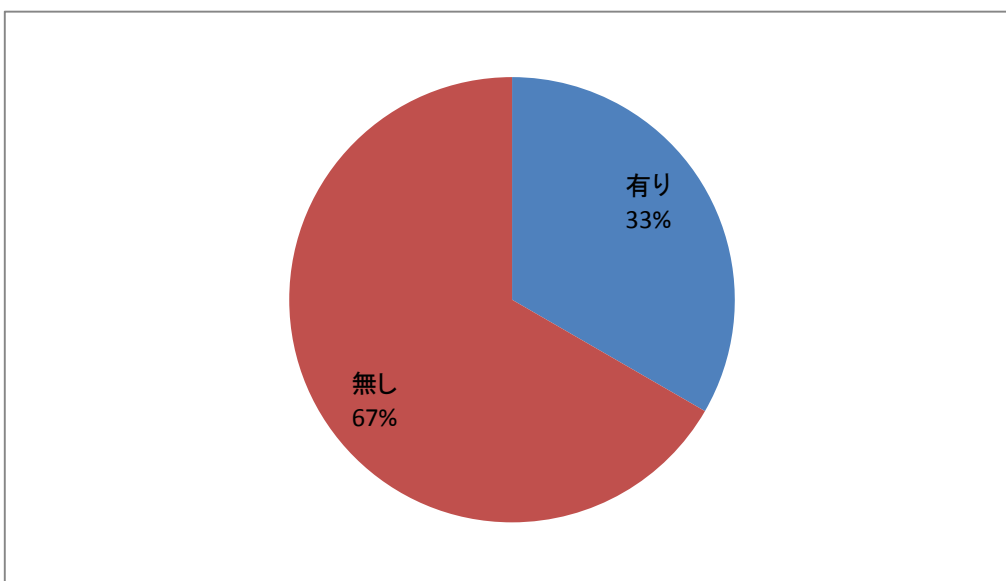


<インタビューより>

- ・たくさんの日本人に入ってもらえば、そのつながりで日本人の友達が増えると思う。
- ・始めた時から日本人登録者の受け入れに興味があった。一緒にできたらうれしい。

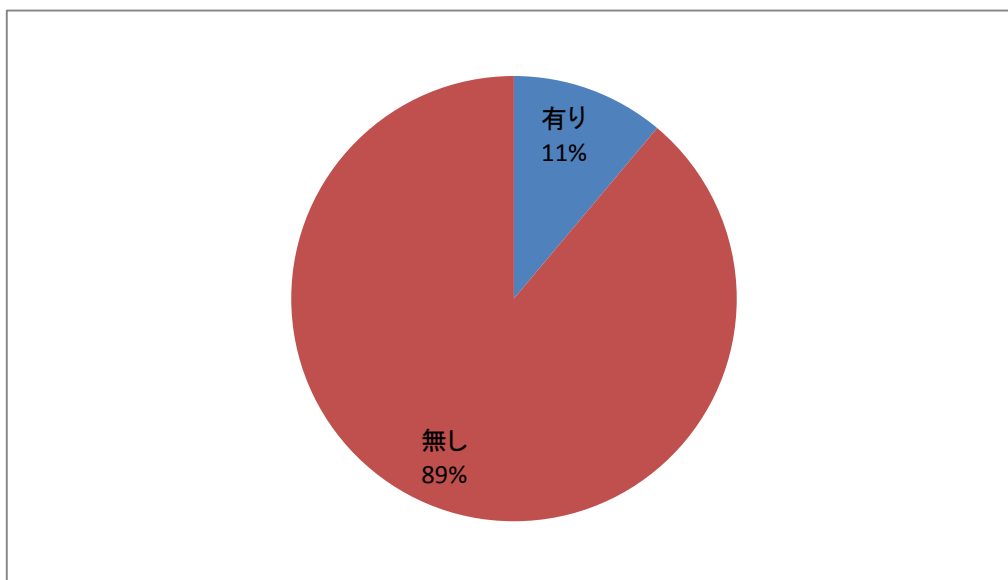
◆ホームページの有無

3団体がホームページを持っていると回答している。



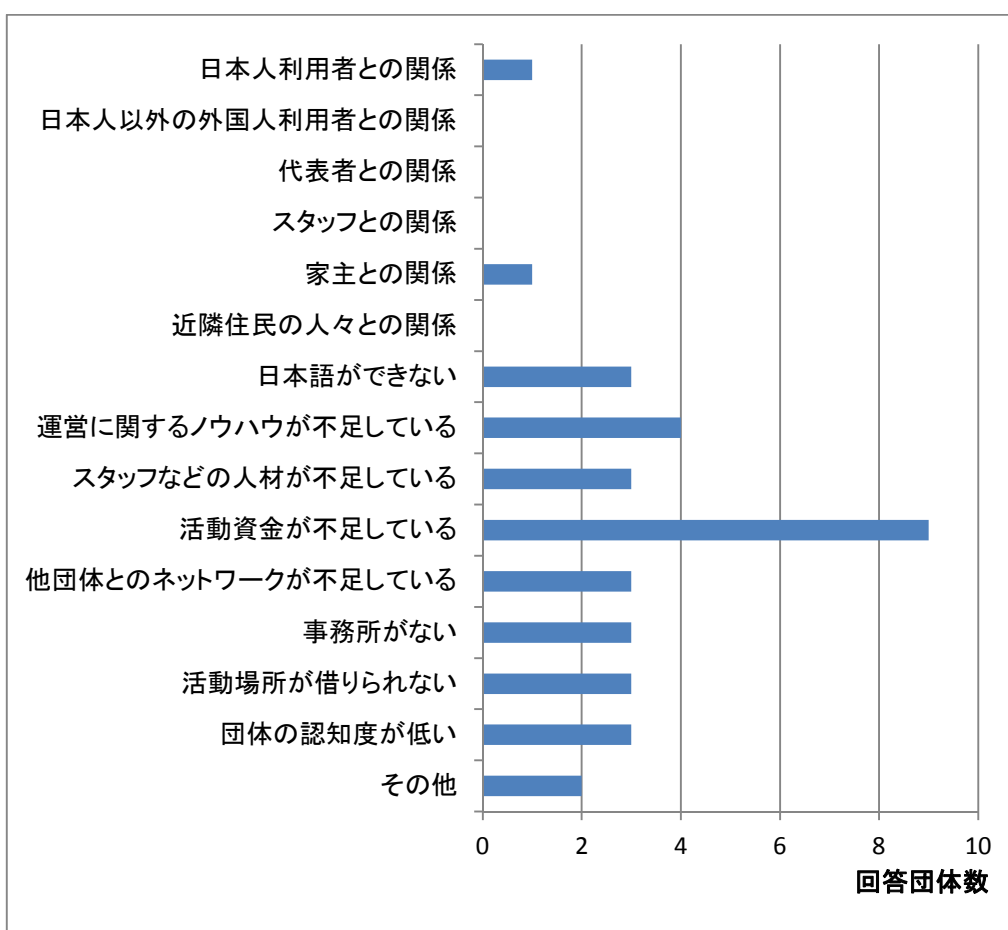
◆会員制度の有無

会員制度があると回答した団体は1団体のみであった。



◆活動上の困難・トラブル

ほとんどの団体が「活動資金が不足している」と回答している。

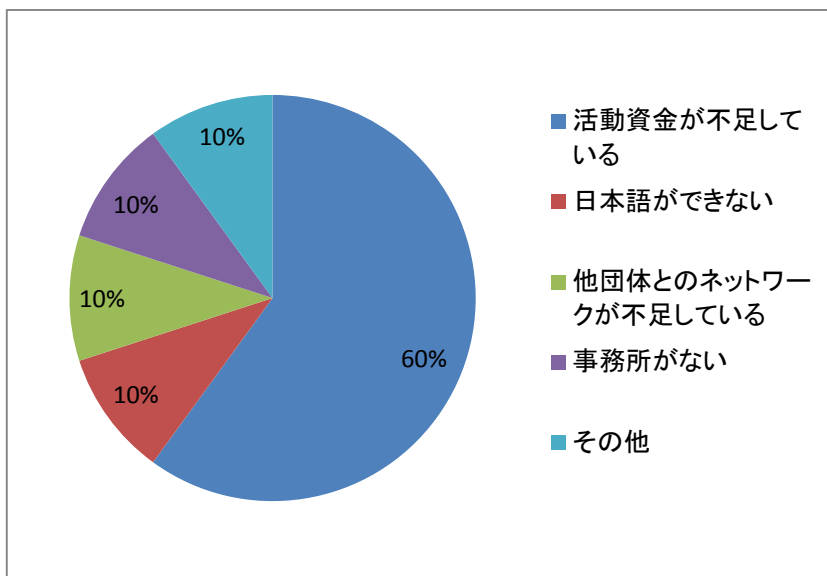


<インタビューより>

- ・人を集めること。
- ・資金を集めること。今はすべてスタッフの持ち出しになっている。
- ・日本人に母国のことを理解してもらうために活動をしているが、情勢によって母国のイメージが悪くなってしまうこと。
- ・外国人の困っている人を助ける行政組織が不足していること。私たちがこのような活動をやらなければ、誰がやるのか。
- ・日本語力が不足していること。
- ・多様な相談に対応しなければならないこと。
- ・行政等の助けがほしい。
- ・行政にもっとイベントを企画してほしい。
- ・NPOにはセミナーなどで大人と子どもが一緒になって上手に活動する方法を教えてください。

◆特に困っていること

半数以上の団体が「活動資金が不足している」ことをもっとも困っていることとして挙げている。



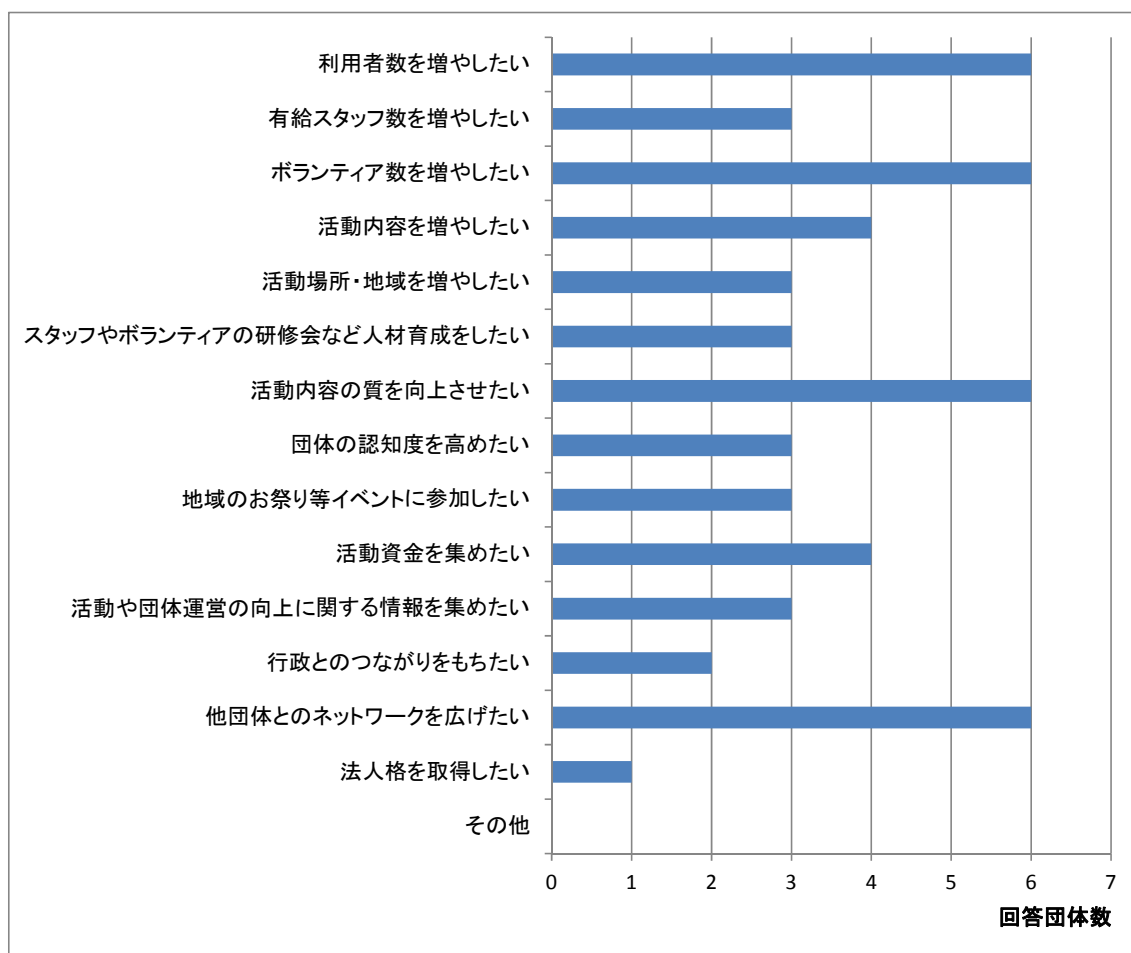
[対処方法]

- ・資金を得るために。会員や興味のある人をもっと魅了できるように頑張る。
- ・同胞たちに寄付を呼び掛ける。

- ・有名になるように、雑誌・新聞に広告を出したい。また、イベントなどでチラシを配りたい。
- ・助成金を申請する。
- ・ボランティアに出費させないようにする。

#### ◆今後の運営方針について

半数以上の団体が今後の運営方針として「利用者数を増やしたい」「ボランティア数を増やしたい」「活動内容の質を向上させたい」「他団体とのネットワークを広げたい」と回答している。



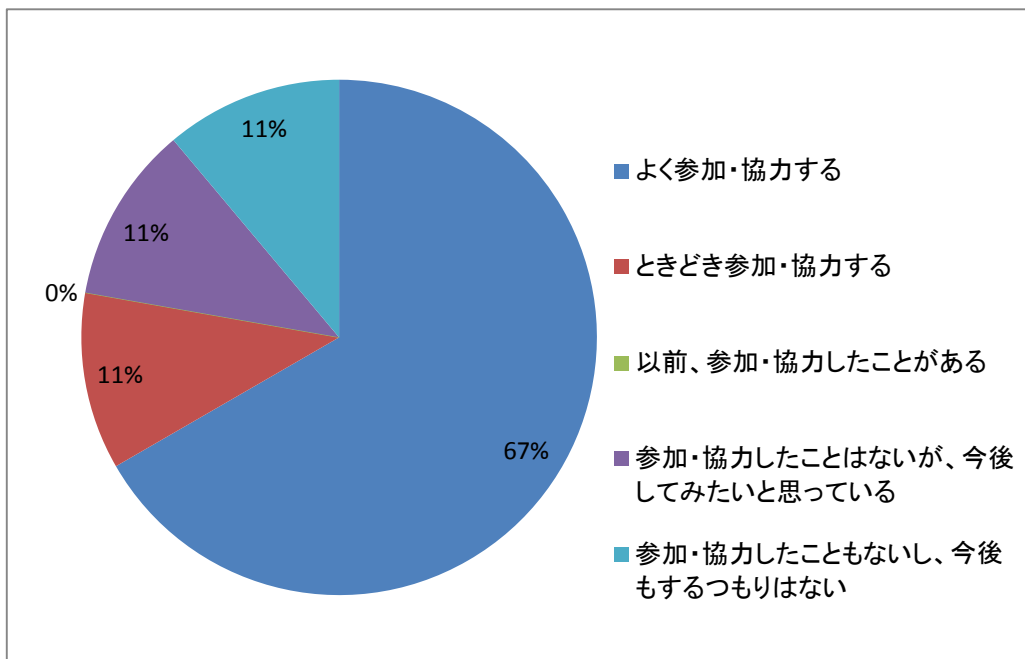
#### <インタビューより>

- ・私たちは外国人なので、母国文化や友情を認めてもらえることに感謝している。
- ・プログラムを発展させたい。
- ・スペースを広げ、他の国の人々にもっと登録してもらおうこと。

- ・ 同胞の参加者を増やしたい。
- ・ 有給スタッフ（フィリピン人・日本人）を持てるようにしたい。
- ・ 団体の認知度を高めたい。
- ・ 組織の運営についてコンサルティングや講座に参加したい。
- ・ 講演会・母国文化紹介への日本人参加者を増やしたい。
- ・ スタッフは私一人なので、人材を確保し、もっと多彩な活動を行い、団体として成長していきたい。

◆地域のお祭りやイベントへの参加・協力

7団体が「よく参加・協力する」「ときどき参加する・協力する」と回答している。



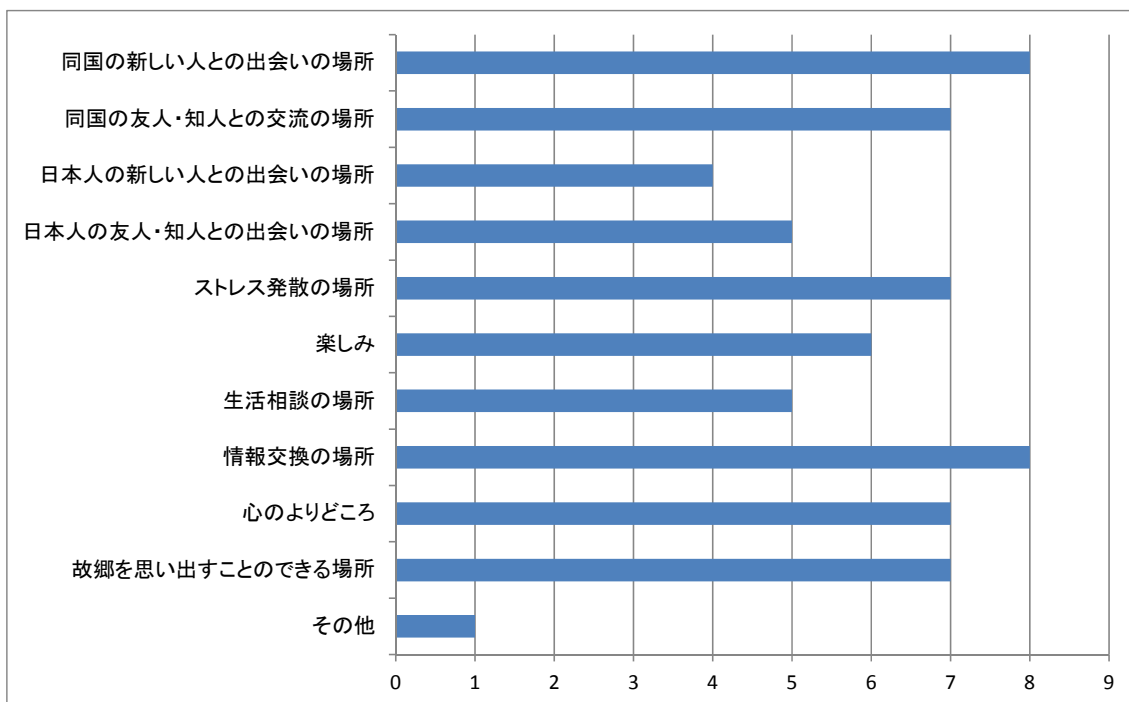
<インタビューより>

地域社会とのかかわりについて

- ・ 地域社会とつながりをもちたいが、その方法や誰に聞いたらいいのかわからない。
- ・ 現在は役所等で通訳の手伝いをしている。
- ・ 活動エリアでのイベント、お祭りに参加したい。
- ・ 私たちの活動をより多くの人に知ってもらいたい。

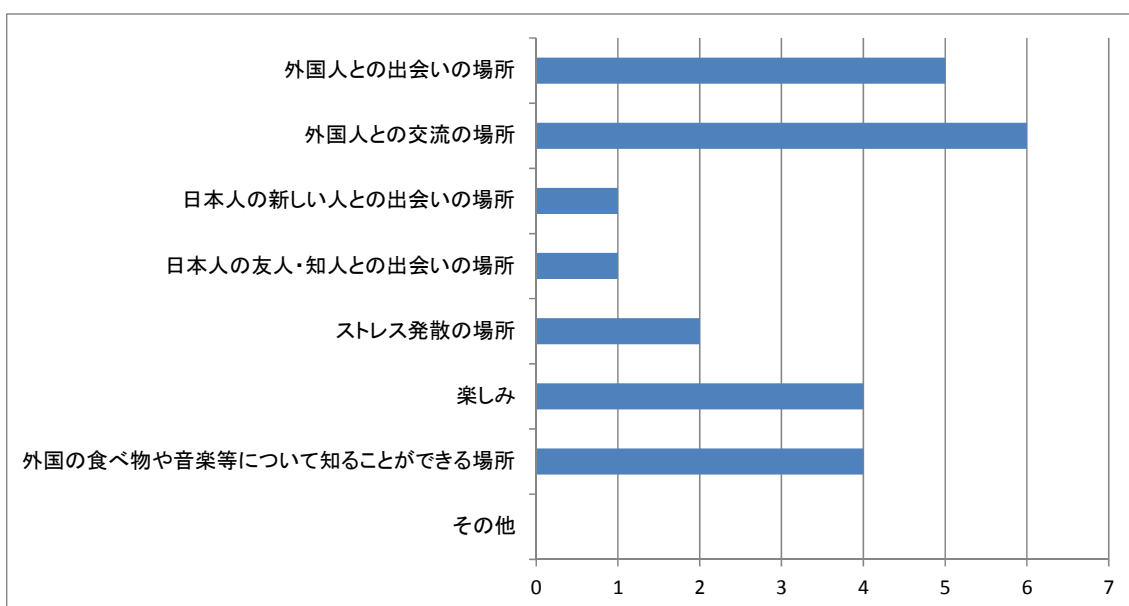
◆外国人住民にとっても存在意義

8 団体が「同国の新しい人との出会いの場所」「情報交換の場所」と回答している。  
次いで「同国の友人・知人との交流の場所」「ストレス発散の場所」「心のよりどころ」「故郷を思い出すことのできる場所」と回答した団体が多い。



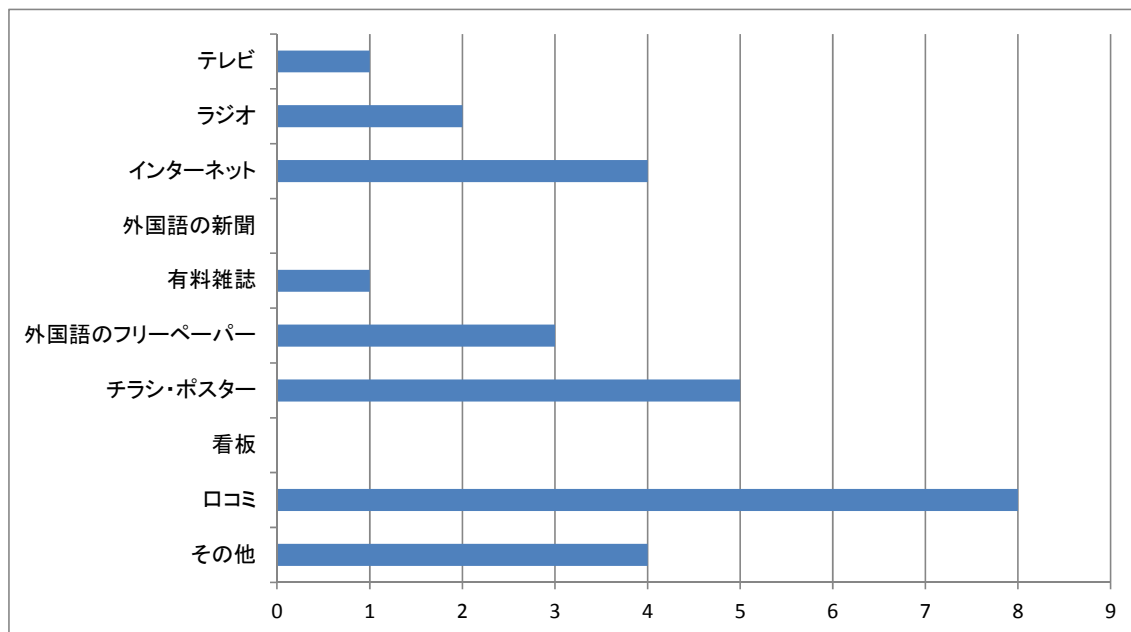
◆日本人住民にとっての存在意義

半数以上の団体が「外国人との出会いの場所」「外国人のとの交流の場所」と回答している。



◆情報発信

8団体が「口コミ」を重要な発信ツールとして利用している。



自助組織においては、資金不足・人材不足を課題としてあげる団体が多かった。また、ほとんどの団体が地域社会とのつながりを希望しており、同胞とのネットワークづくりだけでなく、地域の日本人とも交流機会をもち、活動の輪を広げていきたいという声が多く聞かれた。



## コラム2

ペクラ：PECLA、豊川市国際交流協会ラテンアメリカ部会教育プログラム（ペルー・ブラジル）

2011年2月9日、ペクラの皆さんを訪問するのは今回で3回目となった。訪問を重ねるたび、代表のMさんを中心とした団体全体の真面目さを感じる。



Mさんは任期一年の代表を今年の三月で交代する。既に新しい役員も決定している。ペクラでは、4、5月とイベントが重なるため、Mさんは代表に就任して早々、参加者のスケジュール調整などに苦労したようだ。しかし、「大変な中でもみんなが支えてくれた」と話すMさんからは、団体のメンバーと一緒に苦労を乗り越え、活動を続けてきた喜び・自信が感じられた。

3回目の訪問となる今日は、日本語・ポルトガル語・スペイン語の授業を見学した。

日本語教室では子どもたちの宿題をみるだけでなく、ブラジル学校から日本語能力試験を受けたいという子どもが日本語を勉強しに来ていた。日本人ボランティアの中には元教師もあり、通信簿が1から5まで混ぜこぜになりやすいブラジル人中学校生徒のため、英語を伸ばして私立学校へアプローチするといった、具体的な進学の方針を考えているという話は大変興味深かった。

ポルトガル語とスペイン語の授業では、幼稚園から小学校1年生までの子どもたちが発音や書き方を習っていた。授業は通常2時から始まりポルトガル語・スペイン語・日本語（学校の宿題も教える）の3クラスが並行して行われ、生徒は順番に各クラスを入れ替わるため、終わりの頃にはかなり疲れている子どもも見られた。ポルトガル語の授業は静かに集中した空気の中で行われ、スペイン語の授業はとても活気があり、どちらも子どもたちは一生懸命に取り組んでいた。

Mさんは夜も踊りの教室に付き添い、土曜日は8時までペクラの活動を見守っている。

これらの活動がこれからも多くの人に支えられ、より安定したものとなって地域の子どもの未来を明るく照らしていけるようになることを願ってやまない。



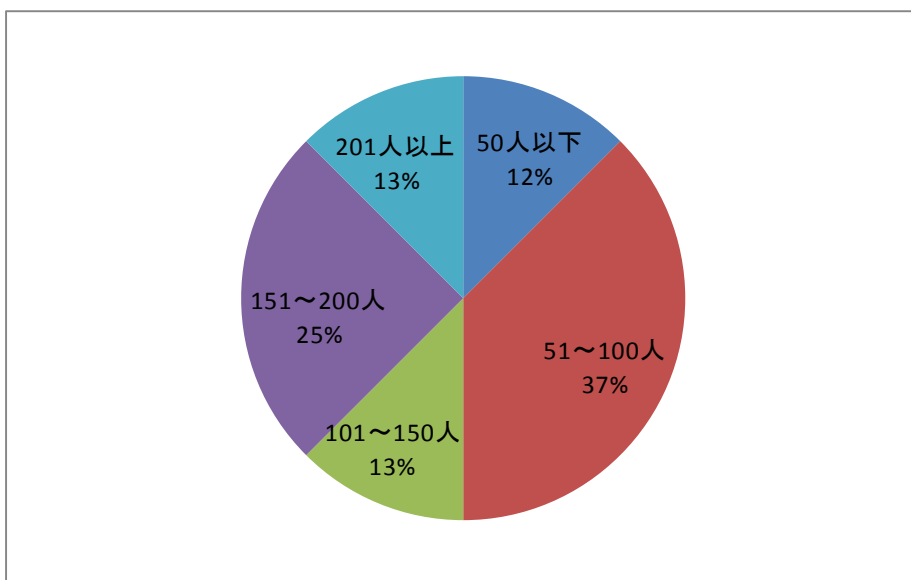
#### 4. 教育施設

調査協力者 9件

内訳：ブラジル8，朝鮮・韓国1

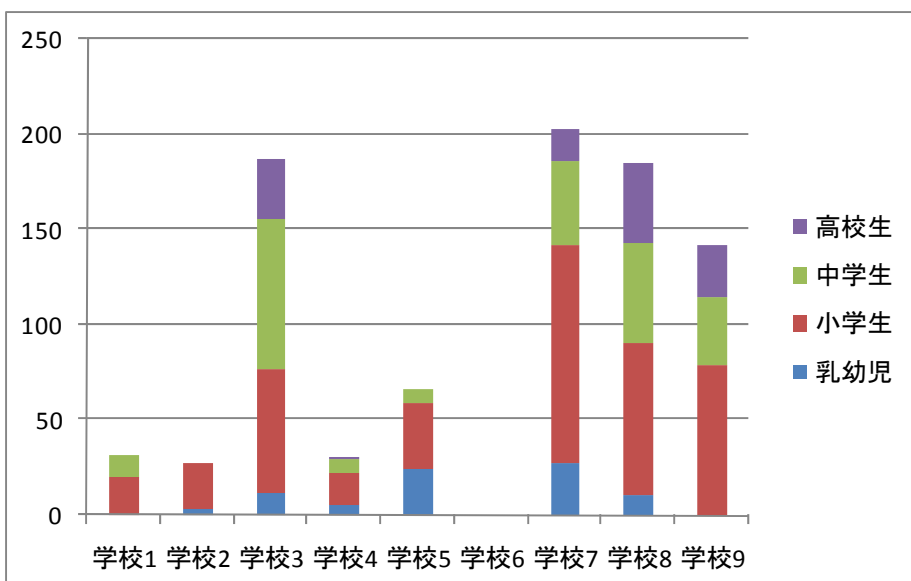
##### ◆全体の利用者数

約半分の教育施設で利用者数が100人を超えていた。



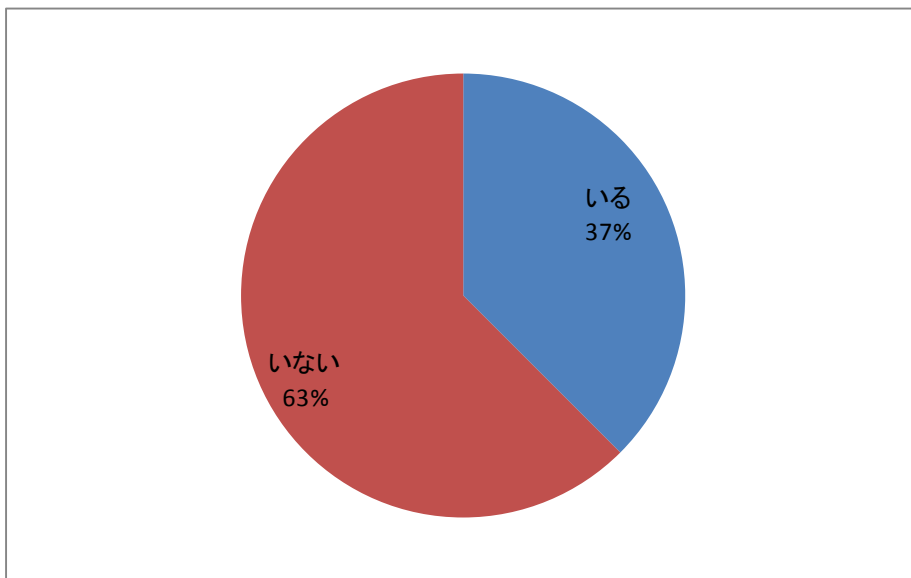
##### ◆全体の利用者数（内訳）

8つの学校で小学生の利用がもっとも多いが、利用者の内訳は学校の形態によって異なる。



◆日本国籍の子どもの有無

約 1/3 の教育施設で日本国籍の子供の利用がある。

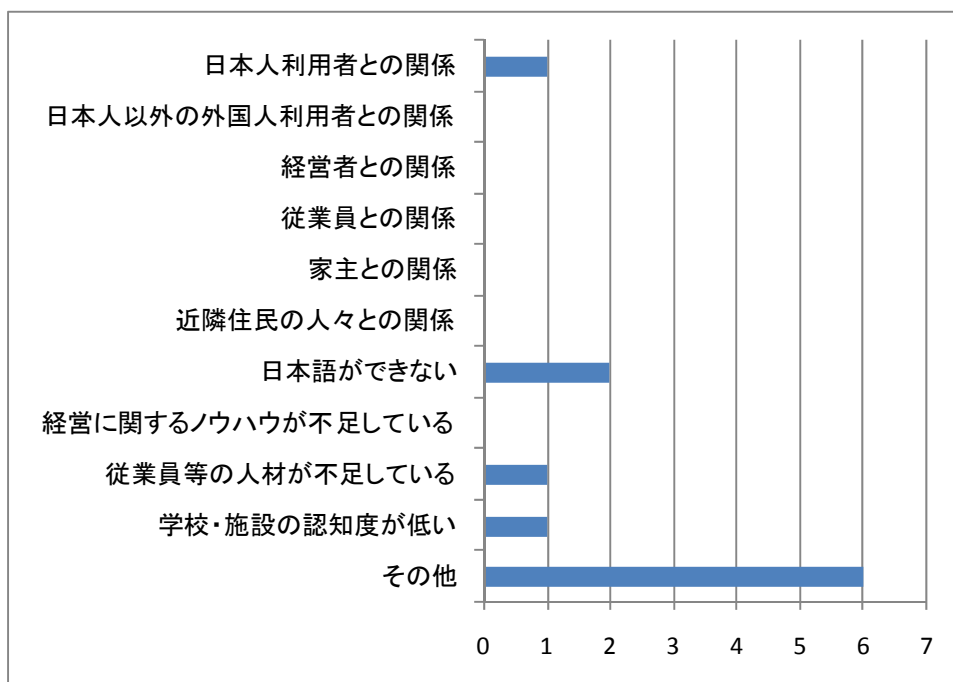


<インタビューより>

- ・過去に日本人の生徒を2人受け入れたことがある。彼らの両親がブラジルに興味があり、ブラジル人が好きだったから。
- ・もし日本人の入学希望者がいたら歓迎する。ここには他の国籍の生徒もいる。
- ・当校はポルトガル語教室を設けており、日本人にブラジル文化や価値観・地理・歴史等をより理解してもらおうとしている。この教室を通して日本人の偏見を取り除きたい。
- ・インターネットでポルトガル語を学びたい日本人に授業を行っている。
- ・イエローページにも載せているし、立地条件も良いので、もっと日本人に利用してほしい。
- ・当校に日本人生徒が来たら、その時は日本の学校と同じレベルになったということ。学校にとってはすごく良い。
- ・コミュニティが交わる良い機会になると思う。子どもたちにも他の文化や言語が学べる良い機会になる。

#### ◆経営上の困難・トラブル

「その他」と回答した教育施設が最も多かった。内容は、「日本人の学校との料金や、受けている意志の違い」「生徒の数が不況を通して減ったこと」「自主経営のため、公的な援助が少ない」等。

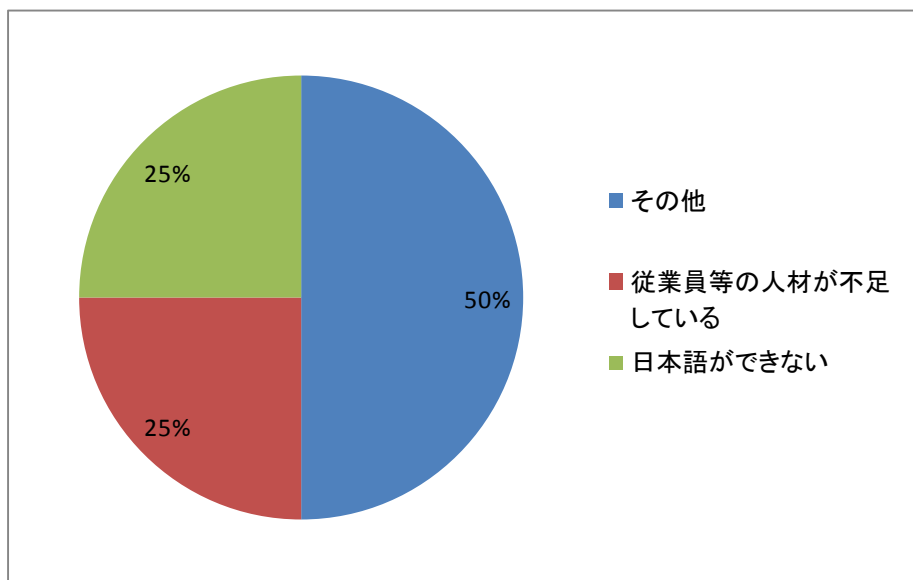


#### <インタビューより>

- ・ 財政面で困難。
- ・ 日本の学校と比べて、公的な資金や助成金がもらえない。
- ・ 人種差別を受ける。
- ・ 日本語。法律を理解するときにも行政や他の方々との関係においても大きな障害になっている。
- ・ 資金がなく、一部のコースを止めたこと。
- ・ 子どもたちをケアするためのプロ（栄養士、セラピスト等）が不足していること。
- ・ 良い教育を行うためには良い先生、良い教材が必要でコストがかかること。
- ・ 建物。学校を行うのにちょうどよい構造の建物がないので、中を改築しなければならない。
- ・ 新しい事務所を探していたが、外国人だと理由で借りることが困難だったこと。領事館の支援があり、現在の事務所を借りることができた。

◆特に困っていること

「その他」と回答した教育施設が最も多かった。

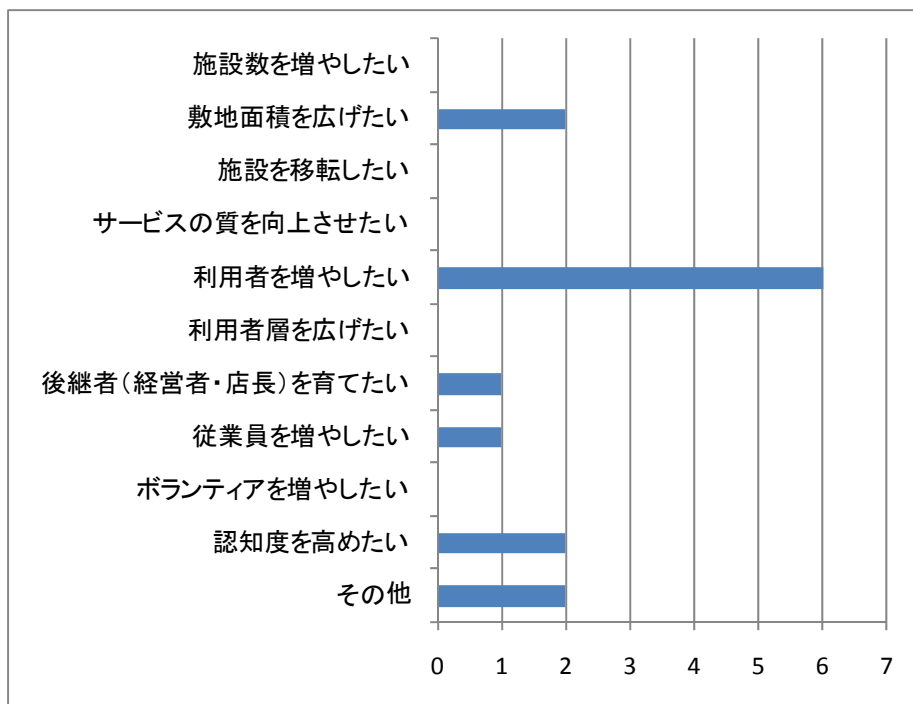


[対処方法]

- ・ 父母、同胞の助けでやっている。
- ・ 日本語を勉強する。
- ・ ブラジル籍の子供たちへの保護について、日本政府の理解がほしい。
- ・ 日本政府にブラジル人学校を日本人の学校施設のようにみなしてもらうこと。この学校で勉強した生徒の中には日本の大学を出て、現在エミレーツ航空で客室乗務員として働いている子もいれば、アメリカに留学していった子もいますから。

◆今後の経営方針について

「利用者を増やしたい」という回答がもっとも多かった。

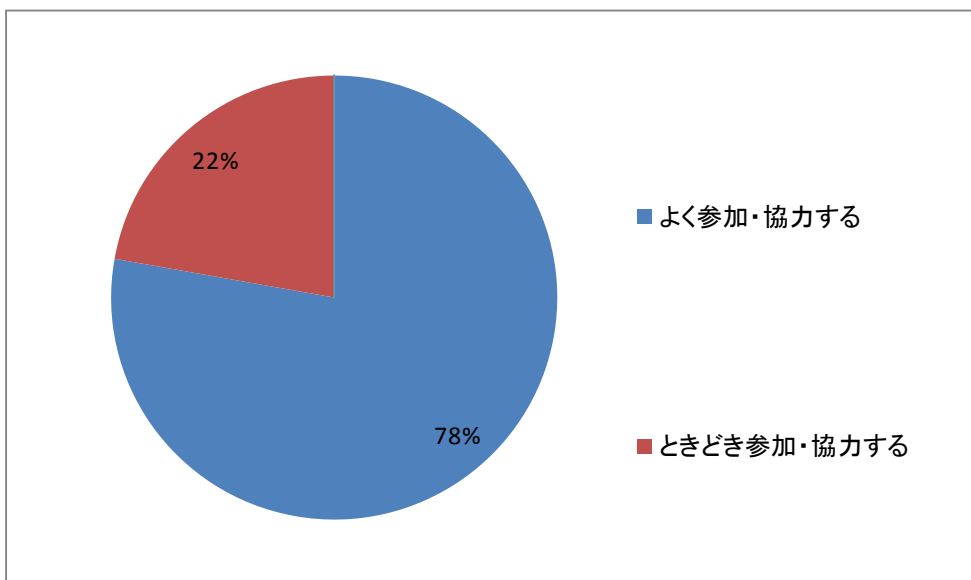


<インタビューより>

- ・生徒数を増やして、学校運営を継続させていくこと。(卒業生のためにも、永遠に学校を存続させたい。)
- ・行政やNPOには、学校のことをもっと多くの人に知ってもらえるようにアピールしてほしい。
- ・教育の質を上げたい。
- ・若者たちに就職のチャンスを持ってもらうため、大学の部を設立したい。
- ・一般企業に援助してもらい、経済的に厳しい家庭の若者に奨学金で学業を続けてもらいたい。
- ・学校法人になりたい。

◆地域のお祭りやイベントへの参加・協力

すべての教育施設が「よく参加・協力する」「ときどき参加・協力する」と回答した。



<インタビューより>

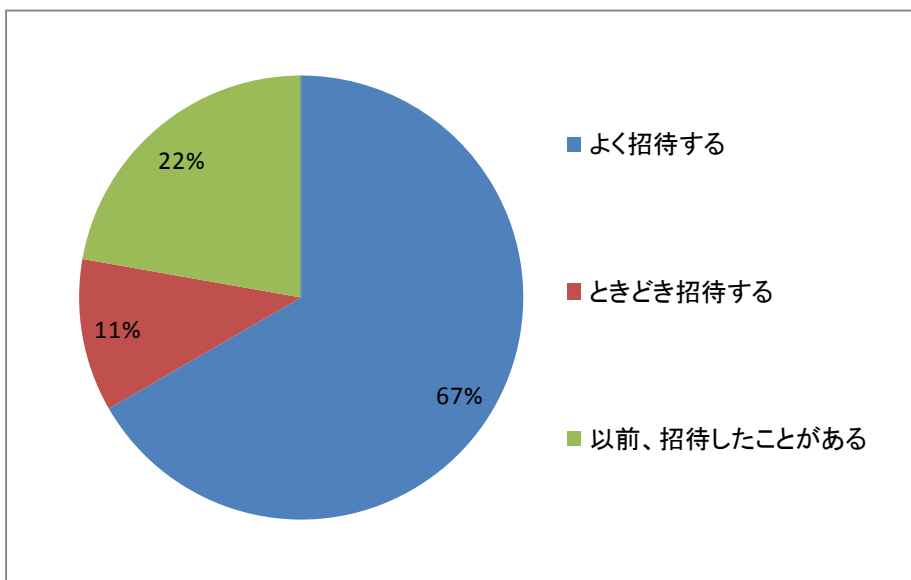
地域社会とのかかわりについて

- ・学校で行われる運動会やお祭りに近隣の人を招待したり、近くの学校に母国文化を披露しに行ったり、地域の文化センターのイベントに参加したるするなど、地域社会とのかかわりを持っている。今後もそれらを継続していきたい。
- ・学校が始まった時に、近所の方々が受け入れてくれたので、我々も彼らのやり方を尊重し地域のルールを学んだ。その甲斐があって、今日ではしっかり共生し、よい関係が築けている。
- ・現在も地域社会とのかかわりはあるが、もう少し地域の人と交流する機会がほしい。



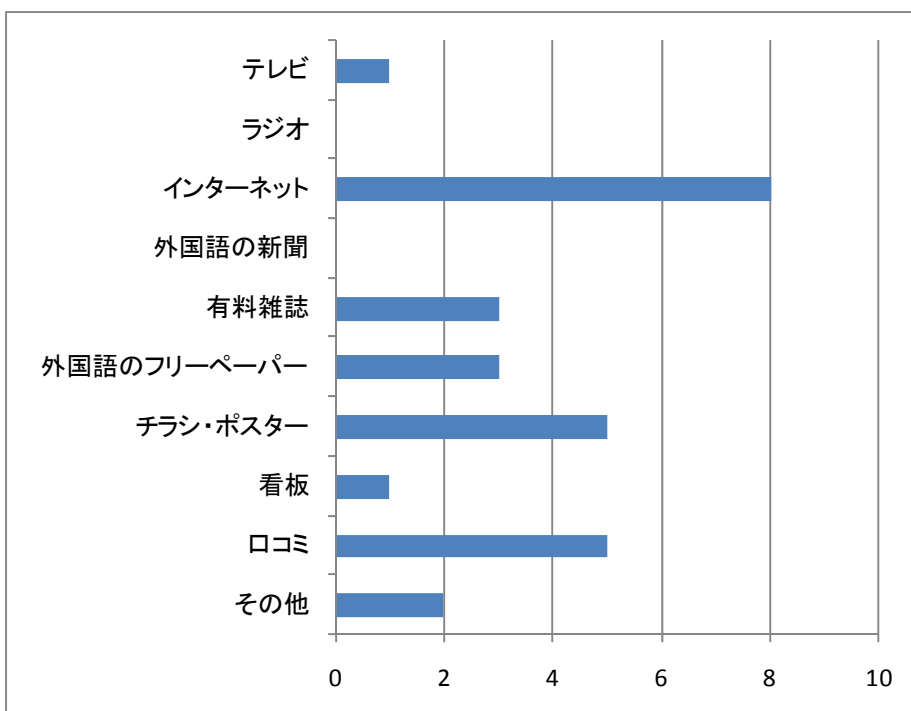
◆学校行事等への日本人住民の招待

すべての教育施設が過去に学校行事等に日本人住民を招待したことがある。



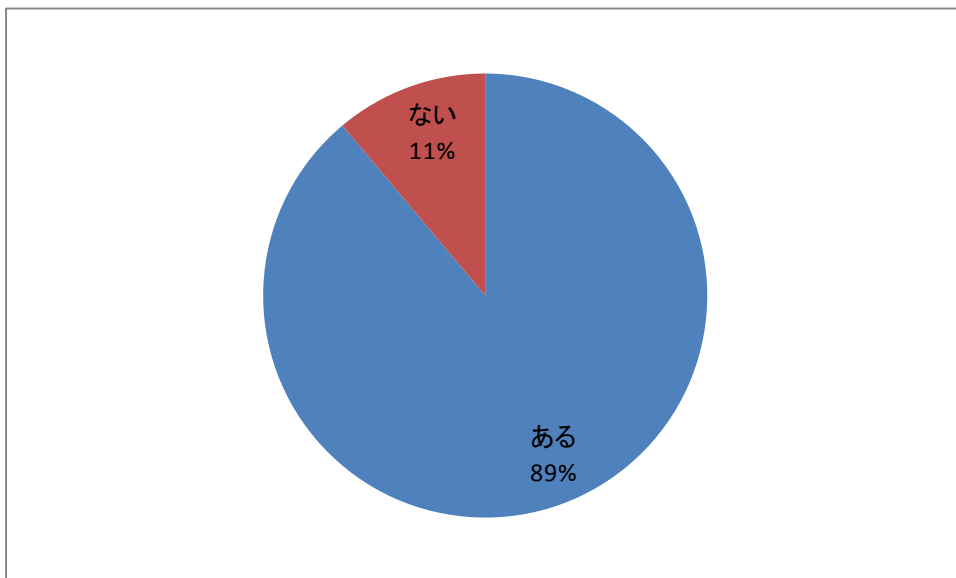
◆情報発信

8校が「インターネット」を通じて情報を発信している。次いで、半数以上の教育施設が「チラシ・ポスター」や「ロコミ」で情報を発信している。



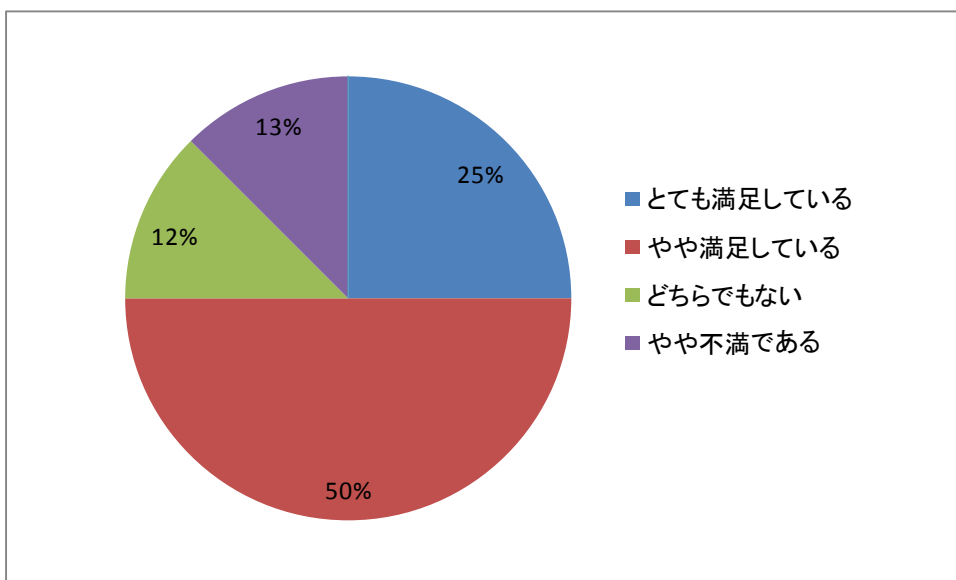
◆ホームページの有無

8校がホームページを持っている。



◆最近の活動状況について

3/4 の教育施設が最近の活動状況に「とても満足している」もしくは「やや満足している」。



<インタビューより>

活動を行う上でのやりがいや喜び

- ・この学校の卒業生が社会に出て活躍して、社会貢献してくれること。
- ・父兄やPTA・近隣住民の協力を得て、学校を運営できること。

- ・子どもに道徳（倫理やモラル）を教えられること。
- ・親御さんに認めてもらうこと。
- ・子どもたちの成長する姿を見届けられること。
- ・子どもたちが間違っただ道へ進まないように、指導できているとわかること。
- ・子どもたちの笑顔が見られること。
- ・カレンダーが、地域活動の予定でいっぱいであること。
- ・お客さんに免許取得のための支援ができること。
- ・子どもたちが些細なことでも幸せそうな顔をしてくれると嬉しい。
- ・文化や言語が大きく異なる日本において、母語や母文化を学んでいる子どもたちを見ること。

教育施設においては、資金不足を課題として挙げるところが多かった。そのため、生徒数を増やしたいと望む学校が多くみられた。また、地域社会とのかかわりは良好な学校が多く、地域のルールを守ったり、学校行事に招待したりするなど積極的に交流が持たれていた。

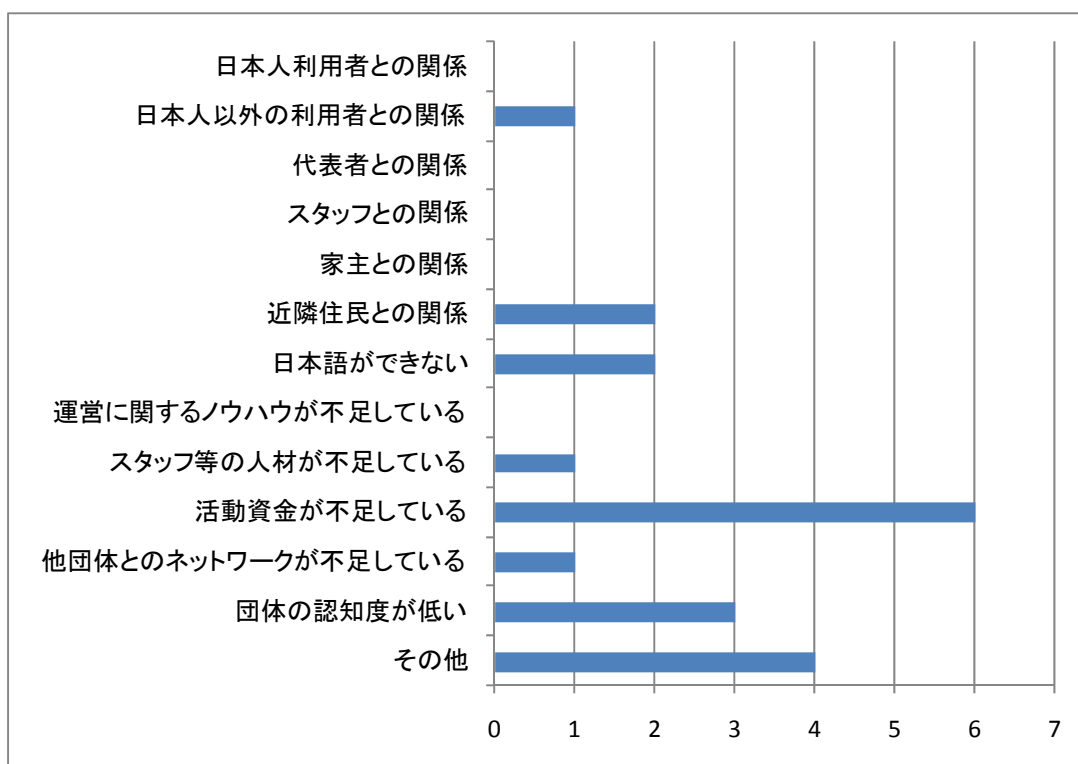
## 5. 宗教施設

調査協力者 10件

内訳：ブラジル6，アメリカ2，日本1，その他1（スリランカ）

### ◆運営上の困難・トラブル

運営上の課題としては、「活動資金が不足している」との回答がもっとも多かった。「その他」には、宗教法人になることが難しい、若い人が教会に関心をもたない、日本人と外国人ともに外国語（相手の言葉）ができない、政府からのサポートが足りない等の意見があった。



### <インタビューより>

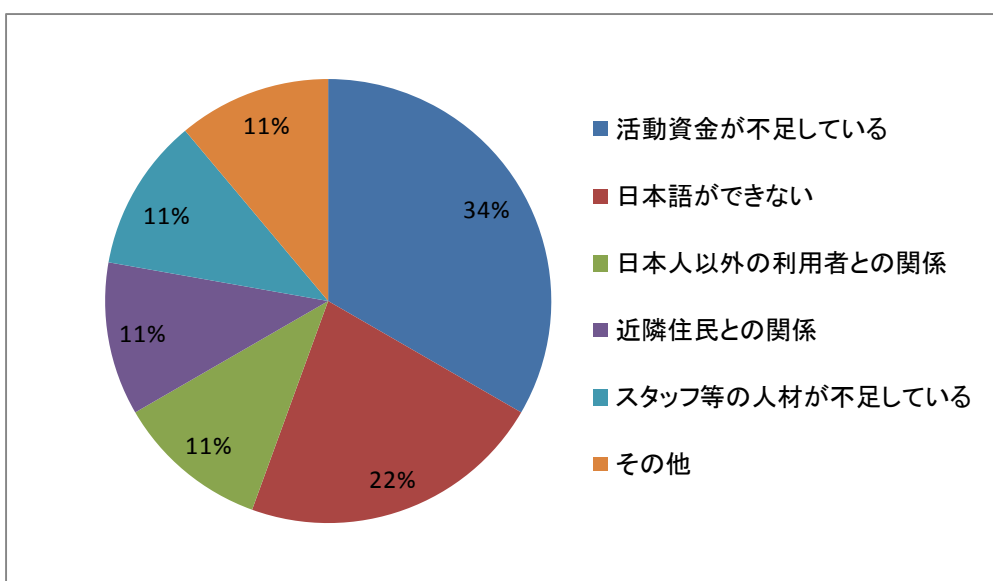
- ・礼拝を夜にやることが多く、盛り上がってしまうと地域住民に迷惑をかけてしまう。
- ・場所を借りること。
- ・教会に興味を持ってもらうこと。最初は「宗教」だということでカルト的な見方をされてしまうこともあり、人が集まらなかった。
- ・日本の高齢化の影響を受け、若い利用者が集まらない。
- ・多くの困っている人を助けたいと思うが、宗教法人であるため、なかなか積極的に表立

って活動することが難しいところもあり、それがジレンマになっている。

- ・日本人の利用者を増やすこと。協会は7年間活動しているが、日本人はとても少ない。
- ・教会の場所がなくなることが不安。今は場所を借りているが、来年も借りられるかどうかはわからない。

#### ◆特に困っていること

「活動資金が不足している」と「日本語ができない」ことを大きな課題として認識している団体が約半数であった。

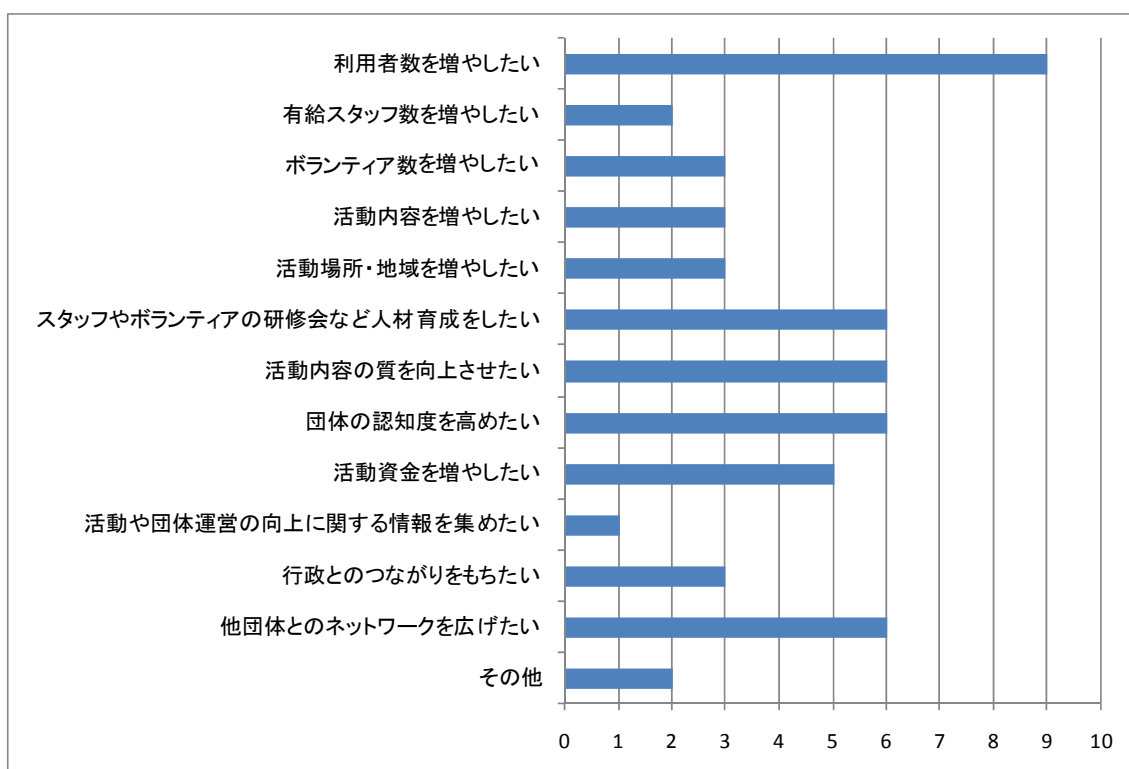


#### [対処方法]

- ・青年会を設立（遠足に行ったり、教会で料理を作るなど）
- ・音が漏れないように音量を下げ、日本の人々（ご近所さん）に迷惑をかけないようにするのが解決策だと思う。
- ・自分の物件を持つために、融資をしてもらう。それは私達が社会的な貢献を希望するからであり、学校やスポーツセンターのような場所が必要。
- ・私は日本語を勉強している。そして、アメリカからお金を得るために働いている。
- ・もっと多くの情報があればよい。
- ・政府にもっと理解して欲しい。
- ・日本語で聖書用語を話せる、日本語もポルトガル語もできる人がいたら、今の問題を解決することができるかもしれない。
- ・日本語。日本人住民にも布教したいが、日本語で説明するのが難しい。

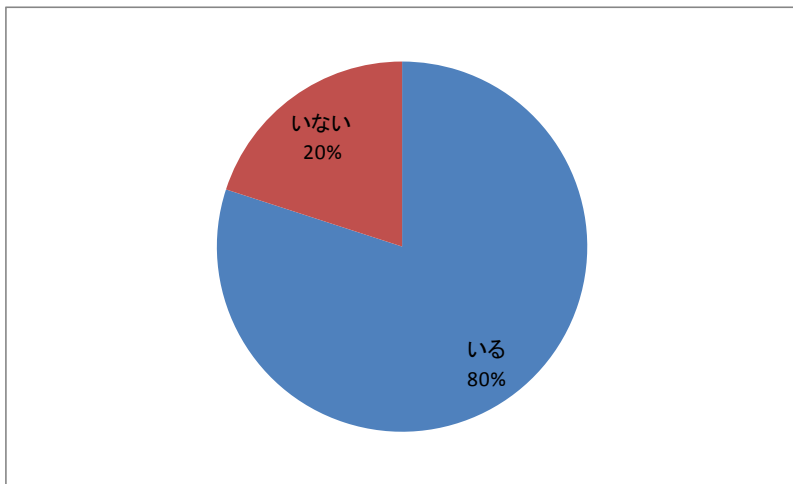
◆今後の運営方針について

もっとも多かったのは「利用者数を増やしたい」という意見であったが、半数以上の施設から「スタッフ等の人材育成」や「活動内容の質の向上」、「団体の知名度UP」、「他団体とのネットワークの拡充」を希望する声もあった。また、「その他」には、刑務所にいるすべての人々を助けられるようになること、若者の参加者がほしい(小さい頃は喜んで活動に参加しているが、中・高生になると離れていく)等の意見もあった。



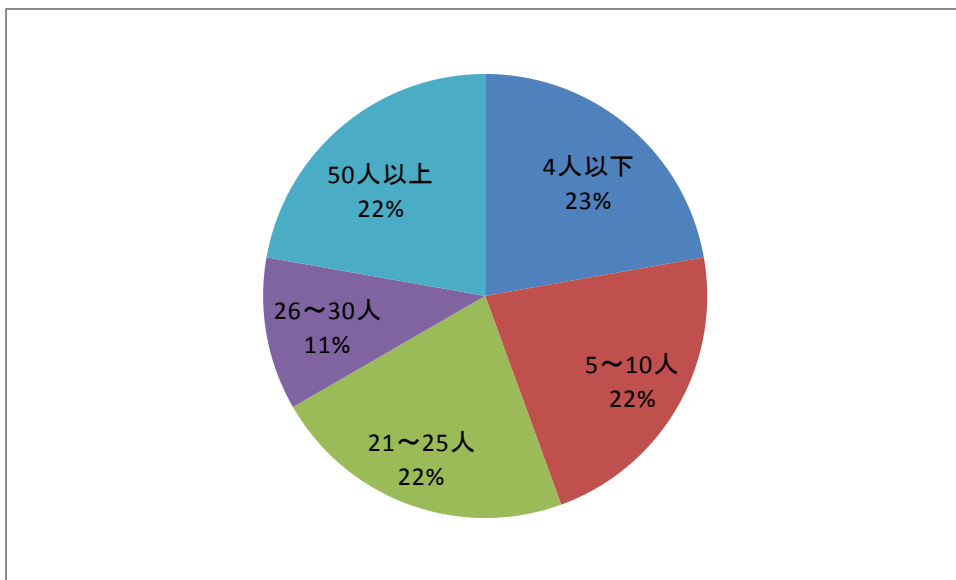
◆日本人利用者の有無

8割の施設が、日本人利用者が「いる」と答えた。



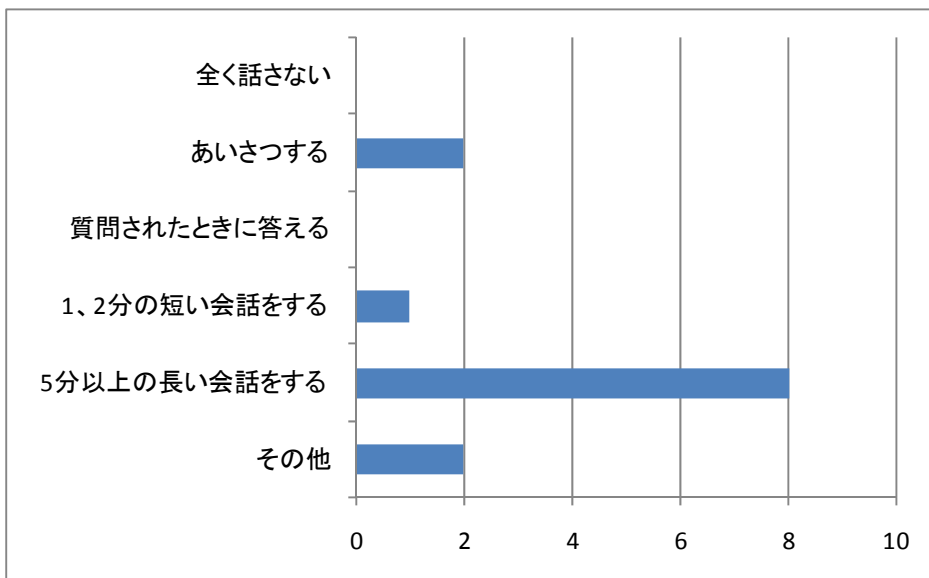
◆一回のお祈りの日本人平均利用者数

日本人の平均利用者数は施設によってさまざまであるが、「50人以上」と答えた施設も2つあった。



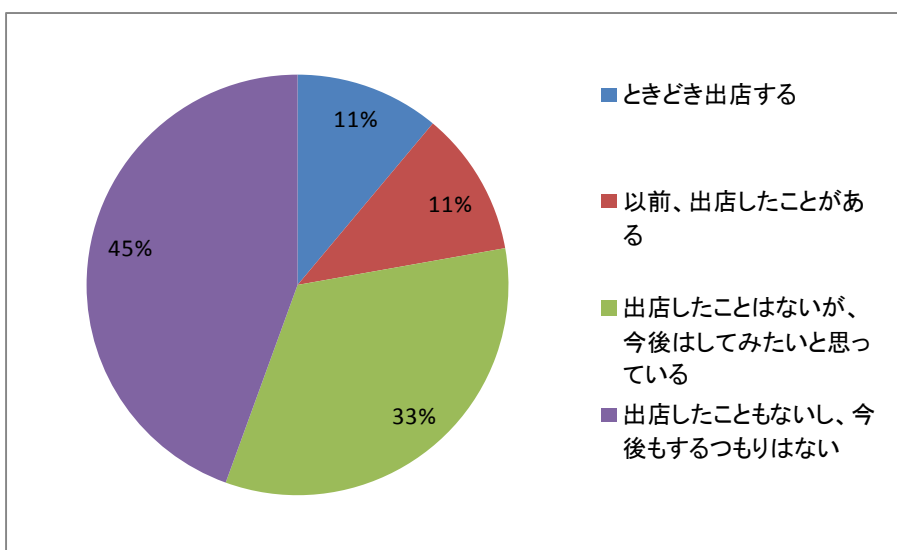
#### ◆日本人利用者への接し方

ほとんどの施設が「5分以上の長い会話をする」と答えた。「その他」には、外国人の利用者には平均1,2分の短い会話で対応（日本人に対しては比較的ゆっくり丁寧な対応をする）等の意見があった。



#### ◆地域のお祭りやイベントへの参加・協力

約半数が今後の出店予定はないと答えたが、その理由については回答が得られなかった。



#### <インタビューより>

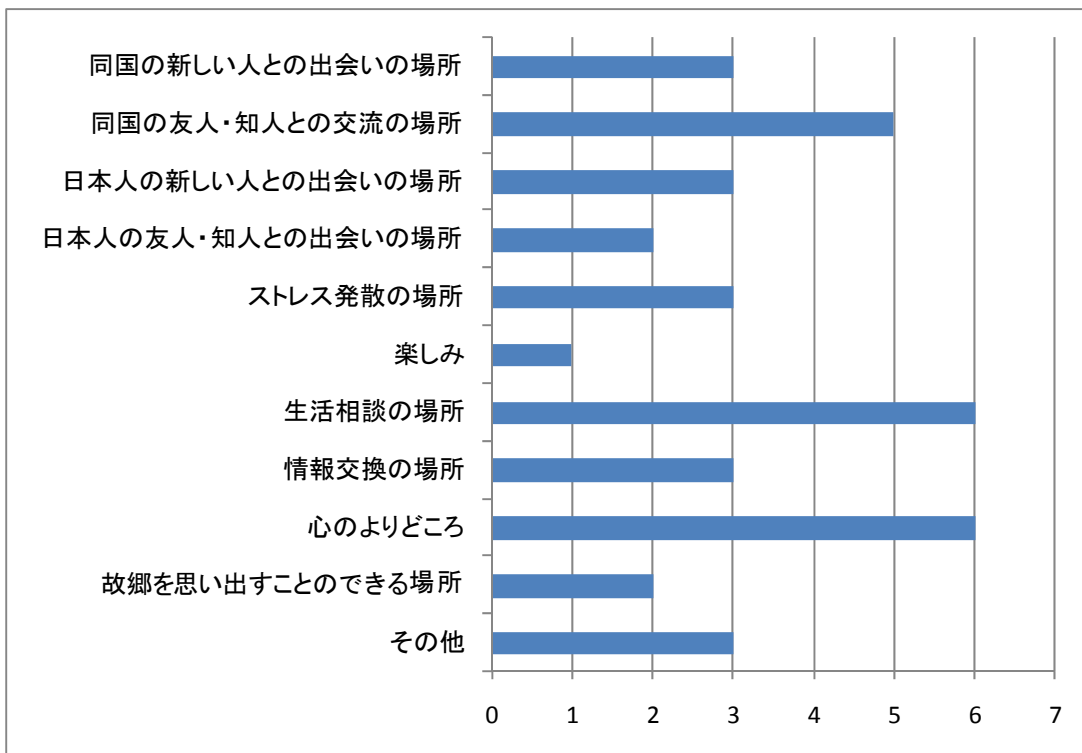
- ・現在もホームレスや、この地域で困っている人などを助ける活動をしているが、今後も引き続き、そのように活動をしていきたい。



- ・困っている人がいれば、この教会に助けを求めに来てくれるように地域社会と仲良く関わっていきたい。
- ・昨年の春は地域とのつながりはあったが、継続性がなかったので、今後はつながりが長く続くことを期待している。

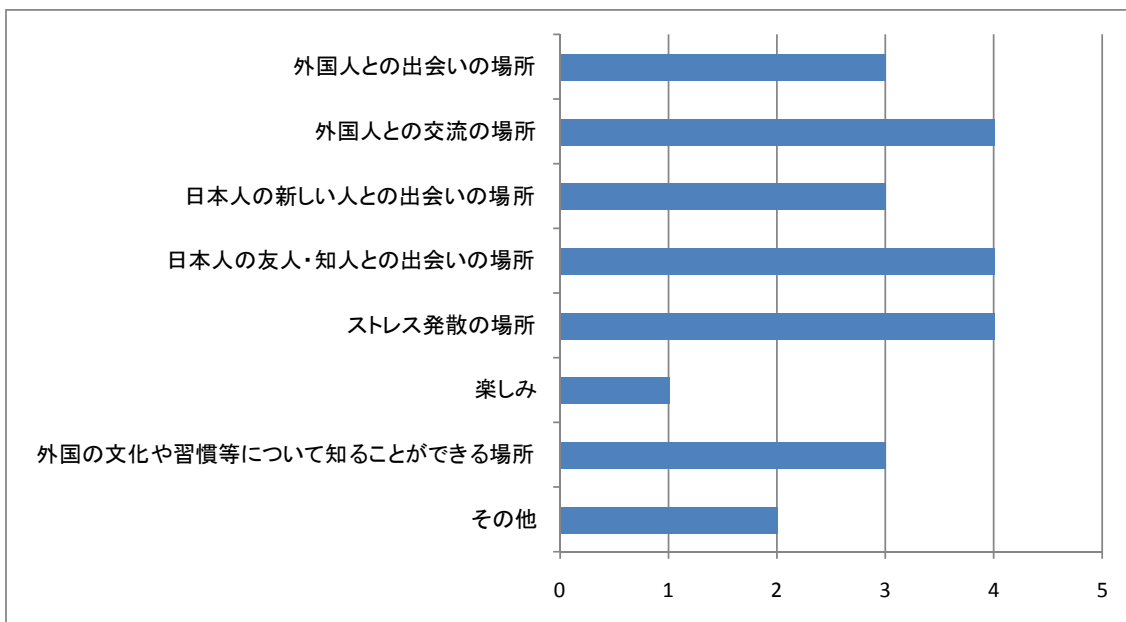
◆外国人住民にとっての存在意義

宗教施設は、「心のよりどころ」と同程度に「生活相談の場所」「同国の友人・知人との交流の場所」であるという認識をもつ施設が多かった。「その他」には、あらゆる面において助けてくれるところ、という意見もあった。



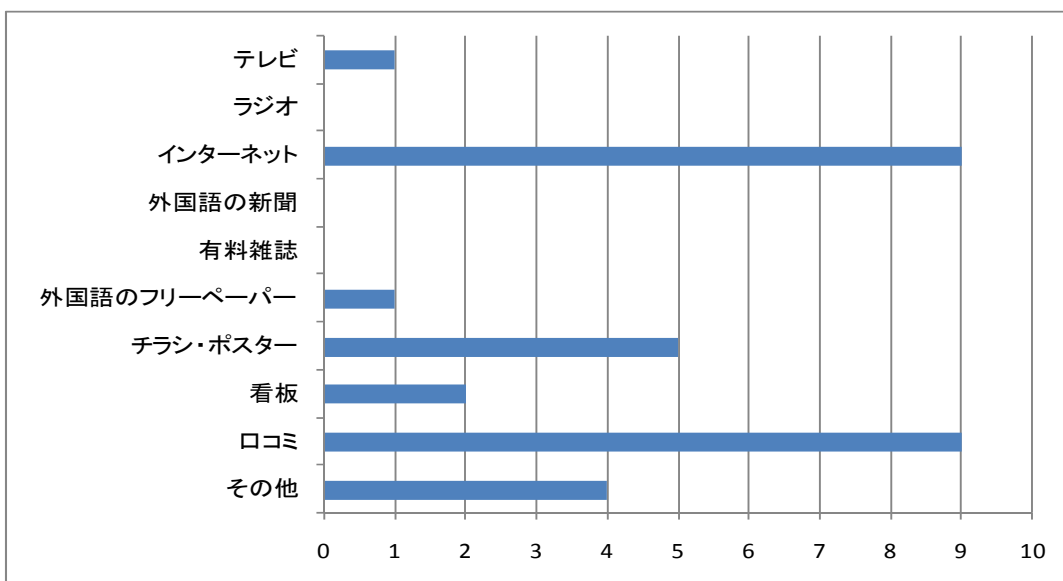
◆日本人住民にとっての存在意義

日本人・外国人問わず「交流の場所」であり、また「ストレス発散の場所」であるという回答が多かった。



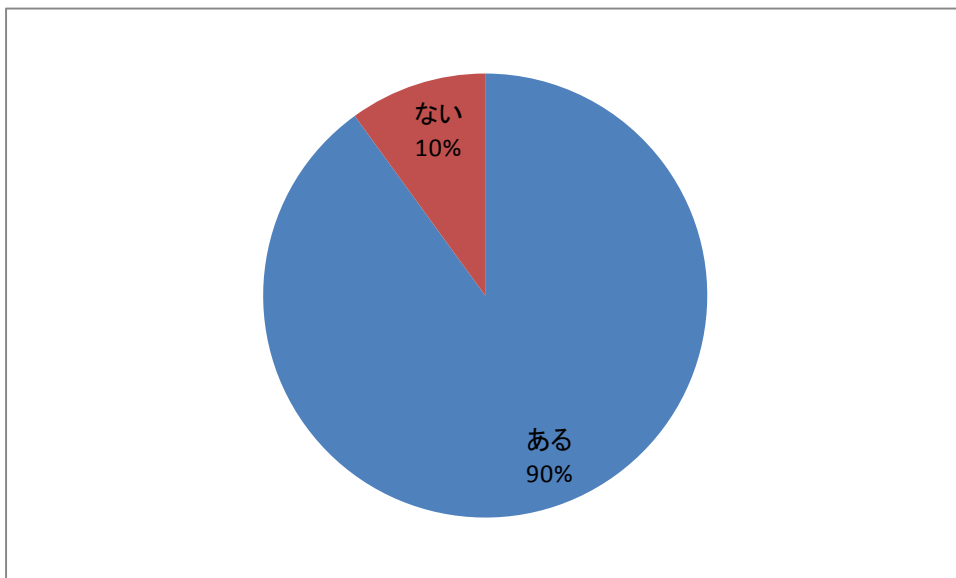
◆情報発信

ほとんどの施設が、「インターネット」情報発信を行っており、また同じくらい「口コミ」による効果が大きいと答えた。「インターネット」では、ホームページ以外に SNS (Social Networking Service) も利用されていた。「その他」には、新聞の発行や招待カードの送付を行っているという意見があった。



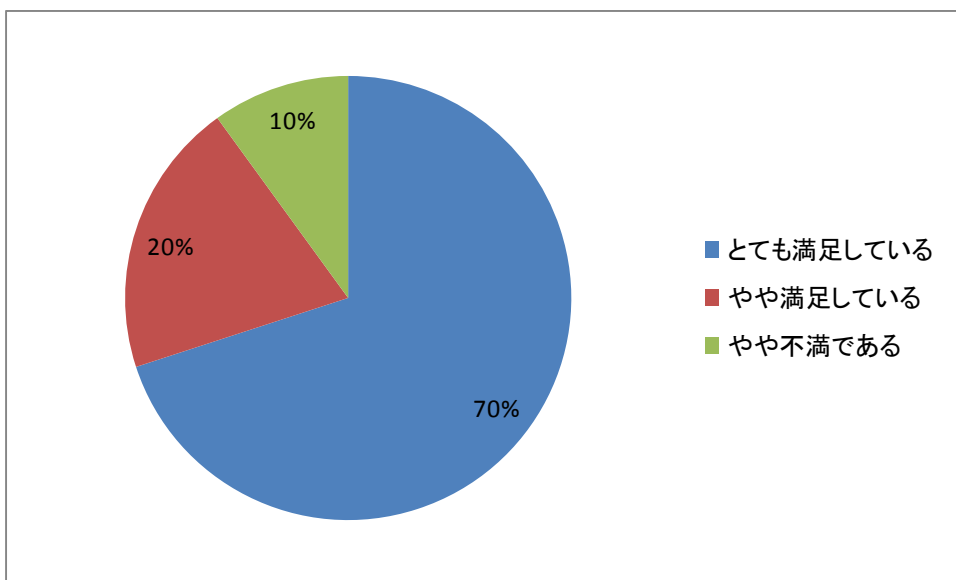
◆ホームページの有無

10 施設中 9 施設が、ホームページが「ある」と答えた。



◆最近の活動状況

ほとんどの施設が、活動状況に満足感を感じていた。



<インタビューより>

活動を行う上でのやりがい・喜び

- ・私たちが助けて人生が変わっていく人を見ること。
- ・国籍や宗教を問わず、困ったり悩んでいる人を助け、その人たちと家族のようなつながりを持つことができること。

宗教施設においては、活動を通じて地域には迷惑がかからないよう配慮している一方で、地域のお祭り等に参加したことがある施設は2割とあまり関わりをもっていないことがわかった。しかし、日本人の利用者を増やしたいという声は多く、日本語の上達または日本語が話せる（日本語で聖書の内容を説明できる）人の協力を望んでいる。

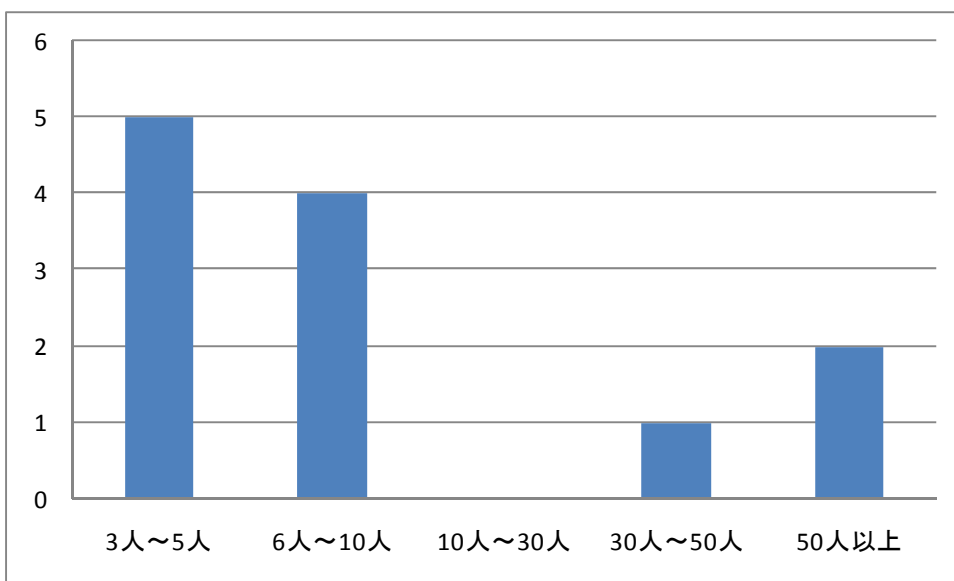
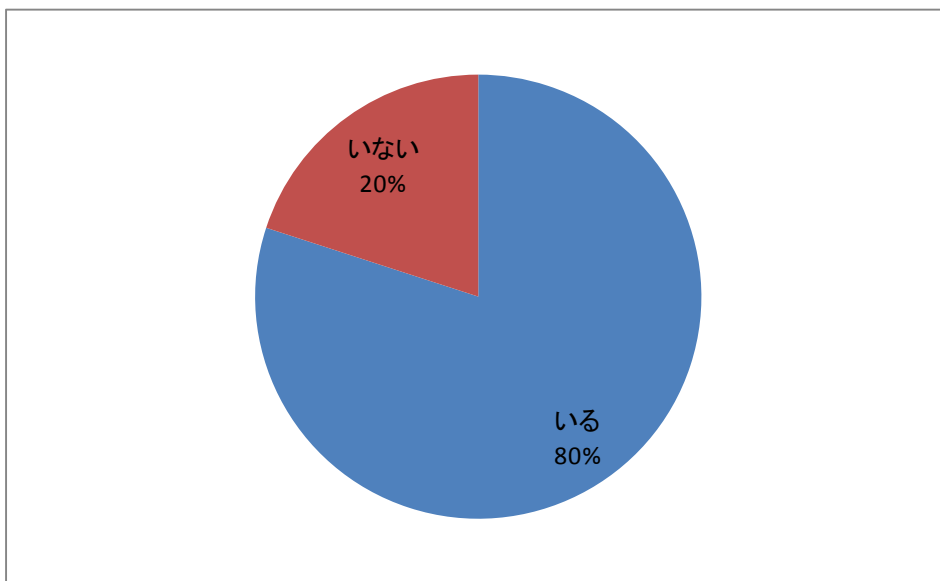
## 6. 娯楽・教養施設

調査協力者 15 件

内訳：ブラジル 8，日本 3，ペルー 2，朝鮮・韓国 1，その他 1（ベネズエラ）

### ◆日本人利用者の有無

全体の 8 割の施設が日本人利用者が「いる」と答えた。そのうち、半数の施設では日本人利用者が 10 人未満である。

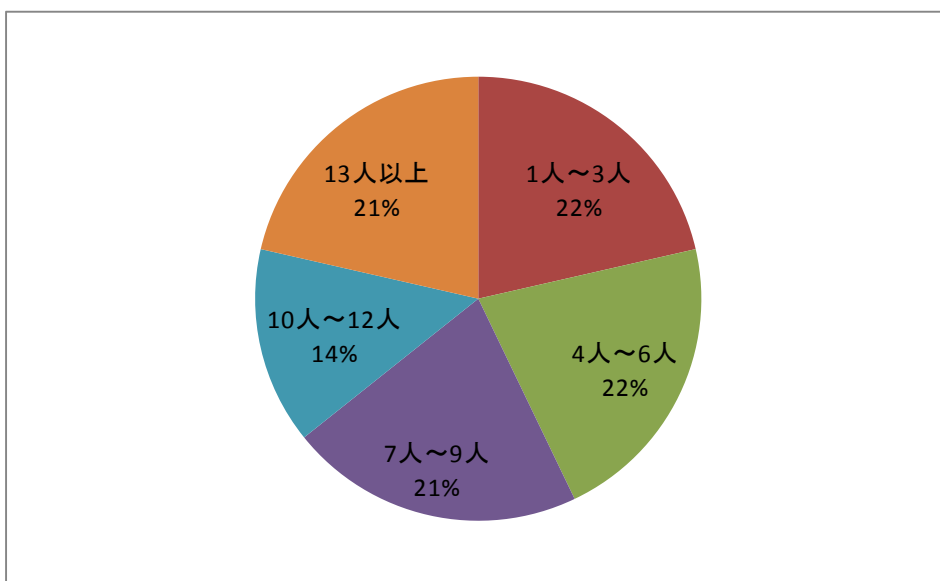


<インタビューより>

- ・日本にいるから、日本人のお客さんを増やしたい。
- ・国籍は問わない。どんな方でもウェルカム。
- ・文化交流という点で、我々の文化をよく知り、偏見を取り除いてもらうために日本人の利用を拡大したい。そして我々にとっても日本語をより学ぶために、日本人とコミュニケーションをとるために、より強く共生していくために、日本人の利用を増やしたい。
- ・日本人にターゲットをシフトしたい。
- ・できれば日本人にも利用してほしい。そうすれば、教室の基礎が強くなるし、日本人とも仲良くなれるし、ブラジル人も良くなる。

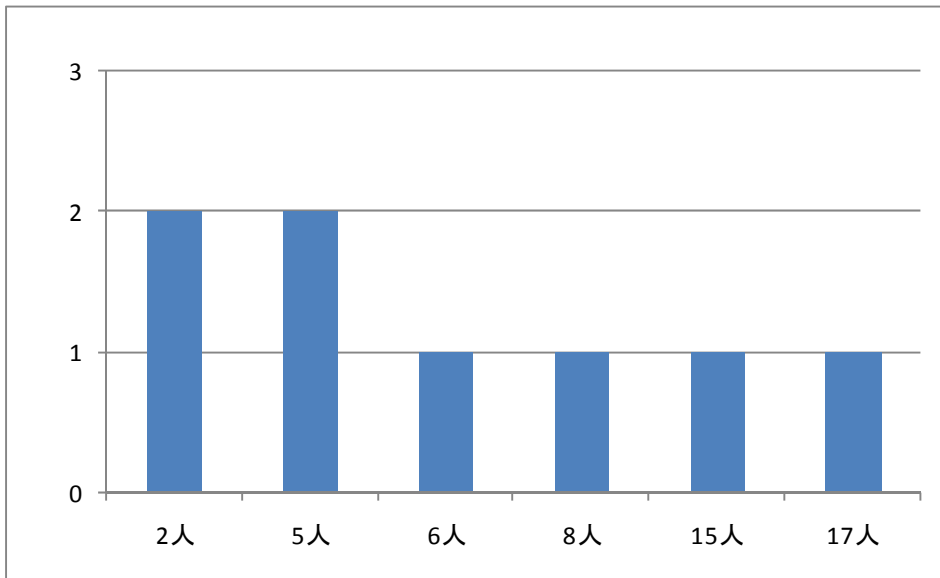
◆団体の構成員 ※全体の人数

約半数の団体が、構成員が7人以上いると回答している。



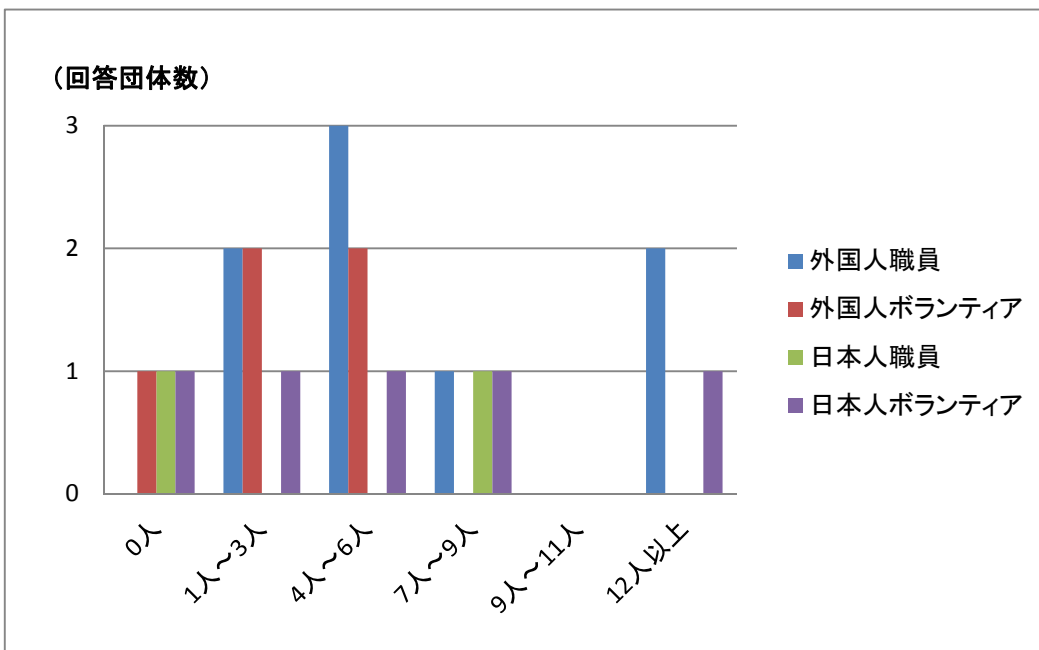
◆団体の構成員 ※外国人職員の人数

約半数の団体が外国人職員の数が8人以下であると回答している。



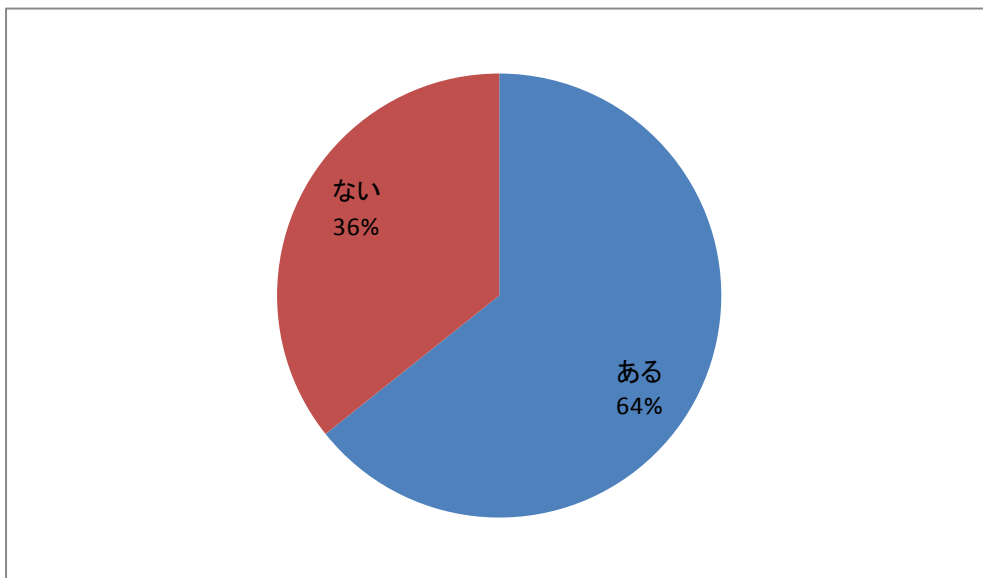
◆団体の構成員 (内訳)

日本人職員もしくはボランティアがいると回答した団体は5団体であった。



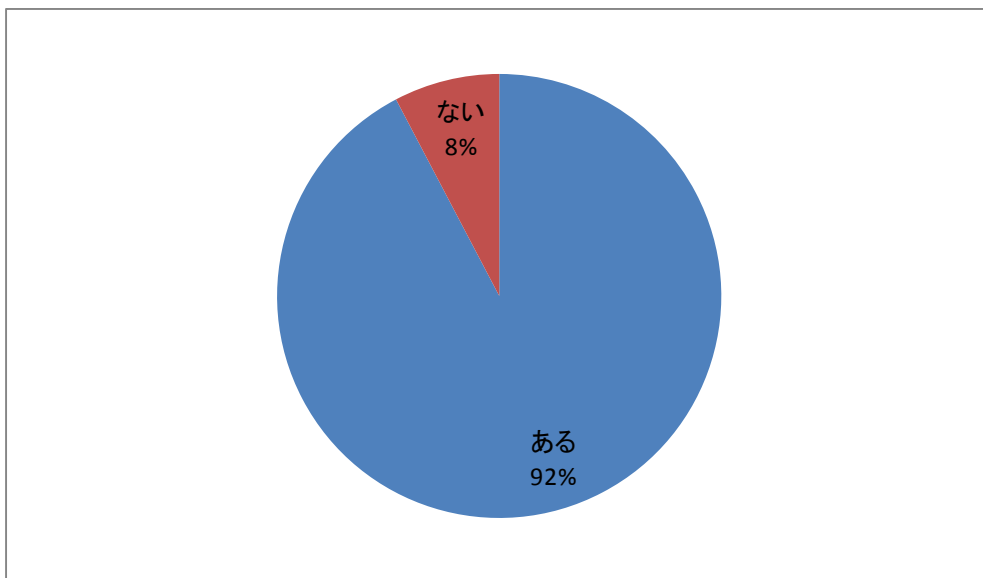
◆ホームページの有無

ホームページをもっているのは、15 団体中 9 団体であった。



◆会員制度・月謝等の有無

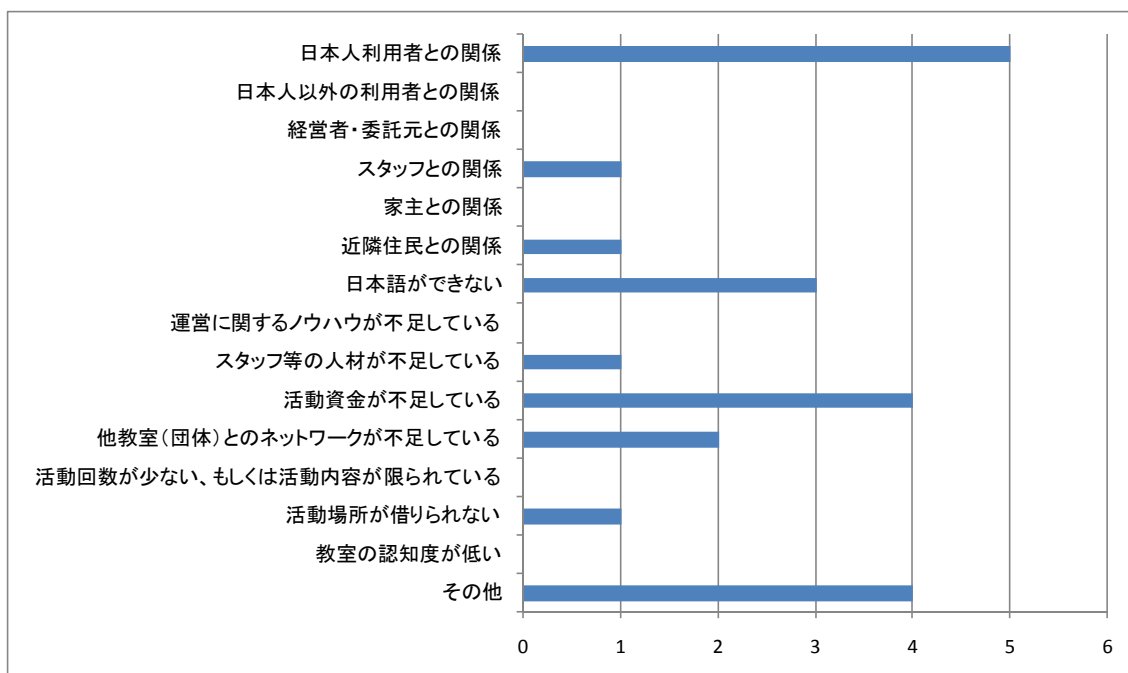
9 割の団体が会費もしくは月謝が「ある」と回答している。





#### ◆運営上の困難・トラブル

「日本人利用者との関係」「活動資金が不足している」ことを課題に感じる団体が多かった。「その他」には、スタッフの離職率が高い、ハローワークの記入シートの記入の難しさ等の意見があった。

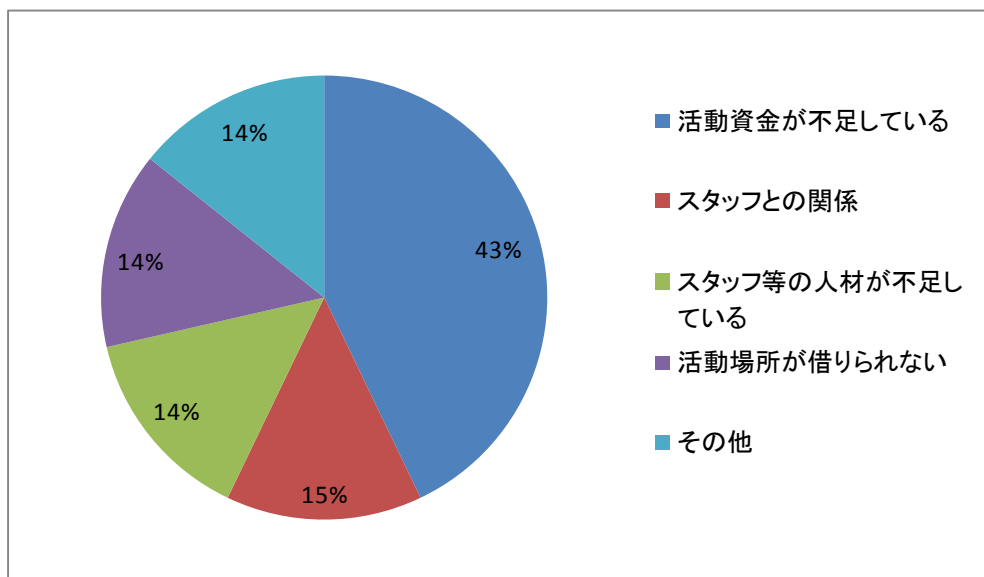


#### <インタビューより>

- ・専用の場所を借りること。
- ・ボランティアの人数を増やすこと。
- ・親（保護者）の参加が少ない。
- ・教室の立地条件が悪く、自分以外の先生を見つけることが困難であること。
- ・認知してもらうまでに時間がかかったこと。
- ・日本の同様の施設と競争すること。
- ・施設を運営を維持していくことが難しい。設備のメンテナンスや人件費が不足している。
- ・質の高い人材を探すこと。
- ・駐車場のことで日本人とトラブルになること。
- ・財政上の援助がないこと。

◆特に困っていること

上記のうち、「活動資金が不足している」ことを大きな課題と認識していた。

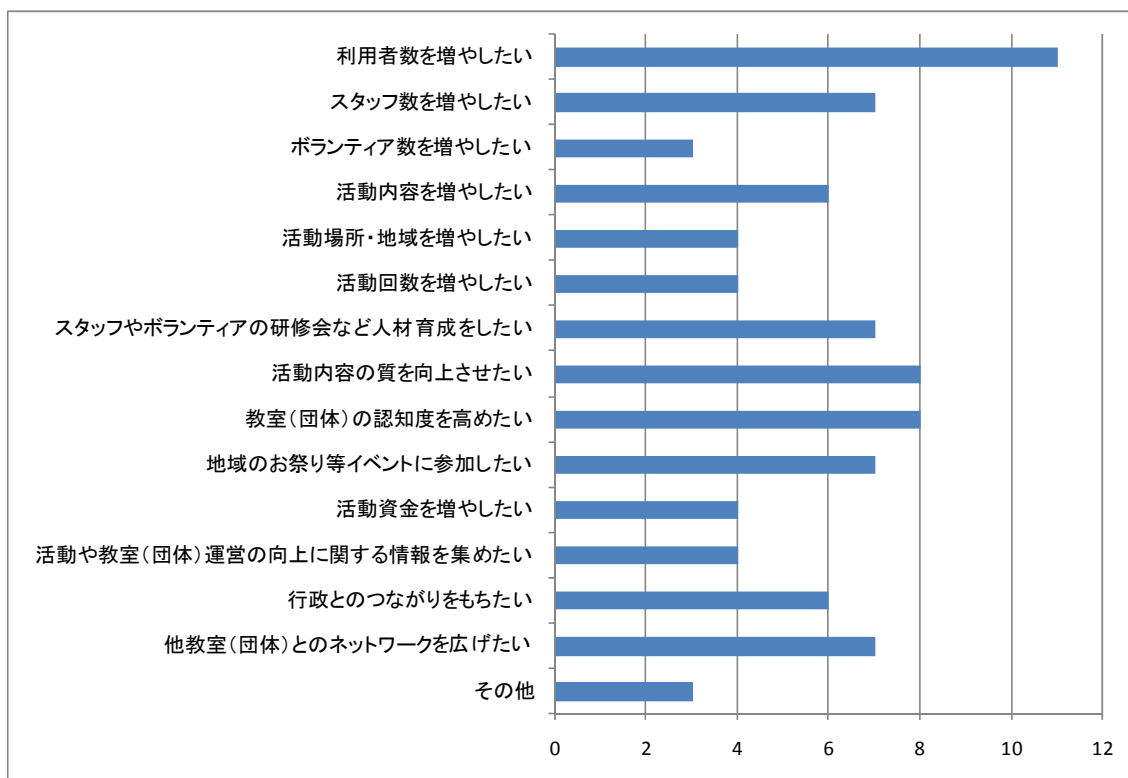


[対処方法]

- ・民間団体（NPO）をさがし、会費をもらって経営に役立てたい。ビンゴやくじ引きなどのイベントを開催し、利益を追求したい。
- ・家賃が安くなること。
- ・現在各学校は文部科学省の承認を受けるためには難しい段階にある。外国人学校は一般企業として考えられるため、日本人の学校のように融資を受けることが困難。また役所に出す用紙への記入は難しいため、日本人の学校のように、外国人の学校も融資を受けられるようになれば良いと思う。多言語での情報、講義、相談所、または助けてくれるところが足りていない。

◆今後の運営方針について

「利用者数を増やしたい」という回答がもっとも多く、「活動内容の質を向上させたい」「教室（団体）の認知度を高めたい」という回答が次に多かった。

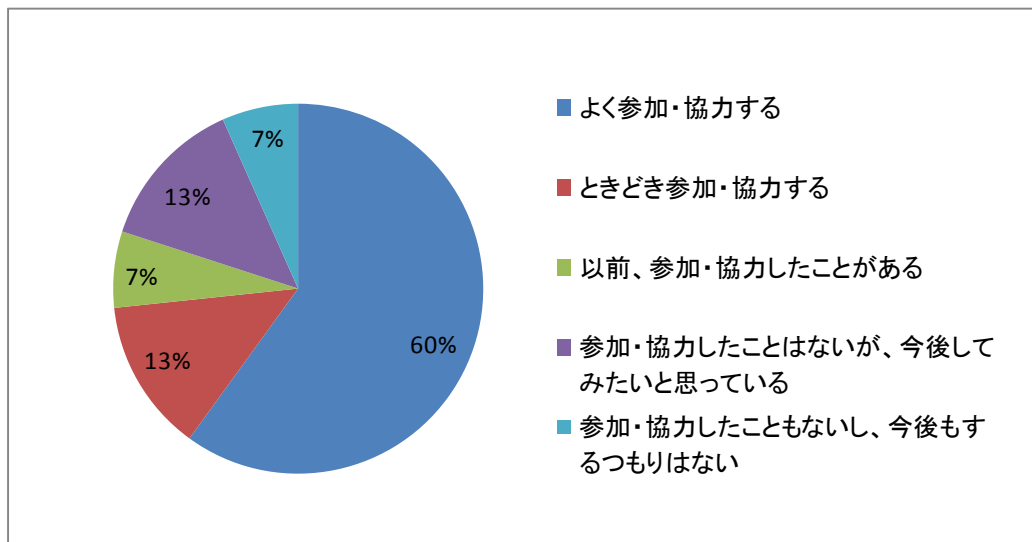


<インタビューより>

- ・ 語学教室をより中身の濃いものにして、ほかの大規模な語学学校ではできないサービスをしたい。行事を増やしたい。
- ・ 行政には同国人のネットワークを構築してほしい。
- ・ 日本人のお客さんが来るように接客をよくしたい。
- ・ 才能のある子どもたちを伸ばすために、公的な援助がほしい。

◆地域のお祭りやイベントへの参加・協力

8割の団体が過去に出展経験があった。



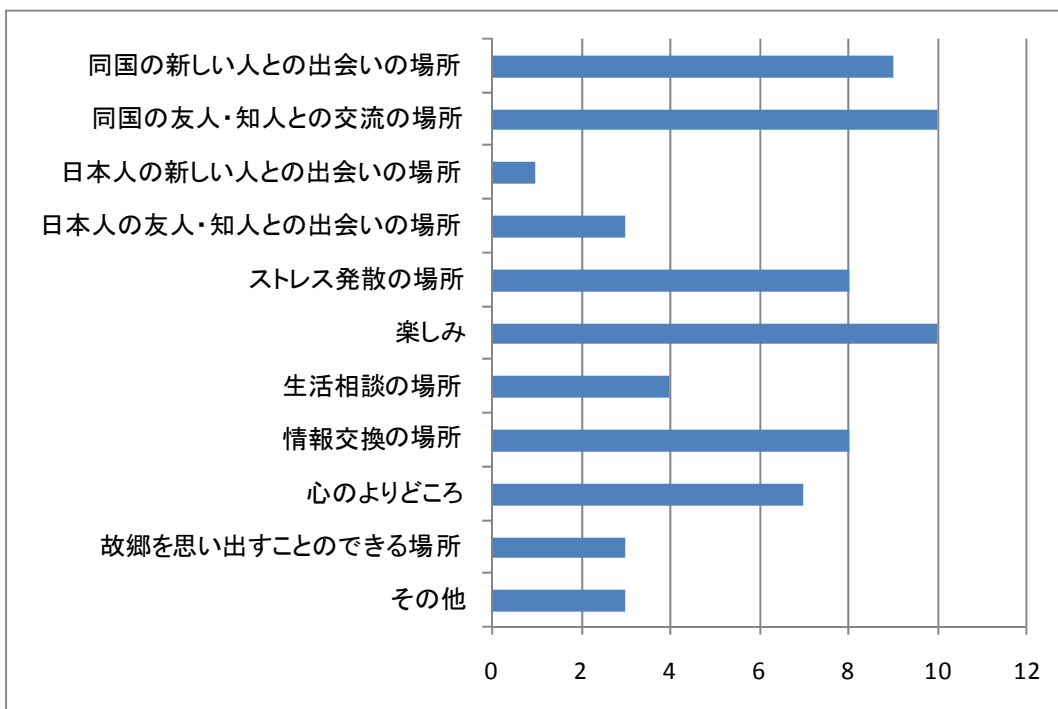
<インタビューより>

地域とのかかわりについて

- ・大会があったら参加させてもらいたい。
- ・地域との良い関係を維持するために、コミュニティの問題を知らなければいけない。
- ・まだ地域の人々とのつながりはないが、将来はつながりを持ちたい。そうすれば、日本人ともうまくやれる。

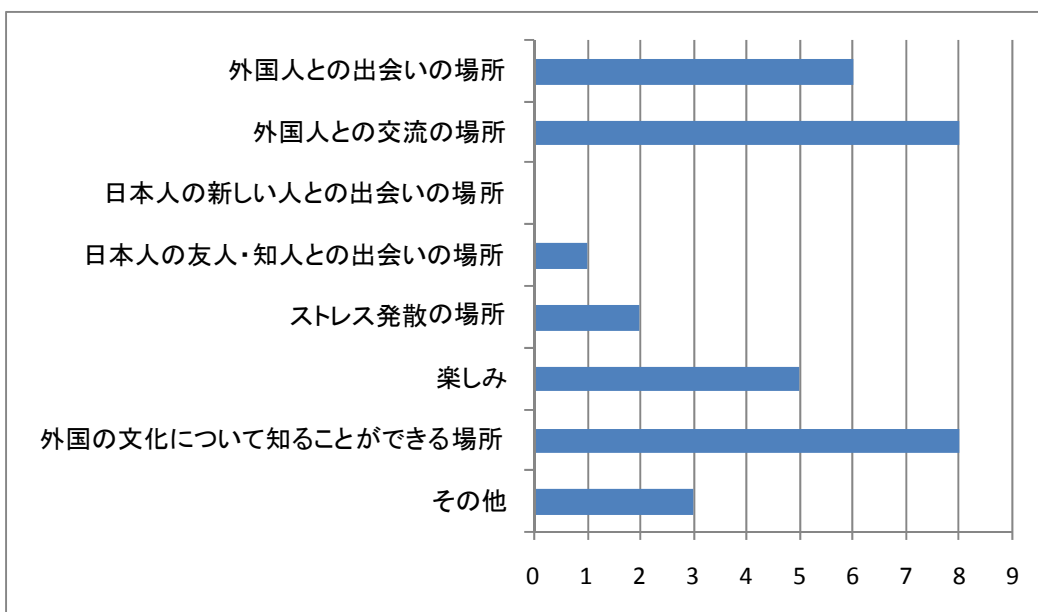
◆外国人住民にとっての存在意義

人との交流だけでなく、楽しみ、ストレス発散、情報交換の場など様々な役割があると答えた団体が多かった。



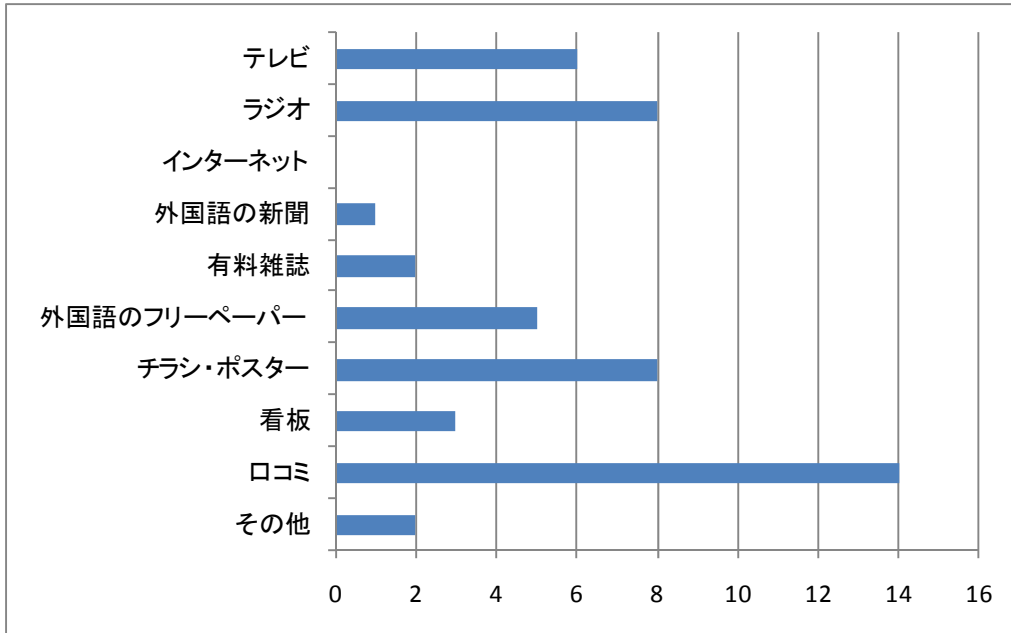
◆日本人住民にとっての存在意義

日本人住民にとって「外国人との交流の場所」「外国の文化について知ることができる場所」と認識している団体が多かった。



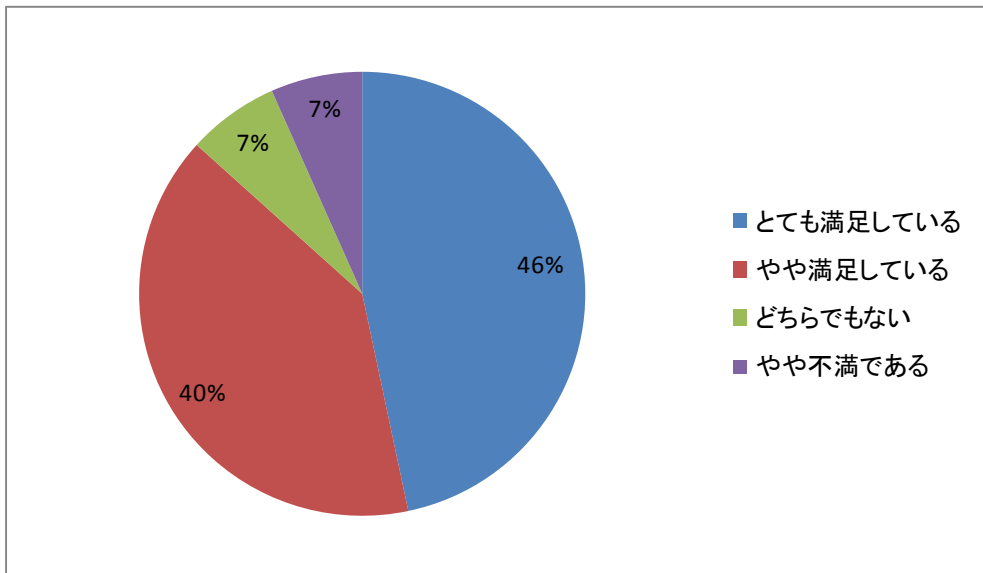
◆情報発信

「口コミ」を通じた情報発信が最も多かった。次いで、「ラジオ」「テレビ」等のメディア、「チラシ・ポスター」が利用されている。



◆最近の活動状況について

約9割の団体が活動状況に満足感を感じていた。



<インタビューより>

活動を行う上でのやりがい・喜び

- ・子どもたちの勉強できる場所があること。
- ・我々の母国語を学んでいる人が母国文化にも興味を持ってくれること。
- ・この施設で学んだ人が、大会等で活躍すること。

娯楽・教養施設においては、全体の8割の施設が日本人利用者が「いる」と答えたが、そのうち、半数の施設では日本人利用者が10人未満である。しかしながら、今後日本人の利用者を増やしたいと望む声が多く、活動を通して日本人と同国人の交流を深めたり仲良くなりたいという考えているようである。

### コラム3

アカデミア・ガッハ：碧南市にあるスポーツ道場（ブラジル）

2月18日、碧南市にあるスポーツ道場を訪れ、道場主Aさんの奥さんであり、道場の事務を担うRさんに話を聞いた。



「現在、道場の経営状態が非常に厳しく、夫のAは道場運営を続けるために工場で働かなければいけなくなりました。不況以前はテコンドーだけで80人もの生徒がいてAは道場に専念できましたが、今は半分以下しかいません。子どもも生まれ、生活を維持するため、道場を維持するため、Aは工場で働いています。彼は、日本にいる外国人の生活をスポーツを行うことにより豊かにするという使命を感じており、またテコンドーを愛しているため、道場を手放そうとはしません。」

Rさんの話の後、テコンドー子ども教室を見学し、大人のテコンドー教室を体験させてもらった。子ども達は練習が始まる前は元気に走り回っていたが、練習中は無駄なおしゃべりはせず、先生の指示・掛け声に従い真面目な表情で練習に打ち込んでいた。生徒同士の仲がよいため、空気が張りつめすぎることなく、組手の最中に蹴りが腕に入ってしまったも皆で笑って済ませてしまえる和やかさがそこにはあった。



大人のテコンドー教室では、準備運動、蹴りの打ち込み、組手と行ったメニューを皆がテンポよく黙々とこなしていた。手を抜いているような人は一人もおらず、全員が真剣に取り組んでいたが、練習が終わると一転、皆、笑顔で仲良く会話をしていた。生徒同士の仲が良く、先生を中心にまとまっており、とてもアットホームな雰囲気だったアカデミア・ガッハ。テコンドーが好きで必死に練習する彼らと日本語・ポルトガル語・韓国語でコミュニケーションを図るのが、とても面白かった。



## 7. その他

上記、1～6に該当しない施設をその他に分類した。こちらには高齢者介護を行う団体や外国人の散在する地域の日本語教室等が該当する。

### ◆運営上のトラブル・困難

「施設の認知度が低いこと」がもっとも多かった。

<インタビューより>

- ・利用者を増やすことが難しい。もっと多くの方にこの施設を知ってもらいたい。

### ◆今後の運営方針について

「利用者数を増やしたい」「施設の認知度を高めたい」「活動資金を増やしたい」「行政とのつながりをもちたい」という意見が聞かれた。

<インタビューより>

- ・行政には、施設の認知度を高めるためにもっと宣伝してほしい。

### ◆外国人住民にとっての存在意義

同国及び日本人との出会い・交流の場であると同時に、ストレス発散や楽しみ、生活相談や情報交換など多様な機能を果たしている。

<インタビューより>

活動を行う上でのやりがい・喜び

- ・利用者が心を開いて自分らしく民族の文化を楽しみ、この施設に来ることが「生きがい」だと言ってくれること。

### ◆日本人住民にとっての存在意義

「外国人との出会い・交流の場」、「外国の食べ物や音楽について知ることができる場」との回答が多かった。

<インタビューより>

活動を行う上でのやりがい・喜び

- ・年に一度、日本人のコーラスボランティアの方が来てくださるときに、私たちの文化を理解してくれること。

### 地域社会とのかかわりについて

- ・この施設がある瀬戸市には朝鮮人学校があるので、多くの住民にもっとそのことを知ってもらい、このような施設があることが当たり前のように思ってもらえる地域になってもらいたい。

#### ◆情報発信

「インターネット」や「口コミ」による情報発信が行われている。

その他の施設・団体においては、そのコミュニティが外国人にとって心のよりどころになっており、日本人にとっては外国の文化を知る場となっていた。とりわけ介護施設については、利用者が異国にいながらにして食べ慣れた食事を口にし、よく知っている歌や遊びで施設のスタッフや他の利用者と気楽に交流することができる、また家族も安心して預けることのできる、かけがえのない居場所であることがわかった。

#### コラム4

2010年12月5日（日）田原市あかばねひらがなの会 クリスマスパーティーに参加して

師走に入ったある日曜日、私たちは渥美半島にある小さな市民館に到着した。とびきりの笑顔で私たちを迎えて下さったのは、あかばねひらがなの会の代表であるN先生。その日は、クリスマスパーティーが行われ、教室に通っている学習者さんやボランティアの皆さんが集っていた。小さな子どもから高齢



者まで45名ほど集まったこの会では、一つの調理室で皆で力を合わせて、炊き込みご飯やお吸い物、さつまいもの茶巾しぼりなど、日本の家庭料理を作った。参加者の多くが、中国人花嫁、もしくは研修生だったが、他にもフィリピン人やブラジル人も参加していた。

調理に参加しながら、学習者さんと色々な話をする事ができた。遠い異国の地で母親として強く生きている中国人花嫁さん、研修生として切磋琢磨している人、皆それぞれに立場は違っても、この日本という国でそれぞれの人生を懸命に歩んでいた。そのひた向きな姿に私は思わず胸が一杯になった。私自身も海外での生活を経験したことがあるが、文化も言語も違う環境での生活は、決して容易ではない。時には、不安な気持ちを抱いたり、母国を恋しく思ったりすることもあるだろう。しかし、同じ立場の人が集まることにより、皆で思いを共有したり、助け合ったりでき、前向きになれる。このクリスマス会や、普段の日本語教室が彼らにとって心のオアシスになっていることが、彼らとの会話で垣間見えた。会は穏やかに進行し、皆で心を合わせて作った料理を食べた。作った料理以外にも参加者が持ち寄った各国の料理やおやつがテーブルに並んだ。初めて目にする食べ物もあり、心がワクワクした。「異文化への理解」「多文化共生」はこういうことから始まるのではないかと改めて感じた。考えてみると、私の異文化への理解はこのような好奇心から始まった。国籍や世代を超えて同じテーブルにつき、食事を頂くことは、それだけで連帯感が生まれ、意味があると思う。



その後、景品付きビンゴ大会に、カラオケ大会、絵本の読み聞かせ、会は様々な企画で進められた。会場は参加者の楽しげな声と笑顔で一杯になった。

## コラム5

せとマダン：瀬戸市にあるデイサービス（韓国）

1月14日、瀬戸市にある「せとマダン」を訪問した。扉を開けると、利用者の方々は元気いっぱい楽しく過ごしていた。日本語が通じるため、一見、日本人向けデイサービスと変わらないが、韓国の絵本があったり、文字の練習の手本が貼ってあったり、バックグラウンドが自分とはかなり異なることを感じた。マダンは韓国語で「場所」という意味で、他のところでも開いていたマダンを瀬戸でも開いたため、せとマダンという名前になったそうだ。



この日は5人のオモニ（韓国語で「お母さん」）と1人のアボジ（同「お父さん」）がせとマダンを利用していた。皆、人見知りしない方ばかりで、初めて訪れた私をととても暖かく迎えてくれた。挨拶もそこそこに、まずは塗り絵を手伝い、チマチョゴリを着た女の子や韓国式の駒を回す男の子を色鉛筆で塗った。塗り絵をしている最中は利用者の方々から子ども時代の話聞くことができたが、突然連れてこられて、こちらでは悪口を言われたり石を投げられたりしたとか、子どものころから毎日キムチを食べなければならなかったため今ではキムチが嫌いになったなど、苦い思い出が多かったように思う。

この日は5人のオモニ（韓国語で「お母さん」）と1人のアボジ（同「お父さん」）がせとマダンを利用していた。皆、人見知りしない方ばかりで、初めて訪れた私をととても暖かく迎えてくれた。挨拶もそこそこに、まずは塗り絵を手伝い、チマチョゴリを着た女の子や韓国式の駒を回す男の子を色鉛筆で塗った。塗り絵をしている最中は利用者の方々から子ども時代の話聞くことができたが、突然連れてこられて、こちらでは悪口を言われたり石を投げられたりしたとか、子どものころから毎日キムチを食べなければならなかったため今ではキムチが嫌いになったなど、苦い思い出が多かったように思う。

塗り絵の次は体操が始まった。韓国語の早口言葉や民謡などに合わせて簡単な体操をしたが、数の数え方も韓国語だったため、私は最初は少し戸惑った。その後、船乗りの民謡を歌ったり、楽しかったが、韓国語に慣れない私はついていくのに必死だった。

午後はレクリエーションを行った。簡単な踊りをしたり、じゃんけんゲームをしたりした。罰ゲームで一人のおばあさんが歌を歌わなければならなくなったが、とても楽しそうに歌っていた。慣例で私も一曲歌ったが、一緒に手拍子をしてくれ、とても喜ばれたようで安心した。最後におやつをもらい、挨拶をして利用者の方々は送迎、お別れとなった。また皆さんの顔を見に行きたいと思う。

## IV. 外国人コミュニティフェア 2011

### 1. 目的・イベント概要

本イベントは、外国人住民が中心となって活動している組織・団体（外国人コミュニティ）を、国際交流協会などの行政関係者、NGO 関係者、学生、ボランティアなど一般住民に広く紹介するものである。イベントを通じて、外国人コミュニティが、地域社会の国際化・多文化共生に取り組んでいる、関心のある人々とのつながり（ネットワーク）を形成すること、このネットワークを今後の活動のために活用してもらうことを目的としている。

本イベントでは、調査対象となった自助組織にご参加頂き、調査だけでは伝えることのできないより詳しい実態や、みなさんの「思い」を紹介して頂く場とした。午前中は出展団体のみ集まり、各団体が活動を行っていく上で抱えている課題、今後の計画などについて話し合う「意見交換会」を実施、午後の部は「外国人コミュニティフェア」と称して一般市民に参加して頂いた。

### 2. 出展団体

#### ●Illary del Peru（豊橋市；ペルー）

イベントなどを通じて、ペルーの民族舞踊や料理などを紹介することによって、ペルーの文化をひろく広めることを目的とした団体。地域でのイベント参加を通じて、多文化交流に貢献し、日本とペルーの架け橋になることを目指している。

#### ●華豊の友（豊田市；中国）

日中文化交流の架け橋として、交流の場を提供することを目的としている。イベントの開催、在日中国人向け相談、子ども向けの中国語講座を開催している。日中のパイプ役になること、在日外国人の社会貢献の意識づくり、子どもたちの意識形成を目指している。

#### ●NPO 法人コリアンネットあいち（北名古屋市；コリア）

在日コリアンとしての自分を大切にしながら、異文化をもつ人たちとともに生きることが目的とする。デイサービスセンターの運営、障がい者やその家族の交流会、ハングル語講座などの事業を実施しており、在日コリアンについてもっと多くの人に知ってもらうこと、違う事を認めながら人間としての深い友情を培える地域社会を作りたい、と願っている。

#### ●Nagoya Center For African Migrants（名古屋市；ウガンダ）

この団体の目的は、日アフリカ人が日本で暮らしやすくなるよう、日本の法律、社会、教育、保健に関する意識を高めることである。このような目的を達成するために、在日アフリカ人の相談に乗り、彼らが自らの問題が解決できるようにサポートし、またアフリカ人、日本人が交流できるイベントも実施している。

●ANBRT Associação Nipo-Brasileira de Toyota (豊田市；ブラジル)

日本在住の日系ブラジル人コミュニティの生活水準が向上し、周囲と積極的に交流できるようことを目的とし、様々な講演やセミナーを企画している。こうした事業を通じて、日本人・ブラジル人之间にある差別の壁を取り除き、多文化共生の推進を目指している。

●PECLA Programa Educativo del Círculo Latino Americano (豊川市；ペルー)

スペイン語・ポルトガル語を母語とする子どもたちの母語の習得と維持を助けるほか、ボランティア日本人講師による、日本の学校の補講を提供している。ほかにダンスワークショップも実施しており、日本人とラテンアメリカ人の架け橋となること、子供たちの教育レベルを向上させることを目指している。

### 3. 内容

●意見交換会 (午前の部) 10時～12時

上記の参加団体を2グループにわけ、各団体の活動紹介、活動を行うに当たっての悩み、今後の計画などについて話し合い、また互いに各団体に対して助言やコメントを提供した。

Aグループでは、活動資金調達について悩みを訴える団体が多くみられ、助成金について各団体から様々な情報が提供された。ディスカッションでは、広報やボランティアの確保について議論され、さらに母国の文化をどう継承するかについても話し合われた。

Bグループでは、活動を日本人に知ってもらうための方法について話し合われ、「日本人主催のイベントに参加する」などの意見が上がった。また、こちらにはオールドカマー外国人団体が参加していたため、オールドカマーが経験した問題や課題が、同じニューカマーにも起こっている事をメンバー同士で共有した。

●外国人コミュニティフェア2011 (午後の部) 13時～17時

午後の部は、1) 当団体による本事業の調査結果概要報告、2) 各団体の活動概要を参加者に伝える「出展団体プレゼンテーション」、3) 参加者と出展団体が交流する「フリータイム」、4) イベント参加者が出展団体と関わるきっかけを作るため、出展団体を応援す

る「フィードバック」、5) 各団体のパフォーマンス披露、各国の茶菓子が提供される「交流会」によって構成された。

スケジュールと各プログラムの詳細は以下。

#### ◆スケジュール

13:00～ 開会あいさつ

13:10～ 平成22年度多文化共生コミュニティ状況等実態調査事業調査結果概要報告

13:20～ 出展団体プレゼンテーション

14:20～ フリータイム

15:00～ フィードバックタイム

ボールを使ったゲーム（詳細は下記）

15:15～ 交流会

パフォーマンス（Hilary del Peru、PECLAによるダンスの披露）

お茶会（各国のお菓子を提供）

16:00～ 結果発表・コメント

16:30～ 閉会あいさつ

#### ◆「フィードバック」について

イベント参加者が出展団体と関わるきっかけを作るため、また出展団体を応援する意味もこめて、フィードバックでは次のようなゲームを実施した。

参加者全員に3色のボールを配布した。「もっと団体について知りたい」と思った団体には赤のボールを、「会員になりたい、寄付をしたい」と思った団体には緑のボールを、「一緒に活動したい」と思った団体には青のボールを、それぞれの団体の名前を付した箱に入れてもらい、ボールの数を集計して結果発表として発表した。投票と同時に、会場に備え付けのカードに、各団体へのメッセージも記入してもらった。

## 4. 実施状況

### ●参加者数

イベント参加者数：54名      出展団体：6団体（団体概要は上記2）

## ●参加者の声

<出展団体向けアンケート結果から>

イベントはいかがでしたか？

とてもよかった：4団体、まあまあよかった：1団体（1団体は無回答）

<感想>

- ・意見交換や自分の団体に対する不安も交換が出来たので良かったです。
- ・他の団体との交流ができた事が大変良かったです。
- ・あっという間に時間が過ぎました。

## 2. プログラムはいかがでしたか？

### ①意見交換会

とてもよかった：4団体、まあまあよかった：1団体（1団体は無回答）

**感想**

・各団体の事が知ることができたこと、かなりつまんだ内容の交流ができてとても良かったです。（コリアンネットあいち）

### ②ゲーム・交流会

とてもよかった：4団体、まあまあよかった：1団体（1団体は無回答）

**感想**

- ・個人的に評価がなくてもいいと思いました…
- ・自分たちの働きについてもっと知る事ができました。
- ・子供たちのパフォーマンスとても可愛くて、感心しました。

## 3. ほかにご意見・ご感想等があればお聞かせ下さい。

- ・横のつながりができるようなネットワークをしてください。期待しています。
- ・午前の意見交換会は内容も充実していて良かったです。各団体のマイノリティとしての悩みを知って、共通の想いを確認でき、課題も共通部分が多いことを知り、良かったです。こういう場が県への窓口になっていくといいですね。



<参加者向けアンケート結果から>

### 1. 参加されたプログラムはいかがでしたか？

#### ①フリータイム・フィードバックタイム

\*とても良かった：5人

##### 感想

- ・時間内に全団体の話をきくのができませんでした。
- ・コリアンネットあいちのチョゴリを試着できてうれしかった。
- ・ちょっと時間が短く感じている。

まあまあ良かった：5人

##### 感想

- ・自由時間に自分の気になることを活動団体に聞く事ができてよかった。それぞれの団体の活動を知ることができた。
- ・ダンスはフェアの最初の方にもってくれば、雰囲気づくりにつながると思います。
- ・地道な活動になると思いますが、草の根的広がっていけばいいですね。
- ・はじめて参加したので、雰囲気がよくわからなかった。

\*どちらともいえない 1人

##### 感想

- ・団体の自己紹介でどんな目的があるか、聞いていなかったです。国際化につなげるためにもっとリソースが必要だと思います。

#### ②交流タイム

\*とても良かった 5人

##### 感想

- ・もっと時間が欲しかったです
- ・団体それぞれに特徴があり、こうした団体が一同の会することに大きな意義があると思いました。

\*まあまあ良かった 5人

##### 感想

- ・目で見えて楽しむダンスを通して、楽しい時間を共有できた。実際にふれて、楽しむこと良いと思いました

・ダンスは良かったが、何のダンスか説明あるともっと良かった。

\* どちらともいえない 1人

### **感想**

意見交換会がとても短かったです

## **2. その他、ご意見・ご感想などがあればお聞かせ下さい。**

- ・すごく良かったと思います。初めて聞いた団体がほとんどでした。
- ・コミュニティ同士の結びつけは、難しい面もありますが、担い手を「つなぐ」こうした取組は必要だと思います。参考にさせていただきます、ありがとうございました。
- ・今後のイベントへ参加を希望しますが、もっと明確化して下さい。
- ・規模がちょっと小さいと思います。より多くの団体、来客に参加していただきました。
- ・各国の民族ダンスを見て、とても楽しかったので、今回のイベントに参加させていただいて、良かったと思います。いろいろありがとうございました。
- ・若い世代の立場から異文化体験または、他の文化にもっと興味を持ってもらえるようにするためには、「旅行」というテーマからならしたしみやすいと思いました。とてもいい刺激になりました。

## V. まとめ

今回の調査を通して、下記のことがわかった。

### 【飲食店・販売店】

- ・「店の認知度が低い」「従業員等の人材が不足している」「日本語ができない」を課題とする店が多かった。
- ・どの店も、人の交流やストレス発散、楽しみ・生活相談等さまざまな存在意義があると答えた。
- ・ホームページを持っている店が比較的少ない。
- ・日本人のお客さんを増やしたいと考えている店が多く、そのために2カ国語話せる質の高い従業員を募集している。
- ・地域と良い関係を築きたい、よい関係を保っていると回答する店が多かった。
- ・地域との交流には地域の情報を収集できることが不可欠である。
- ・友人の口コミで情報を発信している店が多く、いかに口コミで宣伝できるかがお店の存続に大きな影響を与えている。
- ・お客さんと良好な関係を築けていること、よい友人・知人がいること店は比較的経営がうまくいっている。
- ・日本人のお客さんが多いところは不況の影響が小さかった。
- ・経営者がコロコロ変わることで、お客さんから信頼を得ることが難しいと回答する店が複数あった。
- ・店のオープン当初、税金の手続きが大変だったと回答した店が複数あった。

### 【自助組織】

- ・「資金不足」「人材不足」を課題だと回答する団体が多かった。
- ・自国もしくは日本文化を紹介している団体が多かった。
- ・日本人や地域とのつながりをもちたいと考えている団体が多かった。
- ・口コミによる情報発信がもっとも多かった。

### 【教育施設】

- ・「日本人の利用を増やしたい」と考えている学校が多かった。

- ・他のカテゴリーとは異なり、「口コミ」よりも「インターネット」で情報を発信している学校が多かった。
- ・地域と良好な関係を築いている学校が多かった。
- ・財政面で苦勞している学校が多く、そのために利用者を増やしたいと考えている。

#### 【宗教施設】

- ・地域社会とのつながりをもっている施設が他のカテゴリーに比べて少なかった。
- ・「インターネット」及び「口コミ」が主な情報源である。
- ・他のカテゴリーに比べ「ホームページ」をもっている施設が多かった。

#### 【娯楽・教養施設】

- ・「日本人利用者との関係」を課題にあげる施設が多かった。
- ・地域のお祭り等に参加したことのある団体が約8割、今後参加したいと考えている施設を含めると9割が地域社会とのつながりをもちたいと考えている。
- ・「日本人の利用者」を増やしたいと考えている団体が多かった。

#### 【その他】

- ・「施設の認知度が低い」と考えている団体が多かった。
- ・日本人に団体の存在を知ってもらいたいと考えている団体が多かった。

上記より、全体に「日本人の利用を増やしたい」「地域とのつながりをもちたい」と考えている外国人コミュニティが多かった。一方で個々のコミュニティの認知度は低く、主な情報発信源は同胞への口コミであることから、日本人を対象に啓発資料等を通じて、コミュニティの認知度を高めていく必要があると考える。

そこで本事業では、日本人県民に県内で活躍する外国人コミュニティの存在を知り、関わりをもってもらうためのツールとして、『あいち多文化まっぷ』（資料最終頁参照）を作成した。調査対象のうち、掲載許可を得た86の外国人コミュニティを地図上に示すとともに所在地等を一覧にまとめた。これを県及び各地域の自治体や国際交流協会のwebサイトにアップしたり、印刷したものを配布するなど、さまざまな形での活用を検討したい。